

戸田市政策研究所アンケート調査業務委託

戸田市人口移動実態調査 成果報告書

平成 23 年 3 月

戸田市

目 次

第 1 部 本調査の概要	1
I. 調査の目的	1
II. 調査の方法と実施時期	1
III. 調査対象と標本数の算定	1
IV. 調査票の回収状況	2
V. 調査票の内容	2
第 2 部 本調査の結果と考察（転出者）	3
調査結果の要旨	3
I. 転出者の現住所と前住所	5
II. 転出前後の世帯構成等について	8
III. 転出の原因となった方について	9
IV. 転出の理由について	14
V. 居住地選択の理由について	16
VI. 現在お住まいの市区町村への定住意向について	18
VII. 戸田市への帰還意向等について	19
VIII. 転出前後の住宅の所有関係等について	24
第 3 部 本調査の結果と考察（転入者）	27
調査結果の要旨	27
I. 転入者の現住所と前住所	29
II. 転入前後の世帯構成等について	31
III. 転入の原因となった方について	32
IV. 転入の理由について	38
V. 居住地選択の候補地について	39
VI. 居住地選択の理由について	41
VII. 戸田市への定住意向について	45
VIII. 転入前後の住宅の所有関係等について	45

第4部	クロス集計の結果と考察（転出者）	49
	集計結果の要旨	49
	Ⅰ. 前住所と各要素のクロス集計	50
	Ⅱ. 現住所と各要素のクロス集計	55
	Ⅲ. 転出前後の住宅に関するクロス集計	63
第5部	クロス集計の結果と考察（転入者）	71
	集計結果の要旨	71
	Ⅰ. 前住所と各要素のクロス集計	72
	Ⅱ. 現住所と各要素のクロス集計	74
	Ⅲ. 転入前後の住宅に関するクロス集計	79

資料 戸田市人口移動実態調査票 転出用／転入用

第1部 本調査の概要

I. 調査の目的

地方分権改革がますます進展しつつある今日、地方自治体は自らの判断でその進むべき方向性や政策を決定していくことが求められている。戸田市は2007（平成19）年に日本経済新聞社による「サステナブル都市調査」で全国3位にランキングされ、「持続可能な都市」として高評価を得た。その一方で、今後戸田市が持続的な発展を目指すためには、市民や社会のニーズに合致した政策を積極的に打ち出していく必要がある。

本調査の目的は、戸田市へ転入した市民、戸田市から転出した市民の意識を調査することで、戸田市が現在抱える問題や課題を洗い出し、それを把握して、政策研究の基礎資料を収集することである。

II. 調査の方法と実施時期

調査の方法は、報告書の最後に「資料」として掲載している「戸田市人口移動実態調査票 転出用／転入用」を用いた郵送調査法にもとづく標本調査である。調査票の郵送は2010（平成22）年10月4日に実施し、2010年（平成22）年11月1日に回収を締め切った。さらに、その1週間前である10月25日には、調査対象者に「督促はがき」の送付を行った。

III. 調査対象と標本数の算定

本調査の調査対象は、平成21年度に戸田市へ転入した市民（18歳以上）から無作為抽出した900名と、同年度に戸田市から転出した市民（18歳以上）から無作為抽出した900名の計1,800名に調査票を送付した。これらを抽出する際には、2010（平成22）年6月1日の住民基本台帳データを利用した。

標本数については、下記の「有限母集団における標本数の決定」および回収率を参照しながら算定した。標本数算定の前提条件として、平成21年度における戸田市への転入者は10,494名であり、同年度の戸田市からの転出者は8,960名である。

■有限母集団における標本数の決定方法

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{k}\right)^2 \frac{(N-1)}{P(1-P)} + 1}$$

N ：母集団の大きさ

ε ：要求精度¹

P ：母比率²

k ：係数³

n ：標本数

回収率：45%

¹ 通常、標本比率につける誤差の幅は0.05である。

² 予測できない場合は、通常、50%（0.5）である。

³ 「信頼度（ α ）=95%」に対応する標準正規分布であり、1.96となる。

信頼度 95%、標本誤差を 5%とした場合、転入者 10,494 名、転出者 8,960 名に対するそれぞれの標本数は、下記のように転入者の場合が 371、転出者の場合が 368 となった。

■転入者の標本数の算定

$$\frac{10,494}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \frac{(10,494 - 1)}{50(100 - 50)} + 1} = 370.62$$

$$\approx 371 \text{ (標本)}$$

■転出者の標本数の算定

$$\frac{8,960}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \frac{(8,960 - 1)}{50(100 - 50)} + 1} = 368.40$$

$$\approx 368 \text{ (標本)}$$

ただし、この標本数は回収率によって左右されるため、理論的な回収率を 45%と設定し、標本数は、転入者が 824、転出者が 819 と算定された。本調査では、より多くの調査票を回収するために、それらの算定値よりも多い 900 票を標本数として、転出者、転入者それぞれに郵送した。

IV. 調査票の回収状況

上述のように、本調査の調査対象は転出者、転入者それぞれ 900 名の計 1,800 名である。調査票は転出者から 352 票 (回収率 39.1%)、転入者から 412 票 (回収率 45.8%) をそれぞれ回収することができた。調査票の回答状況としては、A3 版裏表 1 枚の調査票で、全設問無回答といった「白紙」での回答は見られず、回収されたすべての調査票を有効票として分析対象とした。

V. 調査票の内容

先に述べたように、調査票は転出用と転入用があり、その設問内容は以下のようになっている。

転出用	転入用
I. 転出者の現住所と前住所	I. 転入者の現住所と前住所
II. 移動前後の世帯構成等について	II. 移動前後の世帯構成等について
III. 移動の原因となった方について	III. 移動の原因となった方について
IV. 移動の理由について	IV. 移動の理由について
V. 居住地選択の理由について	V. 居住地選択の候補地について
VI. 現在お住まいの市区町村への定住意向について	VI. 居住地選択の理由について
VII. 戸田市への帰還意向等について	VII. 戸田市への定住意向について
VIII. 移動前後の住宅の所有関係等について	VIII. 移動前後の住宅の所有関係等について

第2部 本調査の結果と考察（転出者）

調査結果の要旨

- ・ 戸田市からの転出者について、圧倒的に多かったのが「埼玉県」で、全体の37.5%を占め、次いで、「東京都」が18.5%であり、これらで全体の56.0%を占める。
- ・ さらに、埼玉県への転出者では、「さいたま市」への転出者が最多で、県内における転出先全体の42.4%を占め、次いで、「川口市」、「蕨市」と続く。いずれも戸田市に隣接する市への転出が顕著である。同様に東京都では「板橋区」と「北区」、「練馬区」と続き、これらで全体の35.4%を占める。
- ・ 戸田市からの転出者の前住所について、最も多かったのが、「大字新曽」の16.5%であり、次いで、「本町」と「上戸田」が11.9%と続く。
- ・ 転出時の世帯構成について、「二世帯同居」が最多であり、全体の38.1%を占める。次いで、「ひとり世帯」が32.1%、「夫婦のみ」が19.3%である。一方、転出後の世帯構成についても、「二世帯同居」が最多であり、全体の35.5%を占め、次いで、「夫婦のみ」が25.0%、「ひとり世帯」が24.1%となっている。票数では戸田市からの転出後に「夫婦のみ」の回答が20票増加している。
- ・ 転出の原因となった方について、全体の7割以上が「世帯主」であり、転出の原因となった方の性別についても、67.6%が「男性」である。
- ・ 転出の原因となった方の年齢について、最多が「25～29歳」で、全体の20.7%を占め、それに次いで「30～34歳」と「35～39歳」の両方が17.3%と続く。これら25～39歳まで年齢が全体の55.4%を占める。
- ・ 転出の原因となった方の職業について、最も多かったのが「事務・技術職」であり、全体の35.5%を占める。
- ・ 転出者の現在の通勤・通学場所について、「東京都」が全体の33.9%を占め、次いで、「埼玉県」が20.1%であった。
- ・ その内訳として、東京都では、「渋谷区」の12.9%が最多であり、次いで、「港区」が11.8%、「新宿区」が10.8%であった。また、東京23区への通勤・通学はあわせて91.4%にのぼった。埼玉県では、「さいたま市」が最多で、34.5%を占め、次いで、「戸田市」が21.8%であった。「さいたま市」と「戸田市」で全体の5割以上を占めている。
- ・ 戸田市での居住期間について、「1～3年未満」が最多で、全体の28.1%を占める。それに次いで、「1年未満」と「3～5年未満」が、どちらも15.3%であり、5年未満までの比較的短い居住期間が全体の約6割を占める。
- ・ 転出のきっかけとなった理由については、「転勤」が最多で、全体の19.9%を占め、次いで、「住宅事情」が18.2%、「結婚」が11.4%と続く。これらで全体の5割近くを占める。
- ・ 現住所を選じた理由について、最も多かったのが「通勤・通学が便利」であり、全体の33.5%を占めた。次いで、「予め住居が用意」が14.5%であり、「親等親族の居住

地から近い」が 13.6%と続く。これらで全体の 6 割以上を占める。居住地を選ぶ際には、通勤や通学に便利な場所を選択するということが改めて確認された。

- ・ 現住所への定住意向について、「できれば住み続けたい」が 29.0%、「ぜひ住み続けたい」が 24.7%を占め、現住所に住み続けたいという回答が全体の 5 割以上となった。
- ・ その一方で、戸田市への帰還意向について、全体の 47.4%が「どちらかといえば戻りたい」であり、「ぜひ戻りたい」も 13.6%であり、全体の 6 割以上が戸田市への帰還意向を持っていることが明らかになった。
- ・ 戸田市への帰還意向の理由について、最多は「通勤・通学が便利」であり、全体の 20.0%を占める。次に「日常生活が便利」が 18.6%、「広域公共交通の高利便性」が 12.6%で、これらで 5 割強となり、これらの回答から、戸田市は通勤・通学や日常的な買い物が便利であるということが明らかになった。
- ・ 戸田市への帰還意向がない理由について、「通勤・通学が便利」が 16.3%であり、「その他」が 14.7%、「親族の居住地から近い」が 11.6%、「予め住居が用意」が 10.1%と続いた。やはり通勤・通学の便利さを挙げる回答が多く、転居の際には、その家族の通勤・通学の利便性を非常に重視するということが判断できる。
- ・ 転出前の住宅の所有関係について、「民間の借家（アパート等）」が最多の 56.8%を占め、次に「給与住宅」が 16.2%と続く。さらに、転出後の住宅の所有関係についても、「民間の借家（アパート等）」40.1%で最多であり、次いで、「持家（一戸建）」が 26.4%、「給与住宅」が 11.1%、「持家（分譲マンション）」が 10.5%と続く。
- ・ 転出前後の住宅の所有関係において、いずれも最も多かったのが「民間の借家（アパート等）」だったが、それは転出後に 50 票以上減少した。その一方で、転出前には 28 票しかなかった「持家（一戸建）」の回答が、転出後には 3 倍以上に増加しており、戸田市からの転出後に「借家」から「持家」に住み替える動きがあることがうかがえる。
- ・ 転出前の住宅の床面積について、最も多かったのが「40～60 m²未満」であり、全体の 26.4%を占める。次いで、「60～80 m²未満」が 23.3%、「20～40 m²未満」が 22.2%と続く。これらが全体の 7 割強を占める。
- ・ 一方、転出後の住宅の床面積については、「40～60 m²未満」が最多であり、全体の 21.9%を占める。次いで、「60～80 m²未満」が 19.6%であり、「20～40 m²未満」が 16.5%と続く。
- ・ 転出前後の住宅の床面積について、上位 3 の順位は同じである。ただし、4 位以降は転出前後では異なる。4 位の「100～120 m²未満」は 5 票から 37 票に激増し、5 位の「80～100 m²未満」は 26 票から 35 票へ増加している。また、「160 m²以上」も 5 票から 19 票に増加している。一方、「20 m²未満」は 35 票から 18 票に減少している。
- ・ これらから戸田市からの転出後に住宅の床面積が増加することが指摘できる。また、このような結果は、上述の住宅の所有関係でも示された、借家から持ち家への住み替えの動きとも関連しよう。

I. 転出者の現住所と前住所

問 0-1 現住所

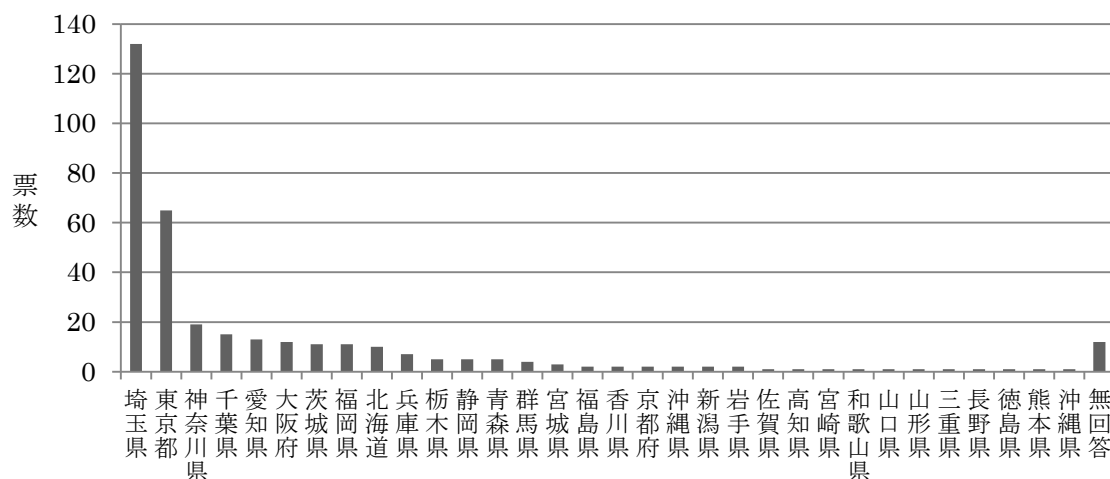


図1 転出者の現住所

戸田市からの転出者について、圧倒的に多かったのが「埼玉県」で、132票であり、全体の37.5%を占める。次いで、「東京都」が65票（18.5%）であり、これらで全体の56.0%を占める。続いて、「神奈川県」が19票、「千葉県」が15票、「愛知県」が13票と続き、これらが上位5の都道府県である。これらの結果から分かるように、戸田市からの転出者は埼玉県内を転出先として選択しているほか、隣接する東京都への転出がそれに次いで多い。

それでは、転出者は埼玉県と東京都のどの市区町村に居住しているのでしょうか。下記の図2で示したように、埼玉県内では、「さいたま市」への転出者が56票と群を抜いて多く、埼玉県内における転出先全体の42.4%を占める。次いで、「川口市」が21票、「蕨市」が15票であり、いずれも戸田市に隣接する市への転出が顕著である。

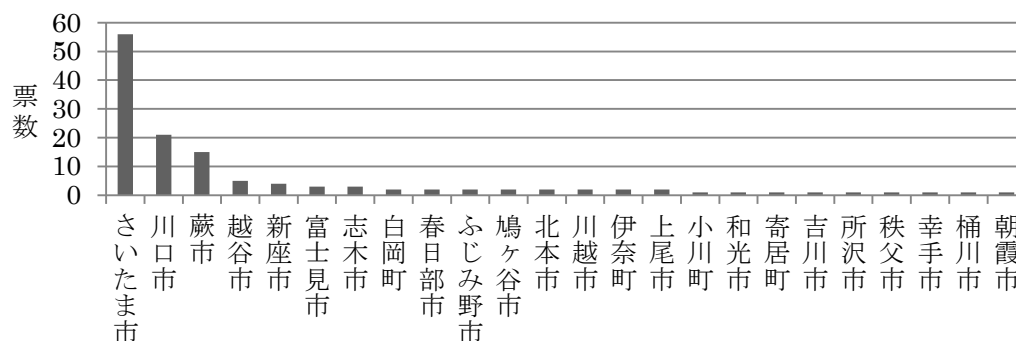


図2 転出者の現住所（埼玉県内）

さらに、さいたま市に転出した転出者の現住所は、「南区」が14票で、全体の24.6%を占め、「中央区」が8票（14.3%）、「桜区」が7票（12.3%）と続き、これらで5割強を占める。「南区」は戸田市に隣接しており、その西隣の「桜区」、「中央区」への転出が多いことがわかる。

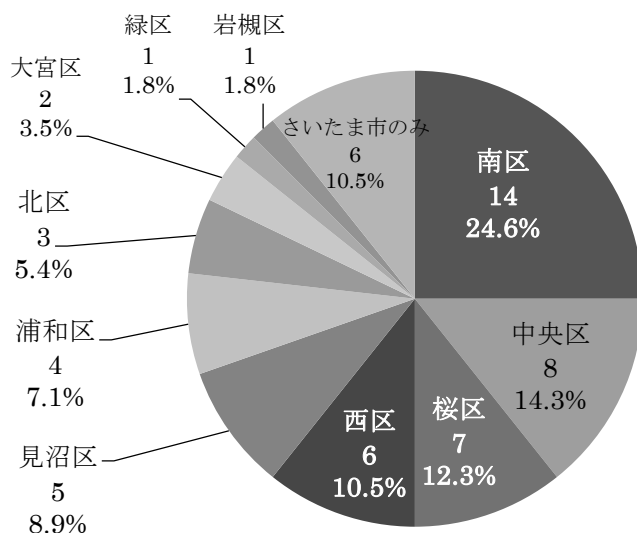


図 2-1 転出者の現住所（さいたま市内）

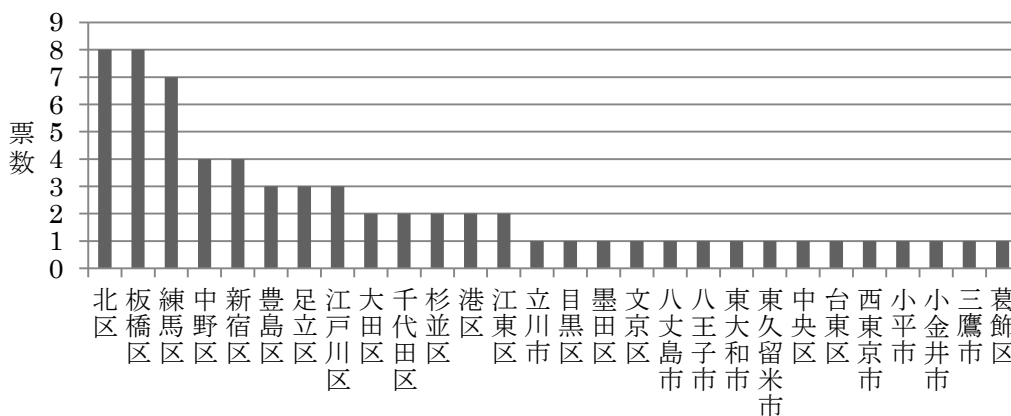


図 3 転出者の現住所（東京都内）

図 3 によると、東京都では「板橋区」と「北区」がどちらも8票であり、それに次いで「練馬区」が7票となっている。これらで全体の35.4%を占める。「板橋区」は荒川を挟んで戸田市の南に位置し、「北区」は「板橋区」の東に位置する。戸田市から最も近い区への転出が最多となっている。

問 0-2 前住所

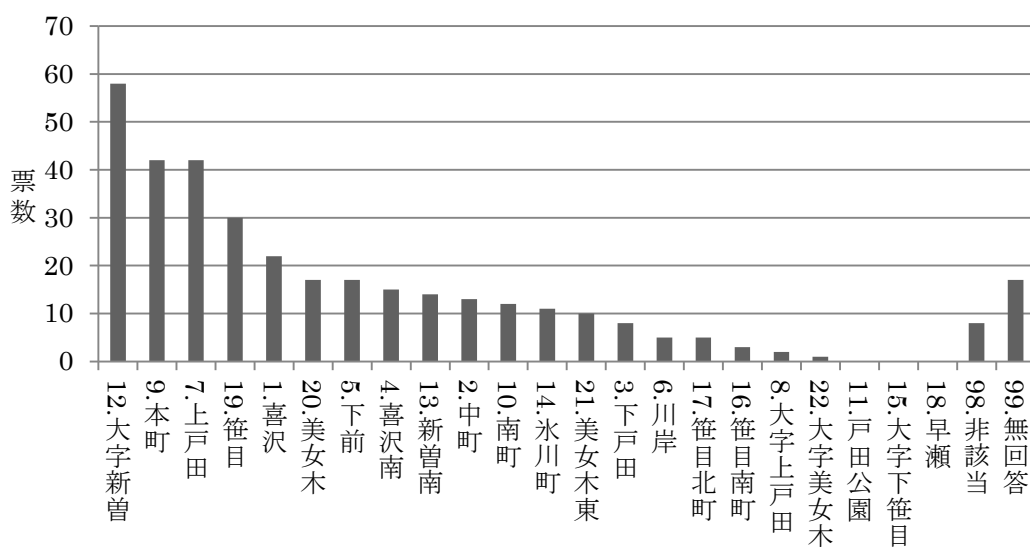


図 4 転出者の前住所

図 4 は、戸田市からの転出者の前住所について示している。最も多かったのが、「大字新曾」の 58 票であり、全体の 16.5% を占める。それに次いで、「本町」が 42 票 (11.9%)、「上戸田」が 42 票 (11.9%)、「笹目」が 30 票 (8.5%)、「喜沢」が 22 票 (6.3%) と続く。

「大字新曾」は JR 埼京線の戸田駅、北戸田駅に近く、「本町」は JR 埼京線の戸田公園駅に近い。さらに、「上戸田」は大字新曾と上戸田の間に位置する地区である。

Ⅱ. 転出前後の世帯構成等について

問 1-1 転出前後の世帯構成についてお尋ねします。

図 5 と図 6 について、以下で比較しながら分析する。

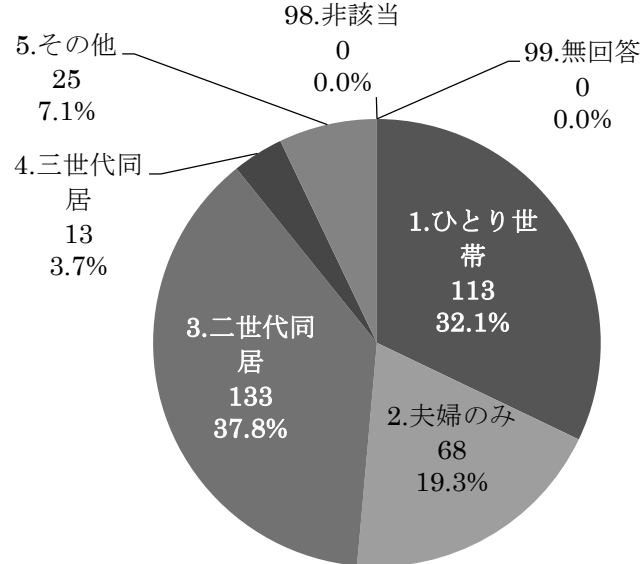


図 5 転出時の世帯構成

図 5 によると、転出時の世帯構成について、最も多かったのが「二世世代同居」であり、133 票で全体の 37.8% を占める。次いで、「ひとり世帯」が 113 票（32.1%）であり、「夫婦のみ」が 68 票で 19.3% を占める。戸田市からの転出後の世帯構成については、以下の図 6 で示す。

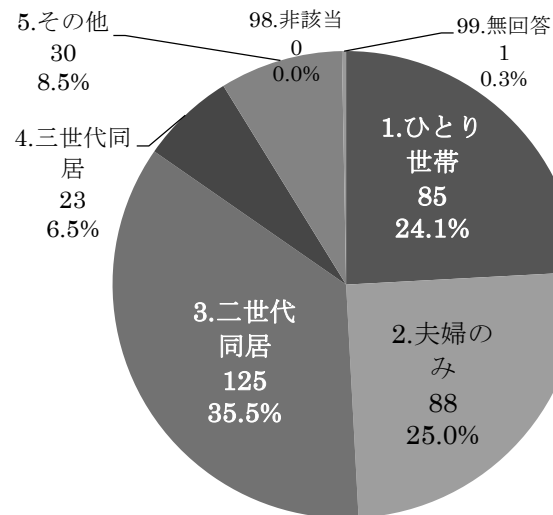


図 6 転出後の世帯構成

図6によると、転出後の世帯構成について、最も多かったのは、図5と同様に「二世帯同居」であり、125票で全体の35.5%を占める。それに次いで、「夫婦のみ」が88票(25.0%)、「ひとり世帯」が85票(24.1%)となっている。図5と比較すると、戸田市からの転出の前後で、「夫婦のみ」の回答が20票増加していることが分かる。

Ⅲ. 転出の原因となった方について

問2-1 今回移動された方のうち、移動の最も大きな原因となった方はどなたですか？

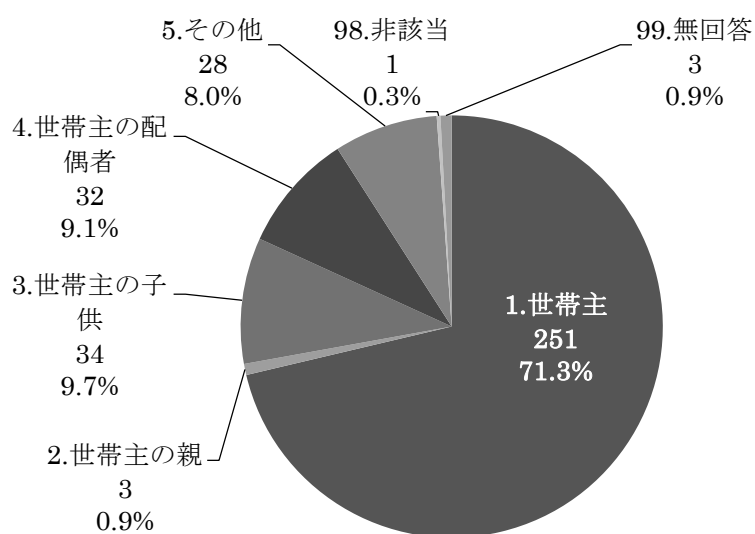


図7 転出の原因となった方

図7の転出の原因となった方について、全体の7割以上の251票が「世帯主」である。次いで、「世帯主の子供」が34票(9.7%)で、「世帯主の配偶者」が32票(9.1%)と続く。

問2-2 問2-1で移動の最も大きな原因となった方の移動時の年齢についてお尋ねします。

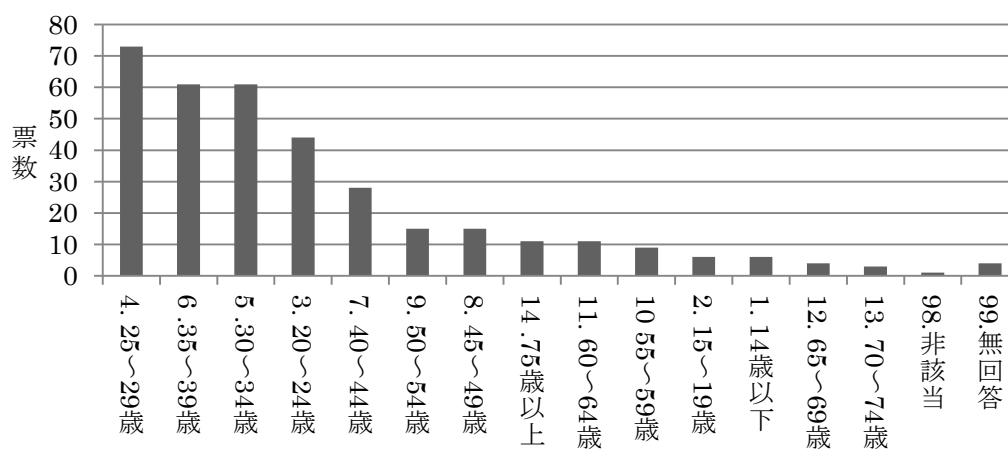


図8 転出時の年齢

図8の転出の原因となった方の年齢について、最も多かったのが「25～29歳」の73票（20.7%）であり、それに次いで「30～34歳」と「35～39歳」の両方が61票（17.3%）と続く。これら25～39歳まで年齢が、全体の55.4%を占める。

問2-3 問2-1で移動の最も大きな原因になった方の性別についてお尋ねします。

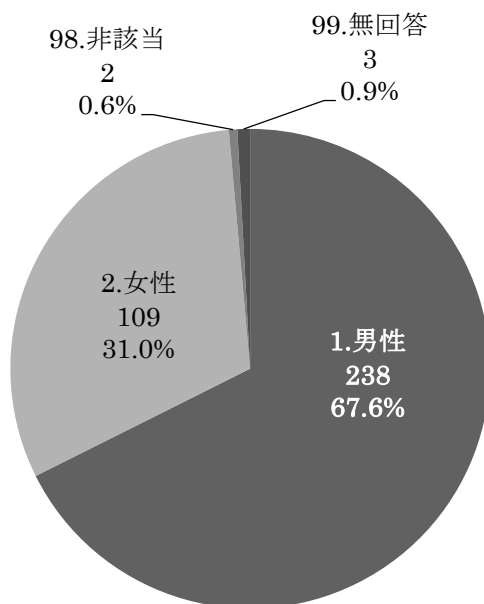


図9 転出の原因となった方の性別

図9は、転出の原因となった方の性別について示している。7割近くが「男性」であり、238票（67.6%）である。「女性」は109票（31.0%）である。

問2-4 問2-1で移動の最も大きな原因となった方の職業についてお尋ねします。

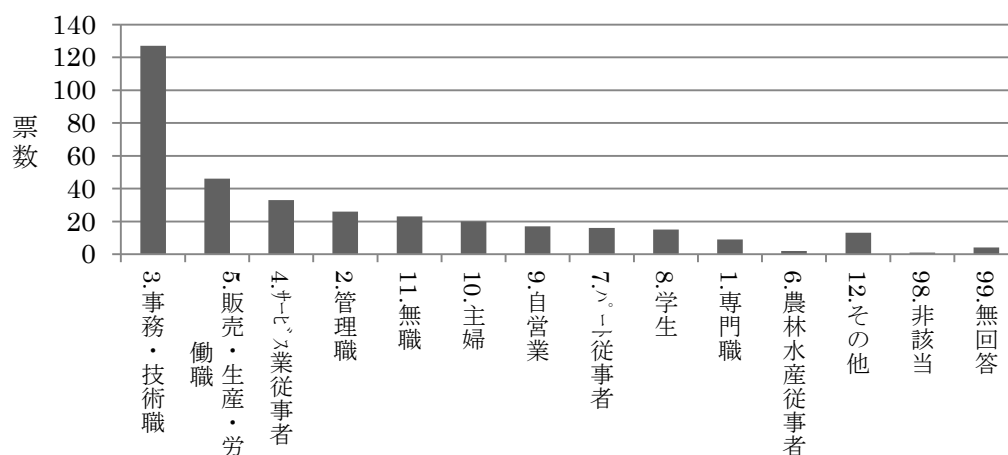


図10 転出の原因となった方の職業

図 12 は、転出者の東京都における現在の通勤・通学場所について示している。最も多かったのが「渋谷区」の 12 票 (12.9%) であり、次いで、「港区」が 11 票 (11.8%)、「新宿区」が 10 票 (10.8%)、「千代田区」が 9 票 (9.7%)、「北区」が 8 票 (8.6%) と続く。また、東京 23 区への通勤・通学はあわせて 85 票 (91.4%) となり、転出者の大半が 23 区内に通勤・通学することが確認できた。

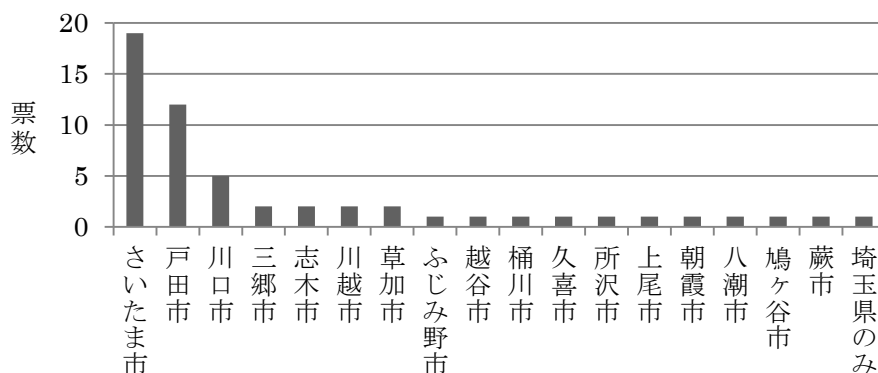


図 13 現在の通勤・通学場所 (埼玉県内)

図 13 は、転出者の埼玉県における現在の通勤・通学場所について示している。もっとも多かったのが「さいたま市」の 19 票 (34.5%) であり、次いで、「戸田市」が 12 票 (21.8%)、「川口市」が 5 票 (9.1%) と続く。「さいたま市」と「戸田市」で全体の 5 割以上を占めていることが分かる。

問 2-6 問 2-1 で移動のもっとも大きな原因となった方は、戸田市には何年お住まいでしたか？

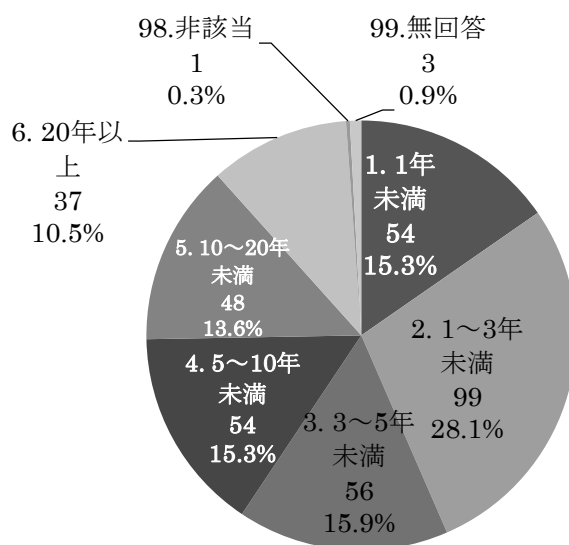


図 14 戸田市での居住期間

図 14 の戸田市での居住期間について、最も多かったのが「1～3年未満」であり、99 票で全体の 28.1%を占める。それに次いで、「3～5年未満」が 56 票（15.9%）、「1年未満」が 54 票（15.3%）と続き、5年未満までの比較的短い居住期間が、全体の約 6 割を占める。

問 2-7 問 2-1 で移動の最大の原因になった方は、現在お住まいの市町村には以前にも住んでいたことがありますか。

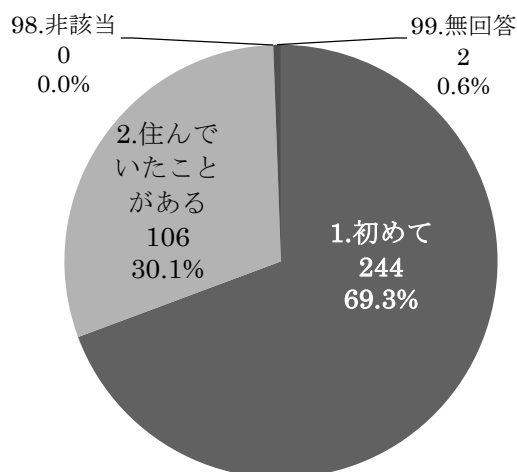


図 15 現住所での居住歴

図 15 の現住所での居住歴について、7 割近くが「初めて」であり、244 票（69.3%）である。戸田市からの転出先に初めて居住するということが確認できる。一方、「住んでいたことがある」という回答は 106 票（30.1%）である。その居住期間は、下記の図 16 で示す。

問 2-8 問 2-7 で「2.住んでいたことがある」と答えた方に伺います。以前には何年お住まいでしたか。

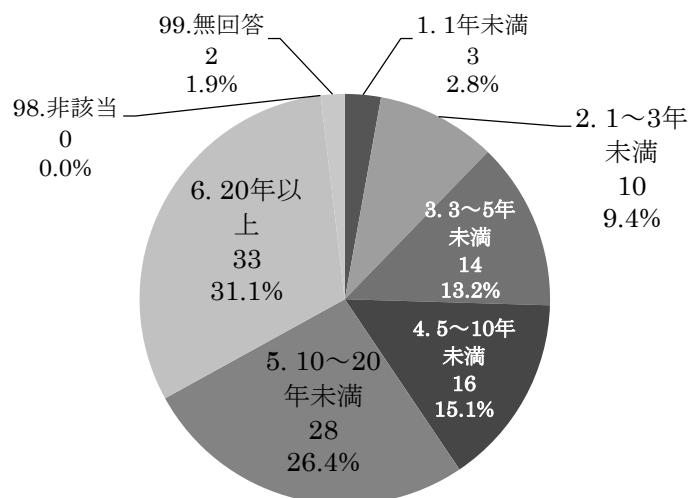


図 16 現住所におけるかつての居住期間

図 16 は、現住所におけるかつての居住期間について示している。最も多かったのが「20 年以上」であり、33 票（33.1%）である。次いで、「10～20 年未満」が 28 票（26.4%）であり、「5～10 年未満」が 16 票（15.1%）と続く。

転出先である現住所に、かつて 10 年以上居住したことがあるという回答が、全体の 6 割近くにのぼることが分かる。

IV. 転出の理由について

問 3-1 移動のきっかけとなった理由を下記（1～18）の中から選んで番号を記入してください。※第 2 理由についてはある方のみで結構です。

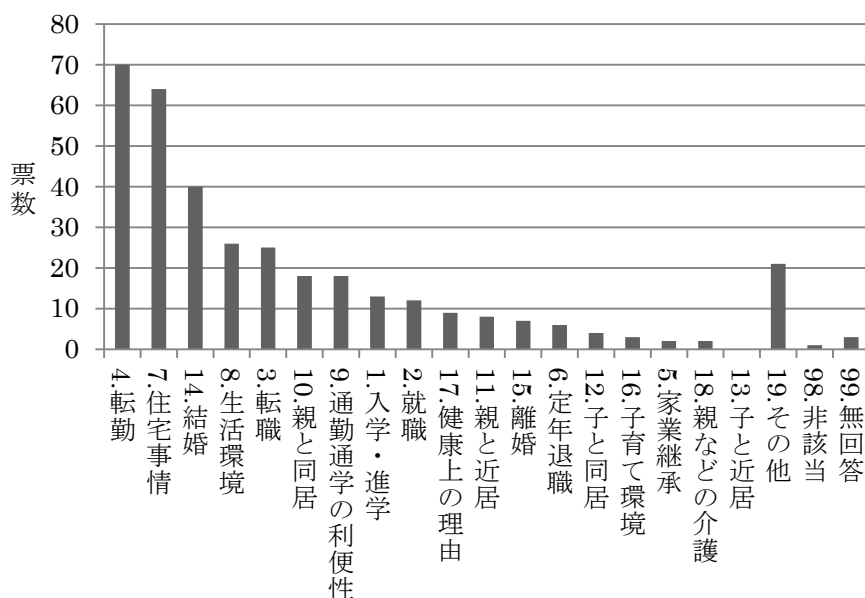


図 17 転出のきっかけとなった理由（第 1 理由）

図 17 は、転出のきっかけとなった理由（第 1 理由）について示している。最も多かったのが「転勤」であり、70 票（19.9%）である。次いで、「住宅事情」が 64 票（18.2%）であり、「結婚」が 40 票（11.4%）と続く。これらで全体の 5 割近くを占める。また、「その他」も 21 票（6.0%）あり、「会社の都合で移動することになった」、「失業」、「長期海外出張のため」といった、職業に関する自由記述がみられたほか、「出産準備と夫の暴力的なことから逃れるため」、「別居」、「子の離婚」といった家庭問題に関する自由記述も散見された。

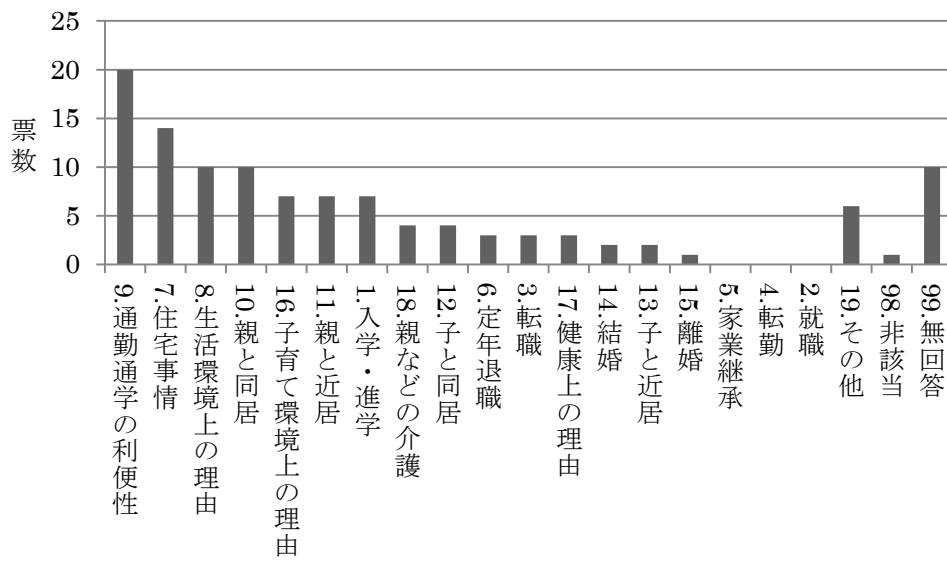


図 18 転出のきっかけとなった理由（第 2 理由）

図 18 は、転出のきっかけとなった理由（第 2 理由）について示している。最も多かったのが「通勤通学の利便性」の 20 票であり、次いで、「住宅事情」が 14 票であり、「生活環境」に関する理由と「親と同居」、「無回答」が 10 票と続く。

V. 居住地選択の理由について

問 4-1 居住地として現在お住まいの市区町村を選択した理由をお尋ねします。

次の項目（1～20）から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。

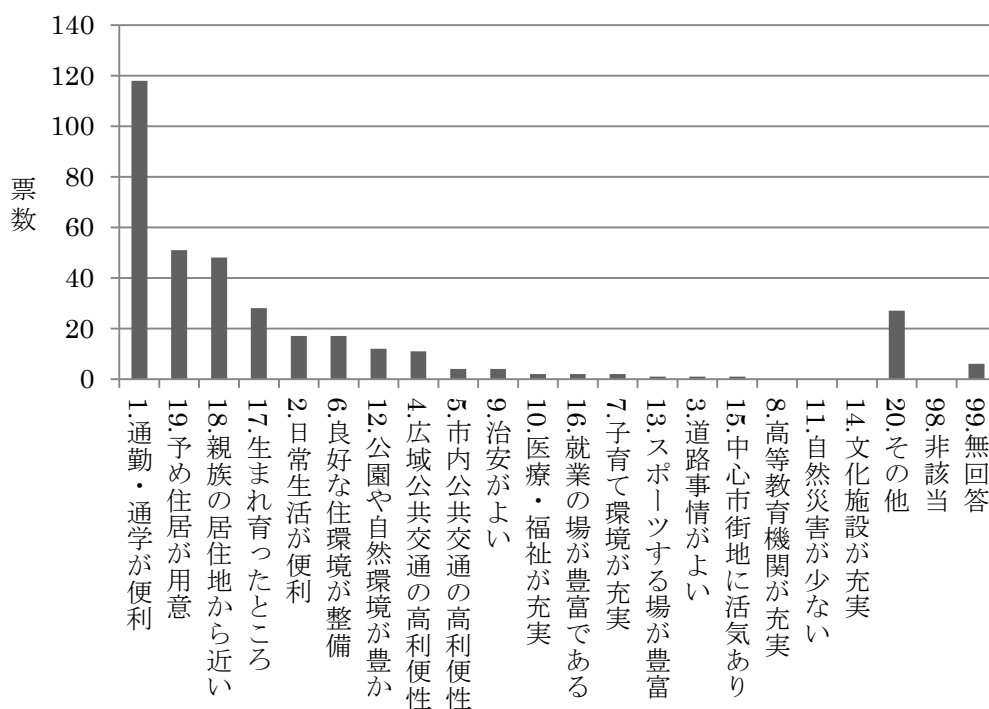


図 19 現住所を選択した理由（第1理由）

図 19 の現住所を選択した理由（第1理由）について、群を抜いて多かったのが「通勤・通学が便利」であり、118票（33.5%）であった。次いで、「予め住居が用意」が51票（14.5%）であり、「親等親族の居住地から近い」が48票（13.6%）と続く。これらで全体の6割以上を占める。居住地を選ぶ際には、通勤や通学に便利な場所を選択するということが改めて確認された。

また、「20.その他」が27票（7.7%）あり、「家賃が安い」、「住宅を購入した。価格が適切だった」、「通勤の範囲内であり、駅周辺の賃貸物件が安かったため」、「家を購入するにあたり、選択範囲内だったため」、「坪単価が安いから」、「家賃が安く、新しく発展しそうな町になると思った」というような家賃や土地購入価格に関する自由記述が目立った。さらには、「実家」、「実家に近い」、「実家の親の介護の為」、「親の居住地だから」という実家、あるいは親を理由に挙げる自由記述も見られた。

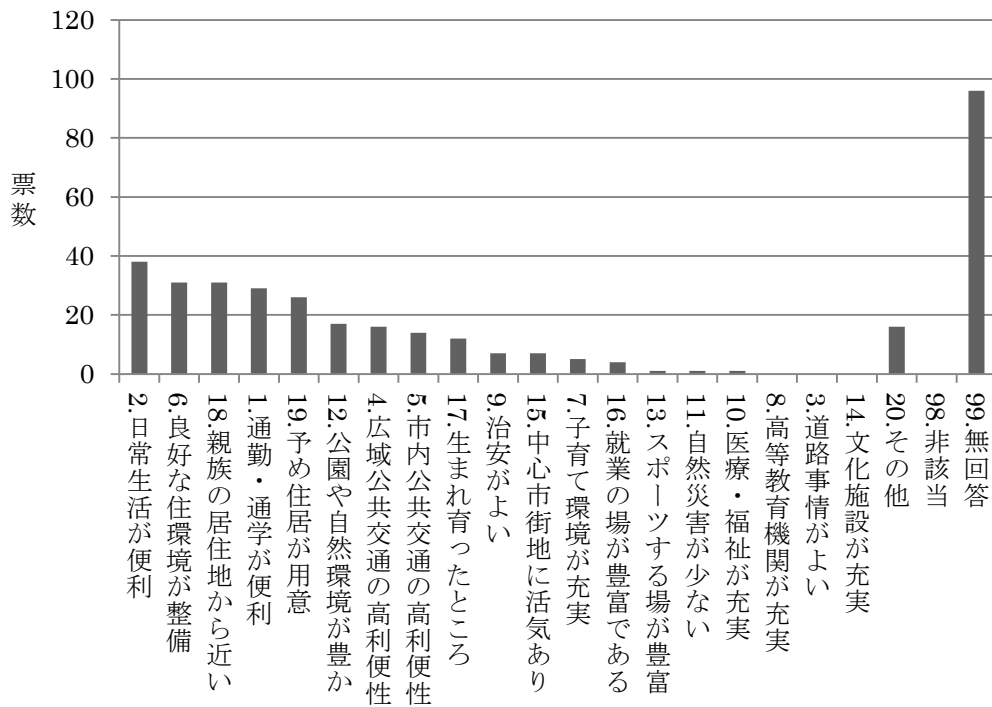


図 20 現住所を選択した理由（第 2 理由）

図 20 の現住所を選択した理由（第 2 理由）について、最も多かったのが「無回答」であり、99 票であった。次いで、「買い物等日常生活が便利」が 38 票であり、さらに、「良好な住環境が整備」と「親等親族の居住地から近い」が、どちらも 31 票であった。

この設問に関しては、第 1 理由のみを回答し、第 2 理由を回答しない調査票が数多くみられ、「無回答」の票数が多くなる結果となった。

VI. 現在お住まいの市区町村への定住意向について

問 5-1 現在お住まいの市区町村には、今後も住み続けたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入してください。

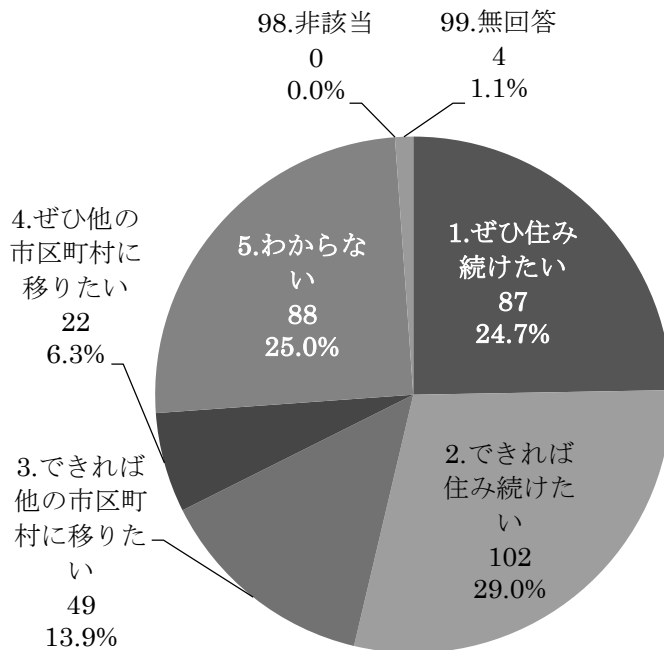


図 21 現住所への定住意向

図 21 の現住所への定住意向について、「できれば住み続けたい」が 102 票 (29.0%)、「ぜひ住み続けたい」が 87 票 (24.7%) であり、現住所に住み続けたいという回答が全体の 5 割以上を占めた。一方、「できれば他の市区町村に移りたい」が 49 票 (13.9%)、「ぜひ他の市区町村に移りたい」が 22 票 (6.3%) であった。さらに、「わからない」という回答も 88 票あり、全体の 25.0%を占める結果となった。

Ⅶ. 戸田市への帰還意向等について

問 6-1 機会があれば戸田市に戻りたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入してください。

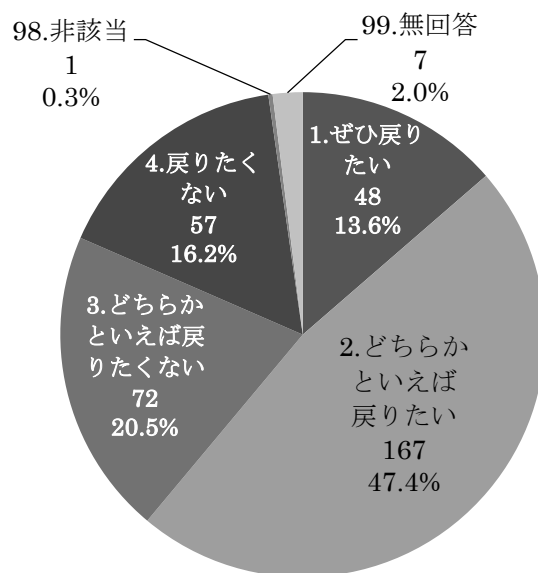


図 22 戸田市への帰還意向

図 22 は、戸田市への帰還意向について示している。全体の 5 割近くが「どちらかといえば戻りたい」であり、167 票（47.4%）であった。また、「ぜひ戻りたい」も 48 票（13.6%）であり、全体の 6 割以上が戸田市への帰還意向を持っていることが明らかになった。

一方、「どちらかといえば戻りたくない」が、72 票（20.5%）、「戻りたくない」が 57 票（16.2%）であり、全体の 3 割強が戸田市への帰還に消極的であることも確認された。

問 6-2 問 6-1 で「1.ぜひ戻りたい」又は「2.どちらかといえば戻りたい」と答えた方に、その理由をお尋ねします。次の項目（1～20）から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。

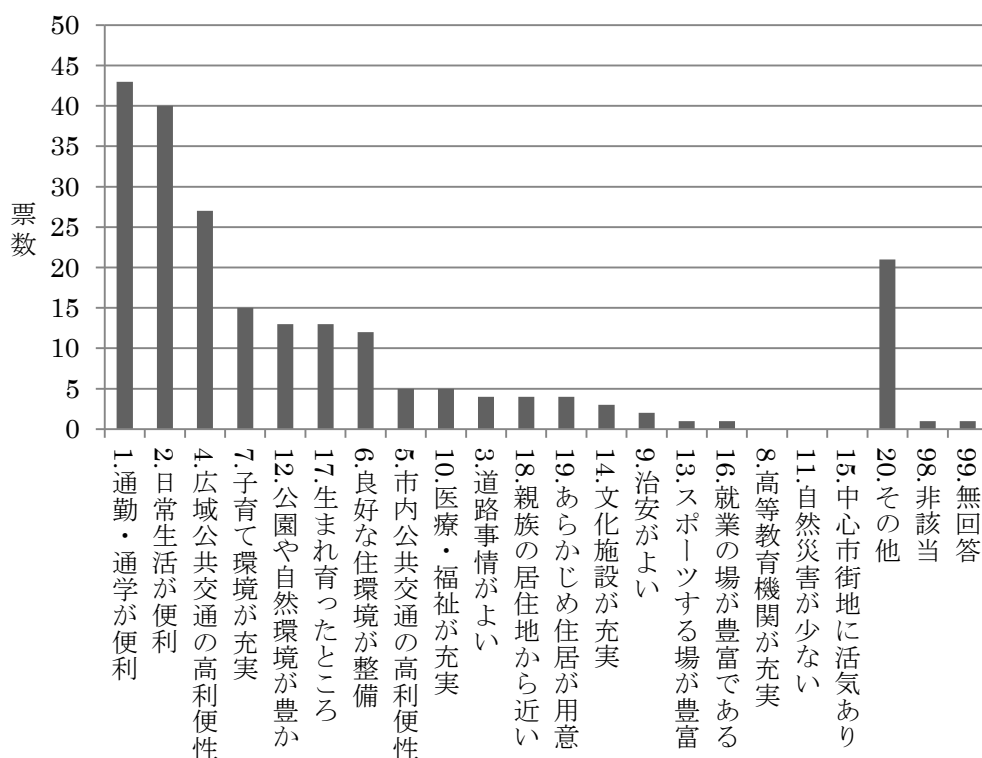


図 23 戸田市への帰還意向の理由（第 1 理由）

図 23 は、戸田市への帰還意向の理由（第 1 理由）について示している。最も多いのが「通勤・通学が便利」の 43 票（20.0%）であり、「日常生活が便利」が 40 票（18.6%）で、これらが 4 割近くを占めている。次いで、「広域公共交通の高利便性」が 27 票（12.6%）であり、「その他」が 21 票（9.8%）となる。

これらの回答から戸田市は、通勤・通学が便利であり、日常的な買い物も便利であるということが明らかになった。「その他」の自由記述欄には、「水道光熱費が安いから」、「水道代や税金等が安いから」、「税金が安い」といった、公共料金や税金の安さに関する回答が散見された。

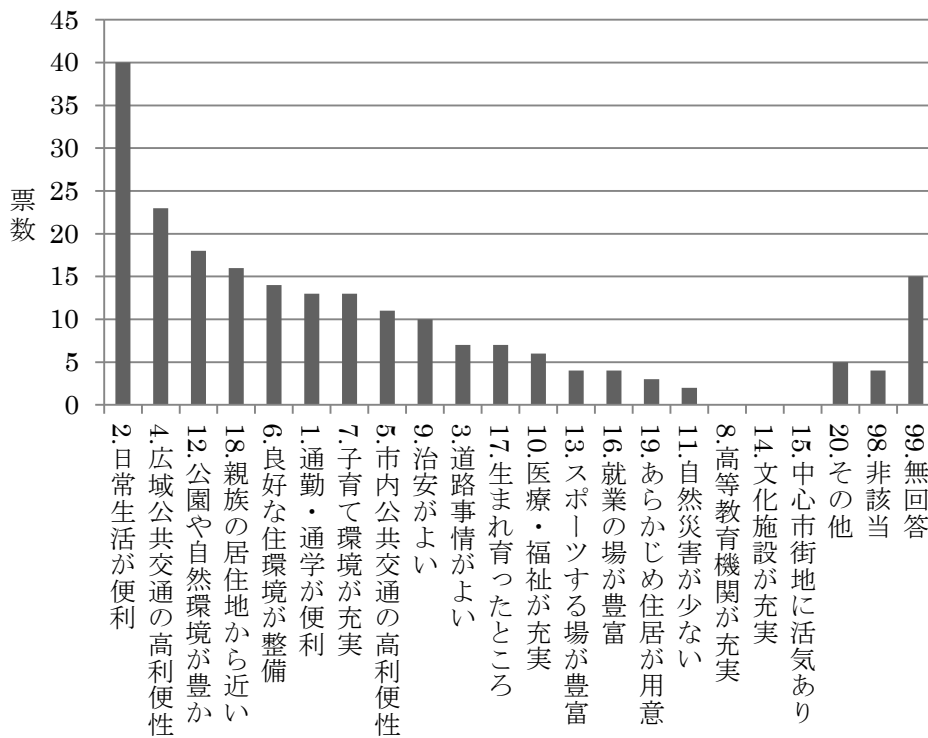


図 24 戸田市への帰還意向の理由（第 2 理由）

図 24 は、戸田市への帰還意向の理由（第 2 理由）について示している。第 1 理由と同様にこちらも「日常生活が便利」が 40 票で全体の 18.6%を占めた。次いで、「広域公共交通の高利便性」が 23 票（10.7%）、「公園や自然環境が豊か」が 18 票（8.4%）、「親族の居住地から近い」が 16 票（7.4%）と続く。

問 6-3 問 6-1 で「3.どちらかといえば戻りたくない」又は「4.戻りたくない」と答えた方に、その理由をお尋ねします。次の項目（1～20）から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。

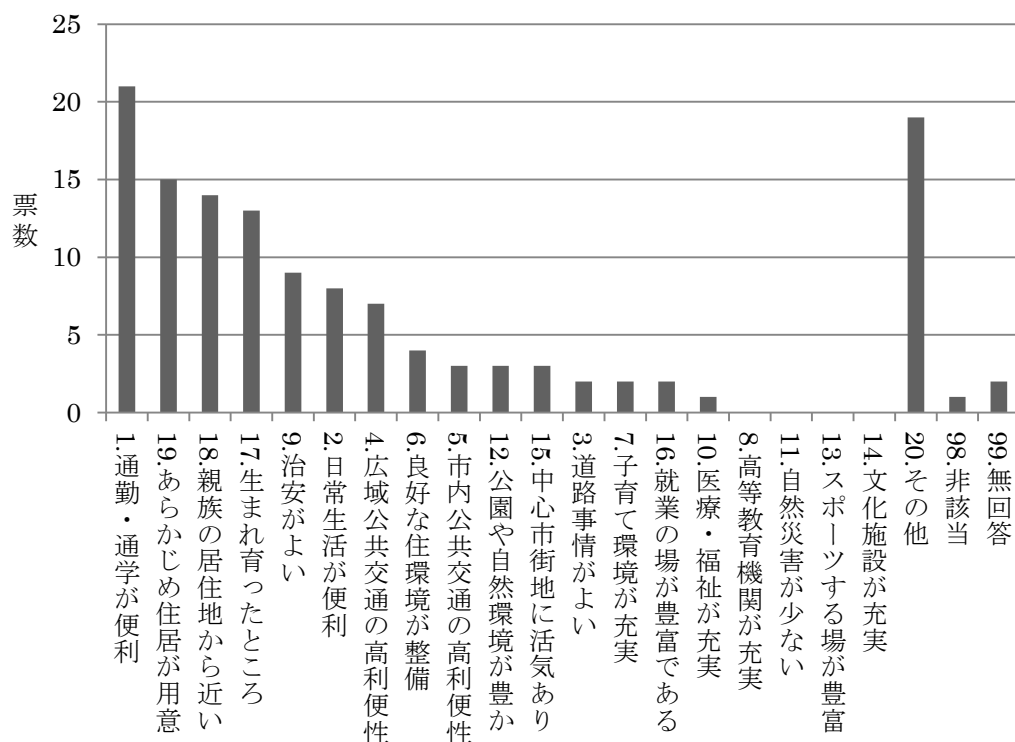


図 25 戸田市への帰還意向がない理由（第 1 理由）

図 25 は、戸田市への帰還意向がない理由（第 1 理由）について示している。「通勤・通学が便利」が 21 票（16.3%）であり、「その他」が 19 票（14.7%）、「あらかじめ住居が用意」が 15 票（11.6%）、「親族の居住地から近い」が 14 票（10.9%）、「生まれ育ったところ」が 13 票（10.1%）と続く。

図 23 と図 24 の戸田市への帰還意向の理由でも、通勤・通学の便利さを挙げる回答が多かったものの、こちらでもこの回答が多かった。裏を返せば、転居の際には、その家族の通勤・通学の利便性を非常に重視するということが分かる。「その他」の自由記述欄は空欄も多かったものの、「家賃、地価が高いため」、「家賃などが高いから」、「電車の本数があまりない（電車が少ないので車内が混雑する）」といった相対的に家賃が高いことへの指摘や鉄道の混雑に関する記述が散見された。

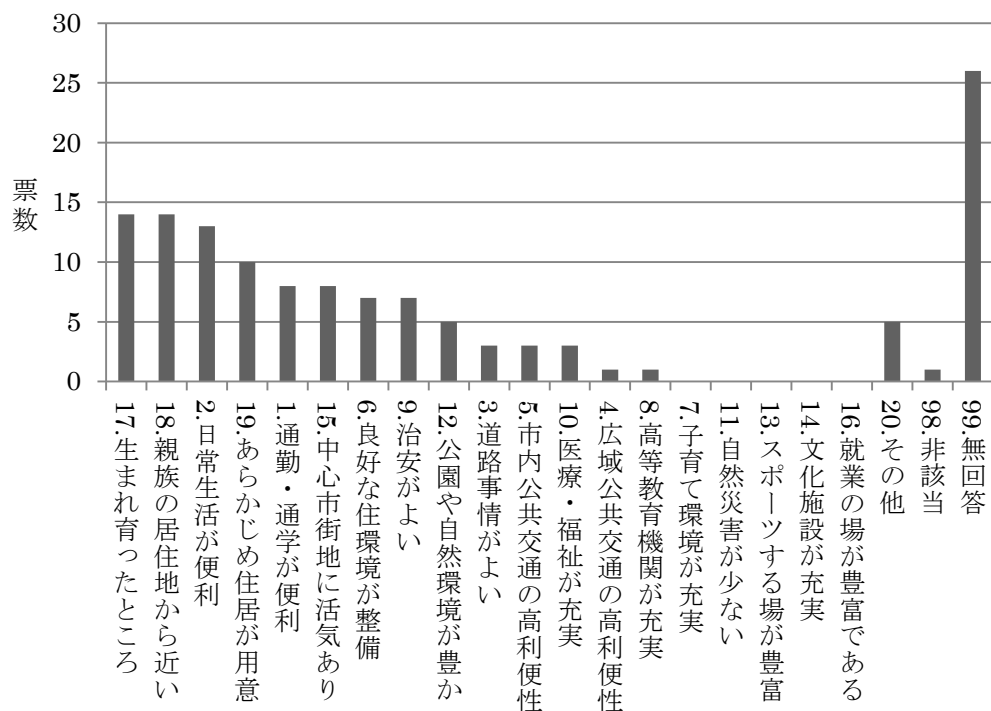


図 26 戸田市への帰還意向がない理由（第 2 理由）

図 26 は、戸田市への帰還意向がない理由（第 2 理由）について示している。最も多かったのが、「無回答」であり、26 票（20.2%）であった。次いで、「生まれ育ったところ」と「親族の居住地から近い」が 14 票（10.9%）であった。

先にも述べたように、第 1 理由を回答した後に、第 2 理由を回答しない調査票が目立ち、結果として「無回答」が増加してしまったことが指摘できる。

Ⅷ. 転出前後の住宅の所有関係等について

問 7-1 住宅の所有関係についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。

図 27 と図 28 について、以下で比較しながら分析する。

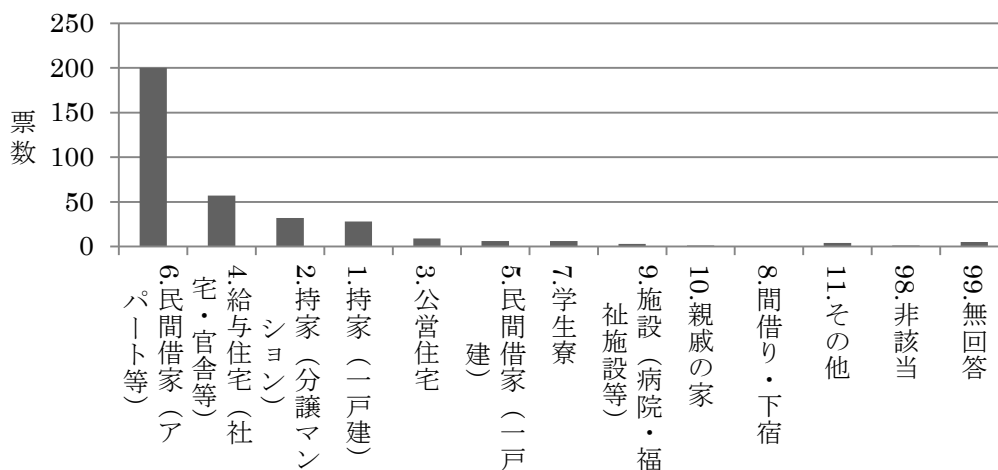


図 27 転出前の住宅の所有関係

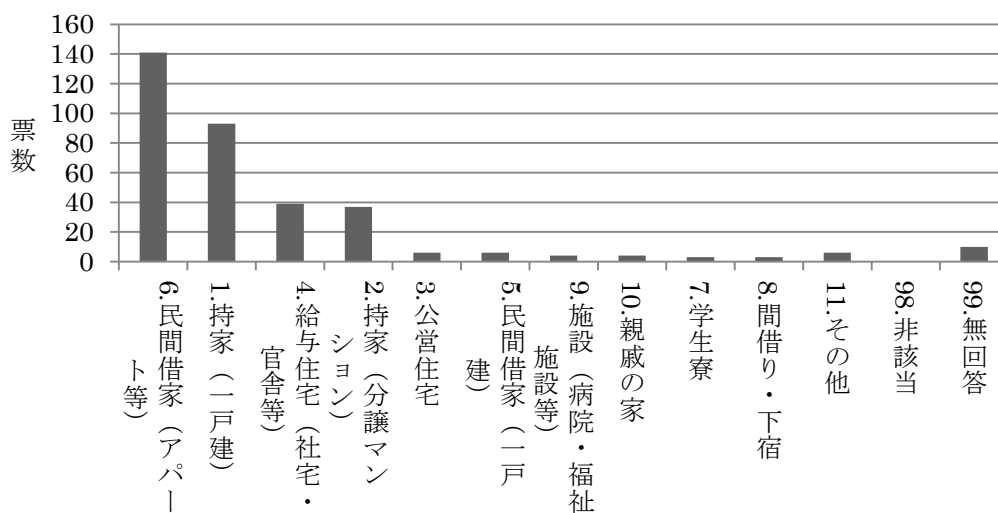


図 28 転出後の住宅の所有関係

図 27 の転出前の住宅の所有関係について、圧倒的に多かったのが、「民間の借家（アパート等）」であり、200 票（56.8%）で、次に「給与住宅」が 57 票（16.2%）であった。それに、「持家（分譲マンション）」は 32 票、「持家（一戸建）」は 28 票と続いた。

図 28 の転出後の住宅の所有関係について、最も多かったのが、図 28 と同様に「民間の借家（アパート等）」であり、141 票（40.1%）であった。次いで、「持家（一戸建）」が 93

票 (26.4%), 「給与住宅」が 39 票 (11.1%), 「持家 (分譲マンション)」が 37 票 (10.5%) であった。

図 28 でも、最も多かったのが「民間の借家 (アパート・賃貸マンション等) だったが、図 27 と比べて 50 票以上減少した一方で、図 27 では 29 票だった「持家 (一戸建)」の回答が、図 28 では 3 倍以上に増加している。戸田市からの転出後に「借家」から「持家」に住み替える動きがあることがうかがえる。

問 7-2 住宅の床面積についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。

図 29 と図 30 について、以下で比較しながら分析する。

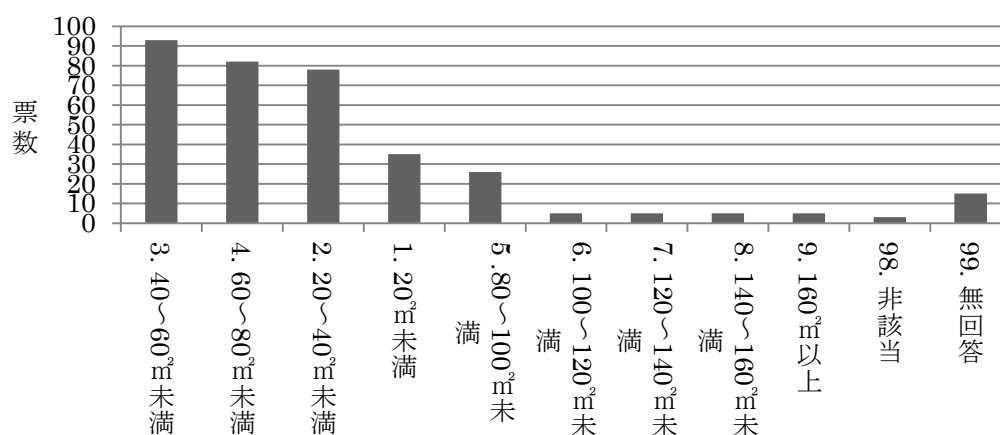


図 29 転出前の住宅の床面積

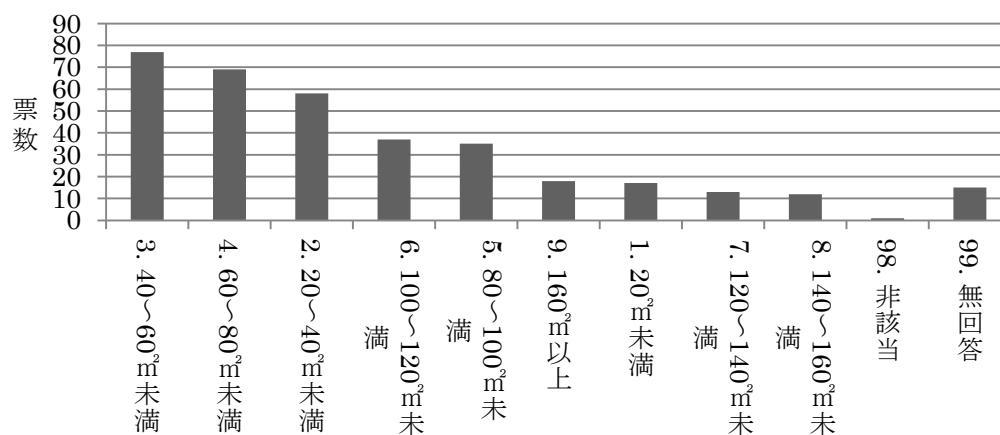


図 30 転出後の住宅の床面積

図 29 の転出前の住宅の床面積について、最も多かったのが「40~60 ㎡未満」であり、93 票で全体の 26.4% を占める。次いで、「60~80 ㎡未満」が 82 票 (23.3%), 「20~40 ㎡

未満」が 78 票 (22.2%) と続く。これらが全体の 7 割強を占める。

図 30 の転出後の住宅の床面積について、最も多かったのが「40～60 m²未満」であり、77 票で全体の 21.9%を占める。次いで、「60～80 m²未満」が 69 票 (19.6%)、「20～40 m²未満」が 58 票 (16.5%) と続く。

このように上位 3 の順位は同じである。ただし、図 30 にもあるように、4 位以降は図 29 のそれとは異なる。4 位の「100～120 m²未満」は、5 票から 37 票に激増し、5 位の「80～100 m²未満」は 26 票から 35 票へ増加している。また、「160 m²以上」も 5 票から 18 票に増加している。一方、「20 m²未満」は 35 票から 18 票に減少している。

これらから、戸田市からの転出後に住宅の床面積が増加することが指摘できる。またこのような結果は、先述の図 27 と図 28 でも示された、借家から持ち家への住み替えの動きとも関連しよう。

第3部 本調査の結果と考察（転入者）

調査結果の要旨

- ・ 転入者の現住所について、「大字新曽」が最多で、全体の14.8%を占める。次いで、「上戸田」が10.7%、「本町」が9.0%と続く。
- ・ 転入者の前住所について、他を圧倒して多かったのが「埼玉県」の33.3%、「東京都」の31.3%であり、これらで全体の6割強を占める。
- ・ その内訳は、埼玉県では、「さいたま市」が最多で全体の32.8%を占め、次いで、「川口市」が22.6%、「蕨市」が10.2%と続く。戸田市に隣接する市からの転入が全体の6割以上を占める。同様に東京都では、「北区」が17.1%、「板橋区」が16.3%となっており、全体の約3分の1を占めている。
- ・ 転入前の世帯構成については、「二世帯同居」が38.8%であり、次いで、「ひとり世帯」が27.4%、「夫婦のみ」が22.8%と続く。転入後の世帯構成については、「二世帯同居」が33.7%であり、次いで、「夫婦のみ」が30.8%、「ひとり世帯」が27.4%と続く。
- ・ 転入前後で、「二世帯同居」が160票から139票へ、「三世帯同居」が26票から10票へと減少している。一方、「夫婦のみ」の回答が30票以上増加している。
- ・ 戸田市への転入の原因となった方については、「世帯主」が圧倒的に多く、全体の69.9%を占める。さらに、その性別については、「男性」が最多で全体の68.4%を占めた。
- ・ 転入の原因となった方の転入時の年齢について、最多が「30～34歳」であり、全体の19.2%を占める。次いで、「25～29歳」が17.5%であり、さらに「35～39歳」が13.6%と続く。これら25～39歳までの年齢の回答が全体の5割強を占めている。
- ・ 転入の原因となった方の職業について、「事務・技術職」が最多で、全体の33.3%を占める。次に、「販売・生産・労働職」が15.8%、「サービス業従事者」が10.0%と続く。
- ・ 現在の通勤・通学場所について、最多が、「東京都」で、全体の62.3%を占める。次いで、「埼玉県」が全体の29.9%を占め、これらで全体の9割以上を占めている。
- ・ その内訳として、東京都で最も多い通勤・通学先は「千代田区」で、全体の14.6%を占め、次いで、「港区」が11.6%、「渋谷区」が10.6%と続く。これらで全体の3分の1以上を占める。
- ・ 同様に、埼玉県で最多は「戸田市」であり、全体の40.0%を占める。次いで、「川口市」と「さいたま市」がどちらも18.9%である。戸田市内や隣接する川口市、さいたま市で、全体の7割強を占める。
- ・ 転入者の戸田市での居住歴について、「初めて」が全体の84.5%を占めている。
- ・ 戸田市で居住歴がある転入者の居住期間については、「1～3年未満」が最多で、全体の26.3%を占める。次いで、「10～20年未満」が19.3%であり、「5～10年未満」が17.5%と続く。
- ・ 戸田市からの転出可能性について、「いいえ」が全体の53.9%を占める一方で、「はい」も43.0%を占める。

- ・ 転入のきっかけとなった理由については、「住宅事情」が最多であり、全体の 22.8%を占める。それに次いで、「転勤」と「結婚」が、どちらも 15.0%を占めている。
- ・ 転入者が現住所以外の他地域を居住候補地として探索したかについては、「探した」が 55.3%である一方で、「探さない」が 44.7%となっている。
- ・ 戸田市外における居住候補地について、最多が「川口市」で全体の 22.8%を占める。次に、「その他」が 20.2%であり、「東京都板橋区」が 13.2%、「さいたま市南区」が 10.5%と続く。
- ・ 戸田市内における居住候補地について、最も多いのが「市内では探さず」であり、全体の 30.3%を占める。次いで、「戸田公園」が 20.6%となっている。
- ・ 戸田市を選択した理由について、圧倒的に多いのが「通勤・通学が便利」であり、全体の 45.6%を占める。それに次いで、「予め住居が用意」が 13.1%、「親族の居住地から近い」が 7.3%と続く。居住地を選択する際には、通勤・通学の利便性に重きを置くことが、改めて確認することができる。
- ・ 戸田市内の現住所を選択した理由について、最も多いのが「取得価格、家賃が適当」であり、全体の 27.4%を占める。それに次いで、「職場や学校に近い」が 16.3%、「公共交通の利便性」の 15.8%、「予め住居が用意」が 14.8%と続く。転入者が戸田市内の現住所を選ぶ際には、その価格や家賃を重視していることが把握できる。
- ・ 戸田市への定住意向について、最多の「できれば戸田市に住み続けたい」という回答が、全体の 37.4%を占める。また、「ぜひ戸田市に住み続けたい」が 21.4%であり、それらを加えると、全体の 6 割近くが、戸田市に住み続けることに積極的である。
- ・ 転入前の住宅の所有関係について、圧倒的に多いのが「民間の借家（賃貸マンション等）」であり、全体の 49.0%を占める。それに次いで、「持家（一戸建）」が 19.4%、「給与住宅（社宅・官舎等）」が 11.2%と続く。
- ・ 一方、転入後の住宅の所有関係について、ここでも多いのが「民間の借家（賃貸マンション等）」なのだが、183 票に減少しており、割合も全体の 44.4%となっている。「持家（一戸建）」は 17 票（4.1%）だが、転入前は 80 票であり、急減している。その一方で、回答が増加したのが「持家（分譲マンション）」であり、転入前の 4 倍以上である 102 票であり、全体の 24.8%）を占めている。
- ・ 転入前の住宅の床面積について、最も多いのが「40～60 m²未満」で全体の 25.7%を占める。次いで、「20～40 m²未満」が 18.4%であり、「60～80 m²未満」が 16.5%、「80～100 m²未満」が 7.8%と続く。
- ・ 一方、転入後の住宅の床面積について、最も多いのが「60～80 m²未満」であり、転入前よりも約 50 票増加している。次いで、「40～60 m²未満」が 23.5%であり、「20～40 m²未満」が 17.2%と続く。
- ・ 100 m²以上の床面積については軒並み減少しており、「160 m²以上」が 21 票から 4 票、「140～160 m²未満」が 14 票から 4 票、「120～140 m²未満」が 10 票から 2 票となっている。

I. 転入者の現住所と前住所

問 0-1 現住所

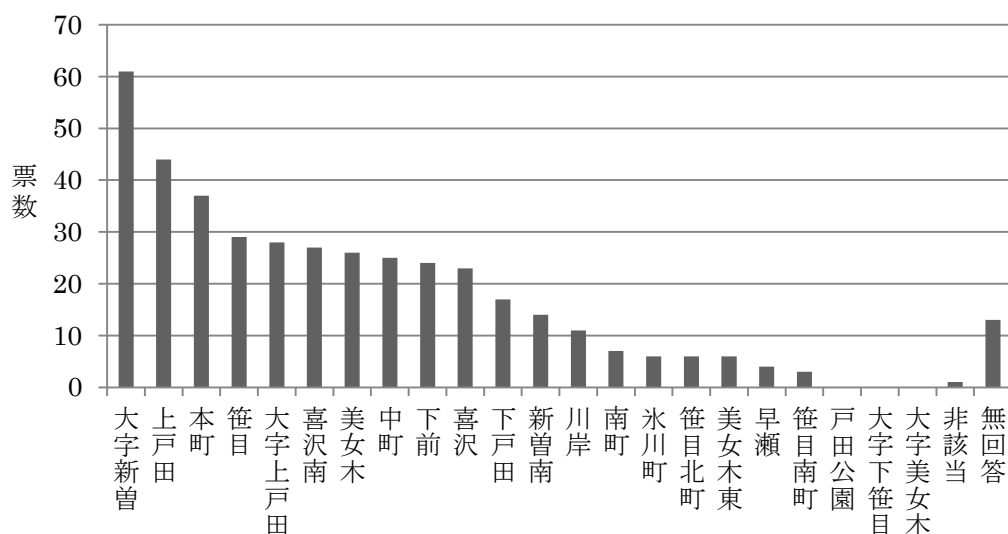


図 31 転入者の現住所

図 31 の転入者の現住所について、最も多かったのが「大字新曽」で、61 票であり、全体の 14.8% を占める。次いで、「上戸田」が 44 票 (10.7%)、「本町」が 37 票 (9.0%)、「笹目」が 29 票 (7.0%)、「大字上戸田」が 28 票 (6.8%) と続く。

問 0-2 前住所

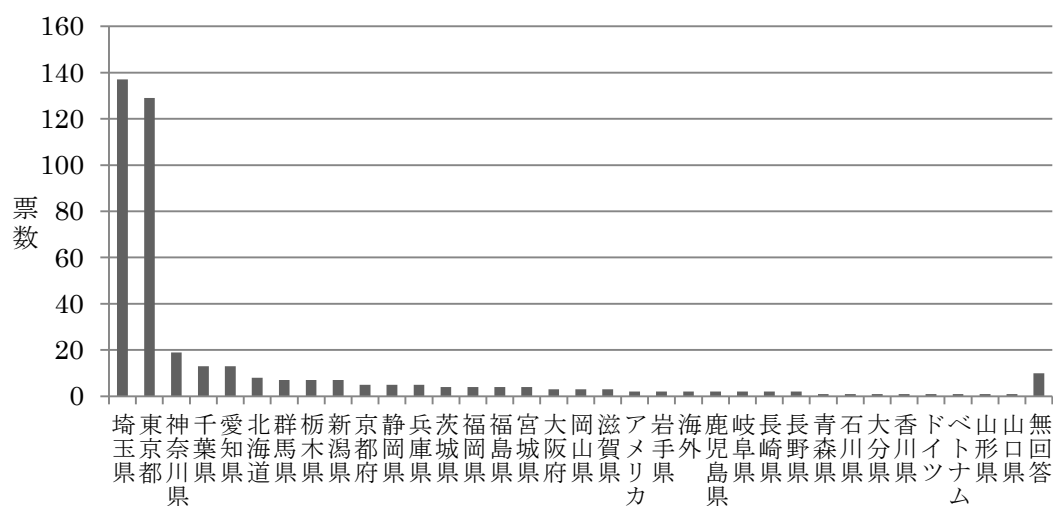


図 32 転入者の前住所

図 32 の転入者の前住所について、他を圧倒して多かったのが「埼玉県」の 137 票 (33.3%) と「東京都」の 129 票 (31.3%) であり、これらで全体の 6 割強を占める。これらから大

大きく離されて、「神奈川県」が 19 票 (4.6%), 「千葉県」が 13 票 (3.2%), 「愛知県」が 13 票 (3.2%) と続く。以下では、埼玉県内と東京都内における転入者の前住所を市区町村別で確認する。

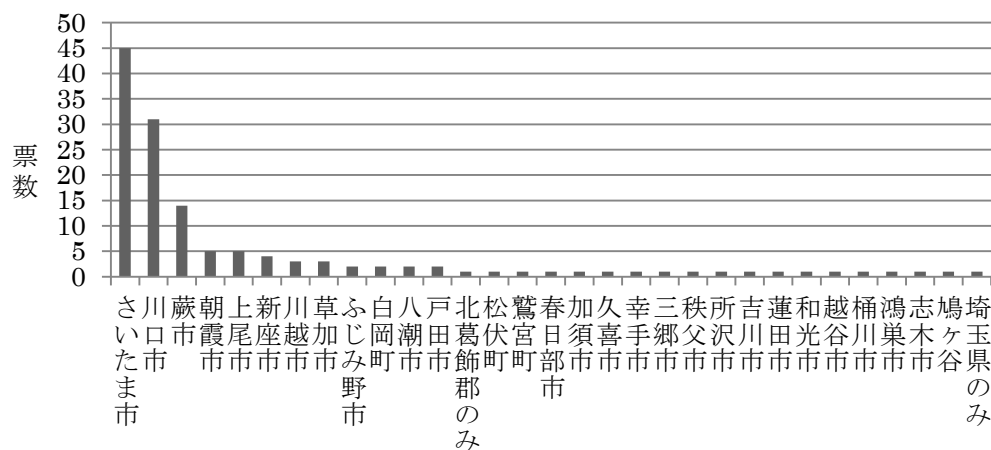


図 33 転入者の前住所 (埼玉県内)

転入者の前住所を埼玉県内でみると (図 33), 最も多いのが「さいたま市」であり, 45 票 (32.8%) である。次いで, 「川口市」が 31 票 (22.6%), 「蕨市」が 14 票 (10.2%) と続き, 戸田市に隣接する市からの転入が, 全体の 6 割以上を占める。

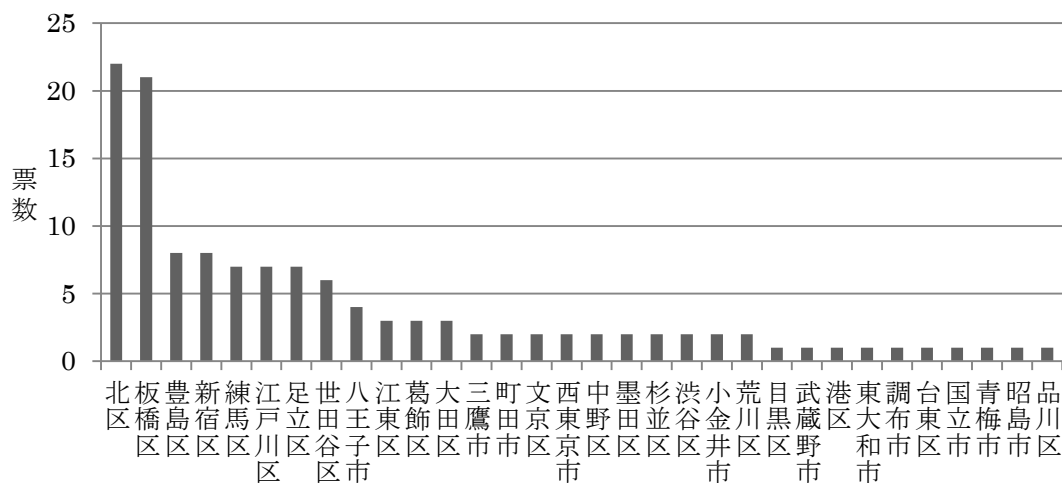


図 34 転入者の前住所 (東京都内)

転入者の前住所を東京都内でみると (図 34), 「北区」が 22 票 (17.1%), 「板橋区」が 21 票 (16.3%) であり, 全体の約 3 分の 1 を占めている。前述のとおり, 「北区」も「板橋区」も荒川を挟んで戸田市に隣接している。

Ⅱ. 転入前後の世帯構成等について

問 1-1 転入前後の世帯構成についてお尋ねします。

図 35 と図 36 について、以下で比較しながら分析する。

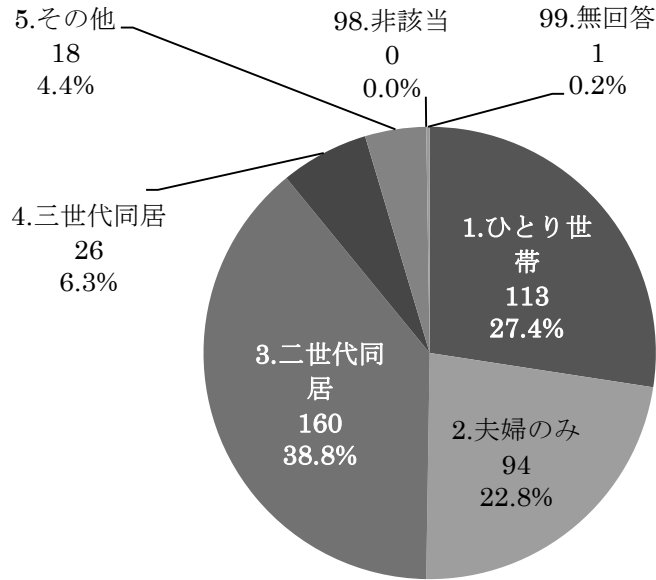


図 35 転入前の世帯構成

図 35 の戸田市への転入前の世帯構成については、「二世帯同居」が 160 票（38.8%）であり、それに次いで、「ひとり世帯」が 113 票（27.4%）、「夫婦のみ」が 94 票（22.8%）と続く。

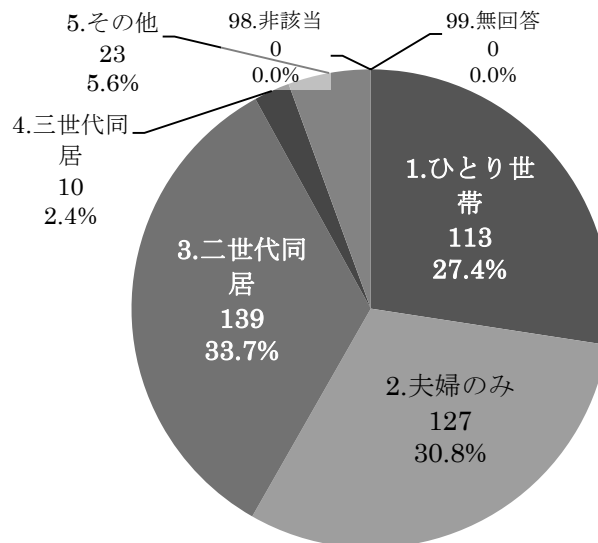


図 36 転入後の世帯構成

図 36 の戸田市への転入後の世帯構成については、「二世帯同居」が 139 票（33.7%）であり、それに次いで、「夫婦のみ」が 127 票（30.8%）、「ひとり世帯」が 113 票（27.4%）と続く。

図 35 と図 36 の比較では、「二世帯同居」が 160 票から 139 票へ、「三世帯同居」が 26 票から 10 票へ、それぞれ減少している。その一方で、「ひとり世帯」は 113 票で変わらず、「夫婦のみ」の回答が 30 票以上増加していることが確認できる。

Ⅲ. 転入の原因となった方について

問 2-1 今回移動された方のうち、移動の最も大きな原因となった方はどなたですか。

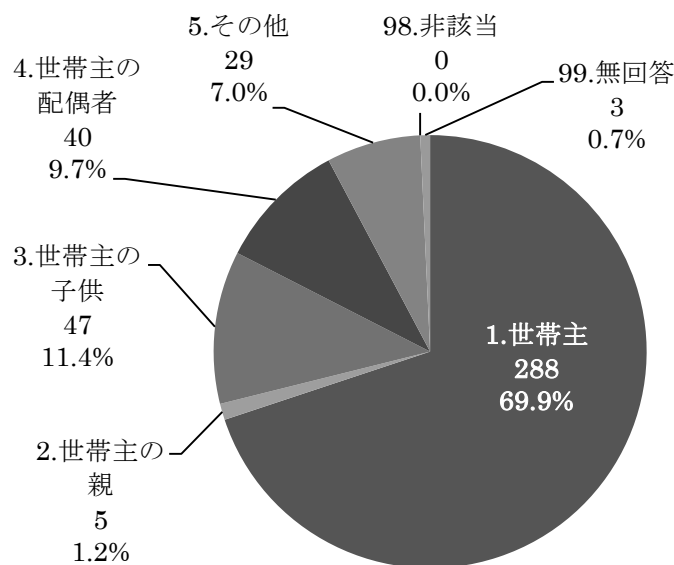


図 37 転入の原因となった方

図 37 の戸田市への転入の原因となった方については、「世帯主」が圧倒的に多く、288 票で全体の 69.9%を占める。それに次いで、「世帯主の子供」が 47 票（11.4%）、「世帯主の配偶者」が 40 票（9.7%）と続く。

問 2-2 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の移動時の年齢についてお尋ねします。

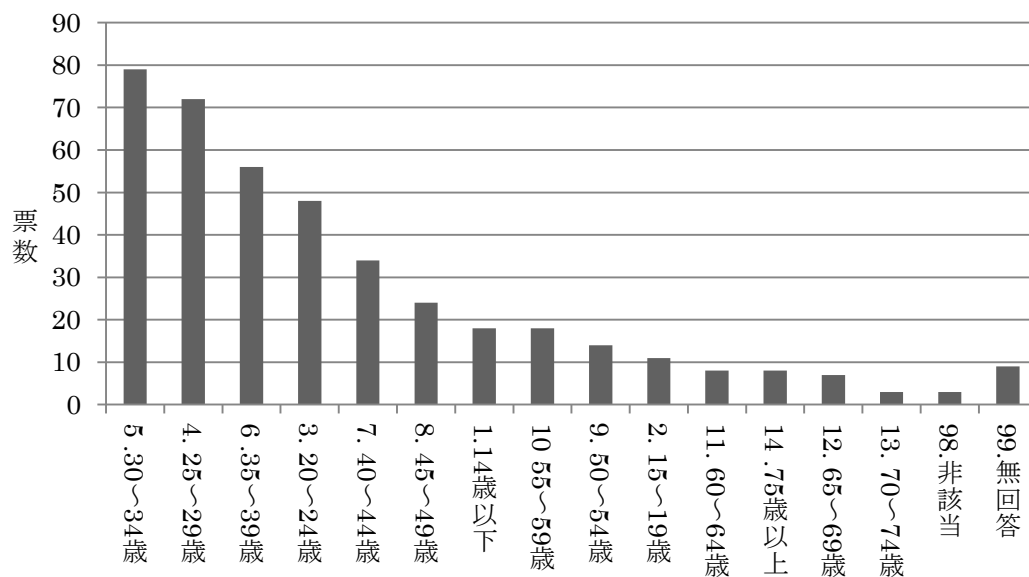


図 38 転入時の年齢

図 38 は、転入の原因となった方の転入時の年齢についてである。最も多かったのが「30～34歳」であり、79票（19.2%）である。次いで、「25～29歳」が72票（17.5%）であり、さらに「35～39歳」が56票（13.6%）である。これら25～39歳までの年齢の回答が、全体の5割強を占めている。

問 2-3 問 2-1 で移動の最も大きな原因になった方の性別についてお尋ねします。

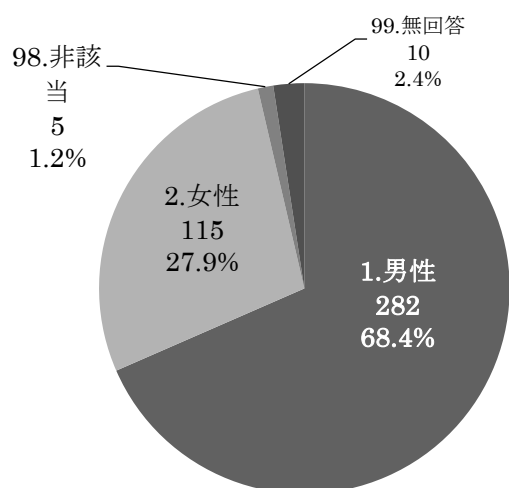


図 39 転入の原因となった方の性別

図 39 は、転入の原因となった方の性別についてである。転出と同様、圧倒的に多かったのが、「男性」であり、282 票（68.4%）であった。「女性」は 115 票であり、全体の 27.9% を占めた。

問 2-4 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の職業についてお尋ねします。

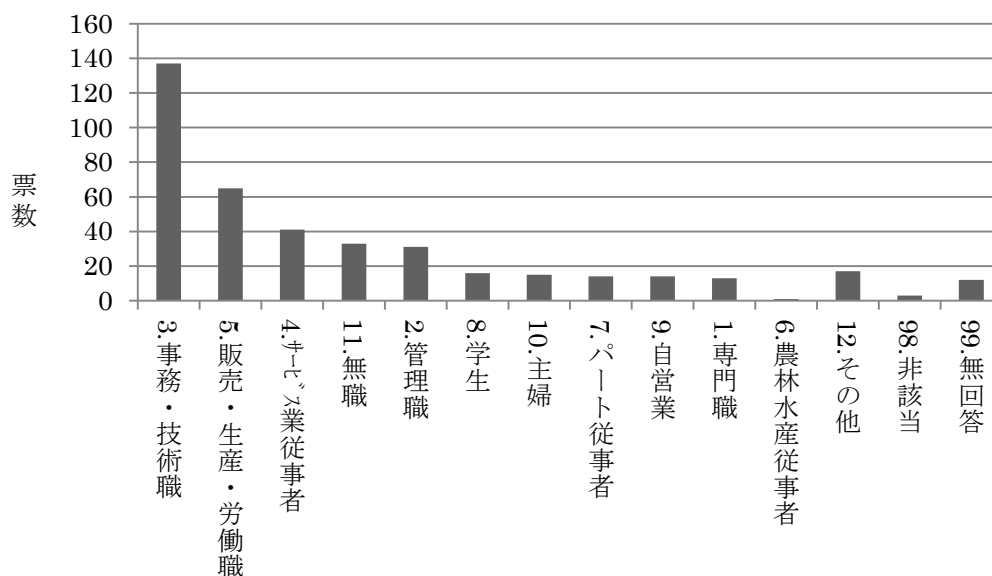


図 40 転入の原因となった方の職業

図 40 は、転入の原因となった方の職業について示している。最も多かったのが「事務・技術職」であり、137 票で全体の 33.3% を占める。次いで、「販売・生産・労働職」が 65 票（15.8%）、「サービス業従事者」が 41 票（10.0%）と続く。

問 2-5 問 2-4 で 1~8 と答えた方にお尋ねします。現在の通勤・通学場所について記入してください。

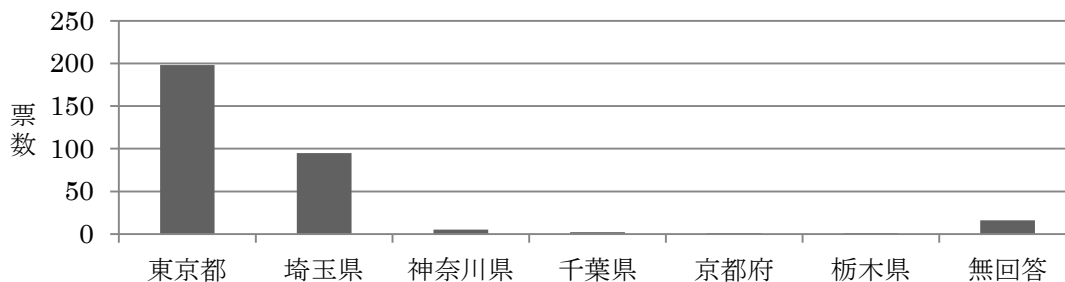


図 41 現在の通勤・通学場所

図 41 は、転入者の現在の通勤・通学場所について示している。圧倒的に多かったのが、「東京都」の 198 票で、全体の 62.3%を占める。次いで、「埼玉県」が 95 票で、全体の 29.9%を占め、これらで全体の 9 割以上を占めている。それでは、東京都内と埼玉県内のどの市区町村に通勤・通学しているのだろうか。

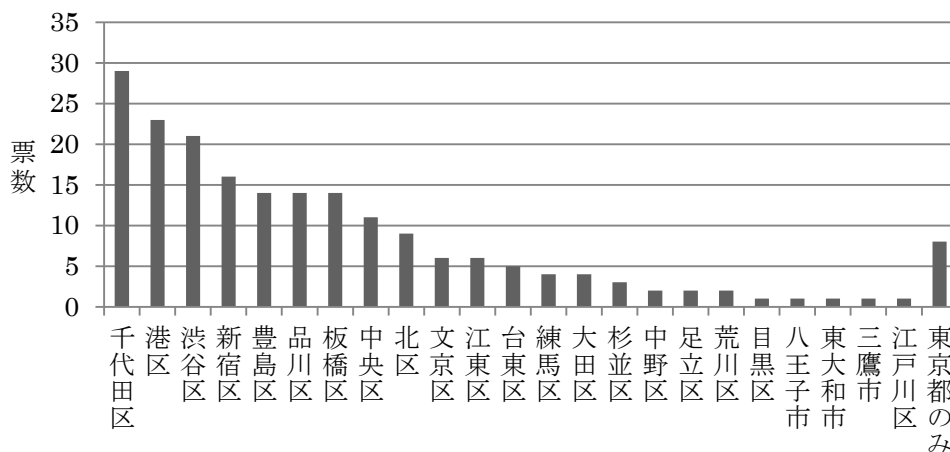


図 42 現在の通勤・通学場所（東京都内）

図 42 は、転入者の東京都内における通勤・通学場所について示している。最も多いのが「千代田区」の 29 票で、全体の 14.6%を占めている。次いで、「港区」が 23 票（11.6%）、「渋谷区」が 21 票（10.6%）と続く。これらで全体の 3 分の 1 以上を占め、とりわけ、東京都心部への通勤・通学が顕著であることが分かる。

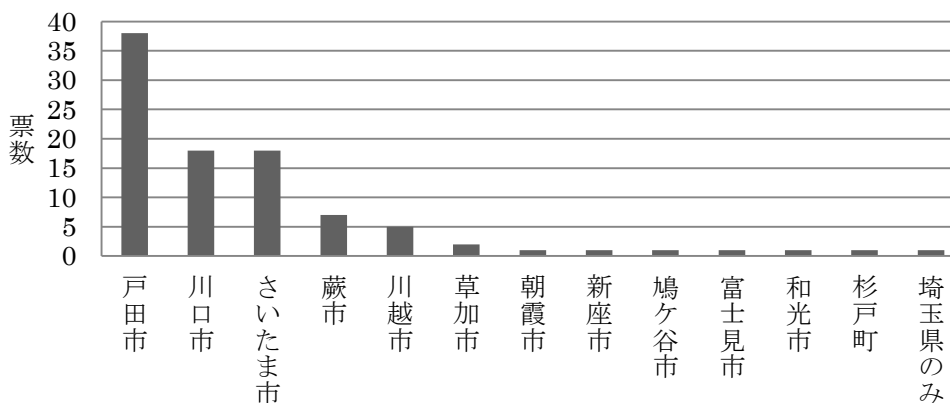


図 43 現在の通勤・通学場所（埼玉県内）

図 43 は、転入者の埼玉県内における通勤・通学場所について示している。最も多いのが「戸田市」の 38 票で、全体の 40.0%を占める。次いで、「川口市」と「さいたま市」がど

ちらも、18票（18.9%）である。埼玉県内への通勤・通学に関しては、戸田市内や隣接する川口市、さいたま市で、全体の7割強を占める。

問 2-6 問 2-1 で移動の最大の原因になった方は、以前戸田市に住んでいたことがありますか。

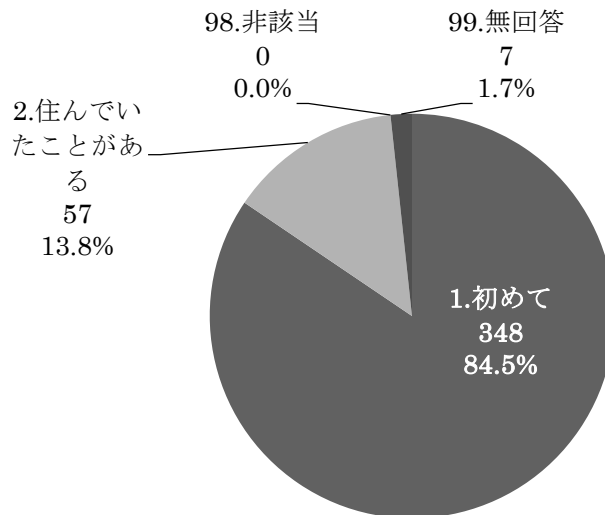


図 44 戸田市での居住歴

図 44 は、転入者の戸田市での居住歴についてである。「初めて」が全体の8割以上を占めており、348票である（84.5%）。次いで、「住んでいたことがある」が57票（13.8%）である。

問 2-7 問 2-6 で「2.住んでいたことがある」と答えた方に伺います。戸田市には何年お住まいでしたか。

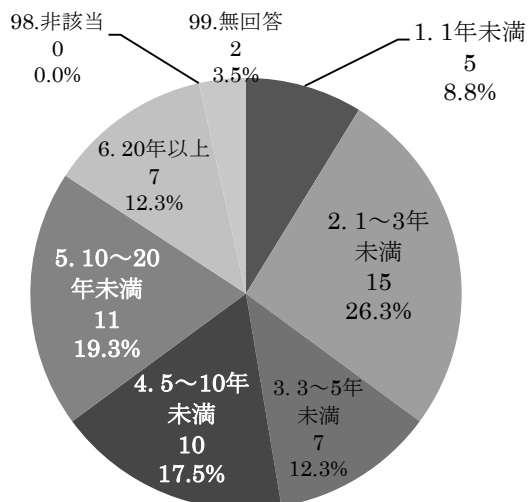


図 45 戸田市での居住期間

図 45 は、戸田市での居住歴がある転入者が、かつて戸田市に住んだことがある期間について示している。最も多いのが「1～3年未満」で15票（26.3%）である。次いで、「10～20年未満」が11票（19.3%）であり、「5～10年未満」が10票（17.5%）と続く。

問 2-8 転勤などにより今後概ね5年以内に戸田市から転出する可能性がありますか。

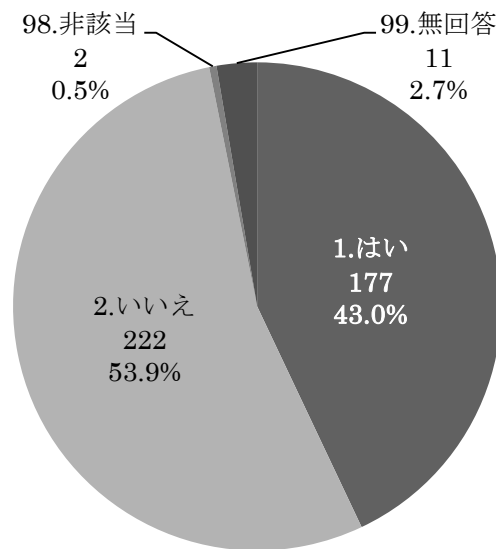


図 46 戸田市からの転出可能性

図 46 は、戸田市からの転出可能性を示している。「いいえ」が222票であり、全体の53.9%を占める一方で、「はい」も177票で43.0%を占め、どちらの可能性もあることがうかがえる。

IV. 転入の理由について

問 3-1 移動のきっかけとなった理由を下記（1～18）の中から選んで番号を記入してください。※第2理由についてはある方のみで結構です。

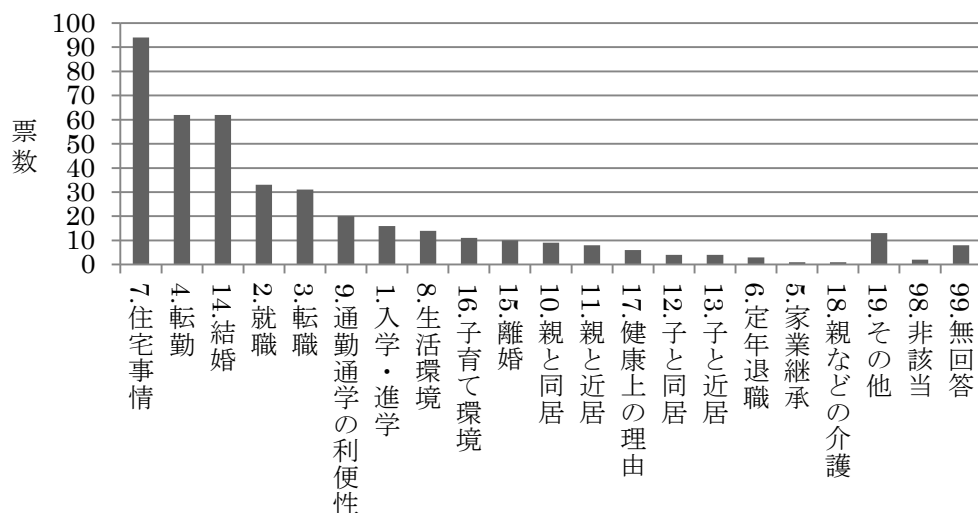


図 47 転入のきっかけとなった理由（第1理由）

図 47 は、転入のきっかけとなった理由（第1理由）を示している。最も多いのが「住宅事情」であり、94票で全体の22.8%を占めている。それに次いで、「転勤」と「結婚」がどちらも62票で全体の15.0%を占めている。

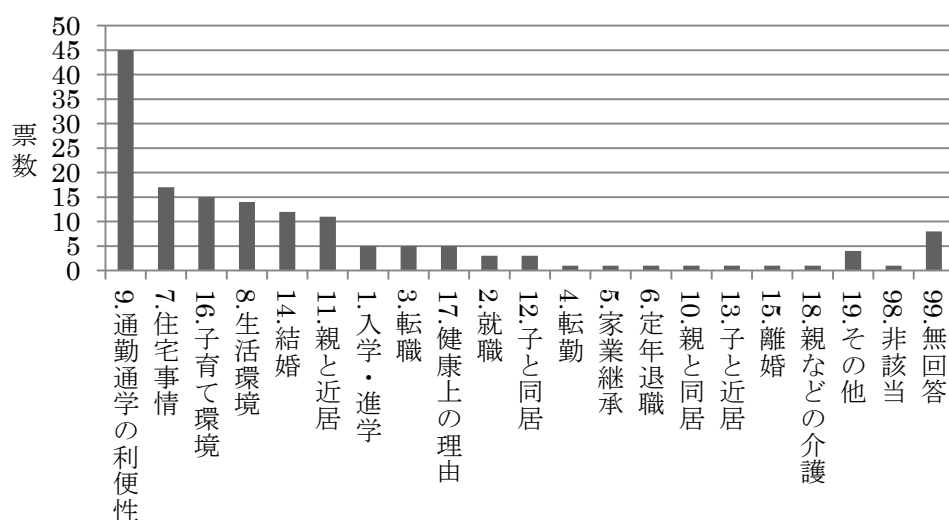


図 48 転入のきっかけとなった理由（第2理由）

図 48 で示された、転入のきっかけとなった理由（第 2 理由）については、「通勤通学の利便性」が 45 票（29.0%）で最も多く、それに次いで、「住宅事情」が 17 票（11.0%）となっている。さらに、「子育て環境」が 15 票（9.7%）、「生活環境」が 14 票（9.0%）、「結婚」が 12 票（7.7%）と続く。

V. 居住地選択の候補地について

問 4-1 現在のご住所を決めるにあたり、現住所地以外にどこか他の地域も探しましたか。

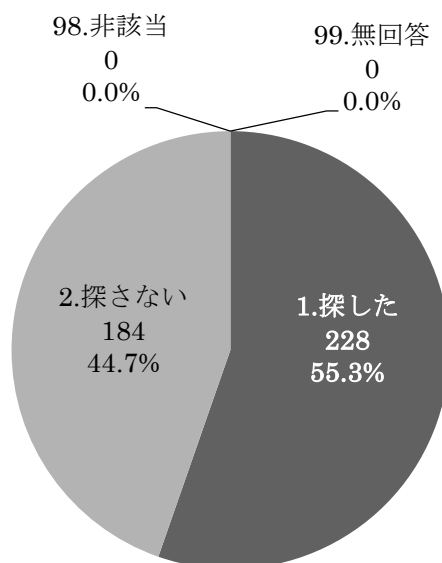


図 49 他の居住候補地の探索

図 49 は、転入者が現住所以外のお地域を居住候補地として探索したかを問うている。それについては、「探した」が 228 票（55.3%）である一方で、「探さない」が 184 票（44.7%）である。以下の図 50 では、戸田市以外のどの地域を居住候補地として探索したのかを明らかにしている。

問 4-2 問 4-1 で「1.探した」と答えた方に伺います。当てはまる番号を各 1 つだけ記入して下さい。

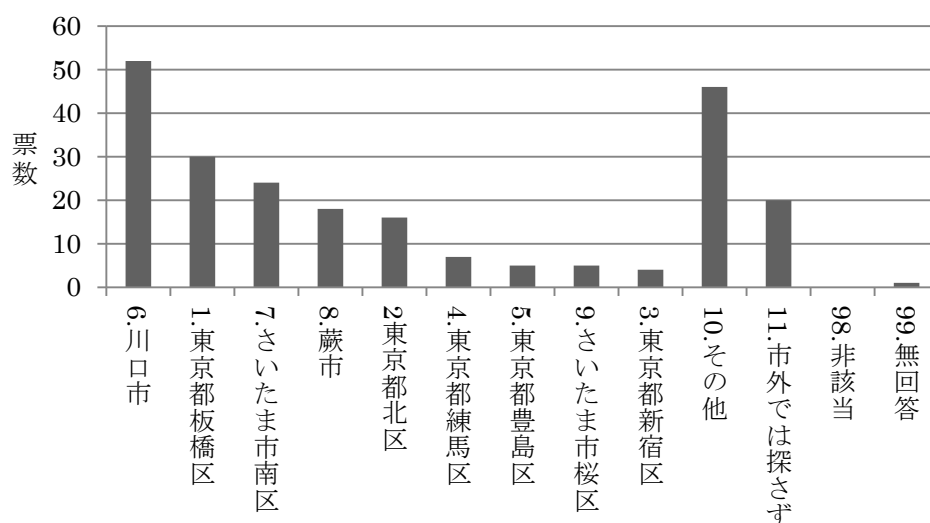


図 50 戸田市外の居住候補地

図 50 は、戸田市外における居住候補地について示している。最も多いのが「川口市」が 52 票で全体の 22.8%を占める。次いで、「その他」が 46 票（20.2%）であり、「東京都板橋区」が 30 票（13.2%）、「さいたま市南区」が 24 票（10.5%）と続く。

「その他」の自由記述欄には、「さいたま市浦和区」や「三郷市」、「坂戸市」のほかに、「朝霞市」が 3 票、「東京都足立区」が 2 票みられた。

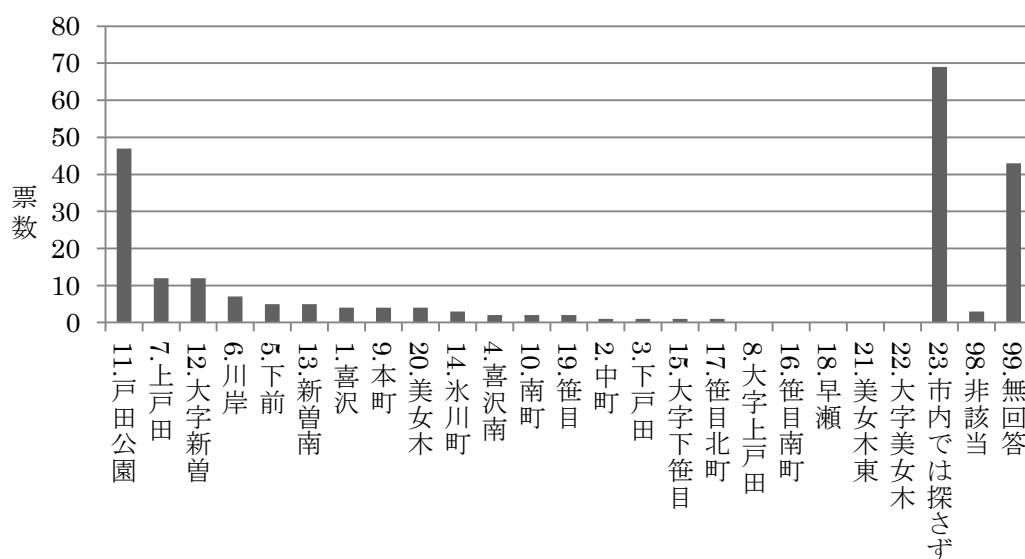


図 51 戸田市内の居住候補地

図 51 は、戸田市内における居住候補地について示している。最も多いのが「市内では探さず」であり、69票で、全体の30.3%を占める。次いで、「戸田公園」が47票（20.6%）となっている。

VI. 居住地選択の理由について

問 5-1 戸田市に居住地を決めた理由をお尋ねします。

次の項目（1～20）から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。

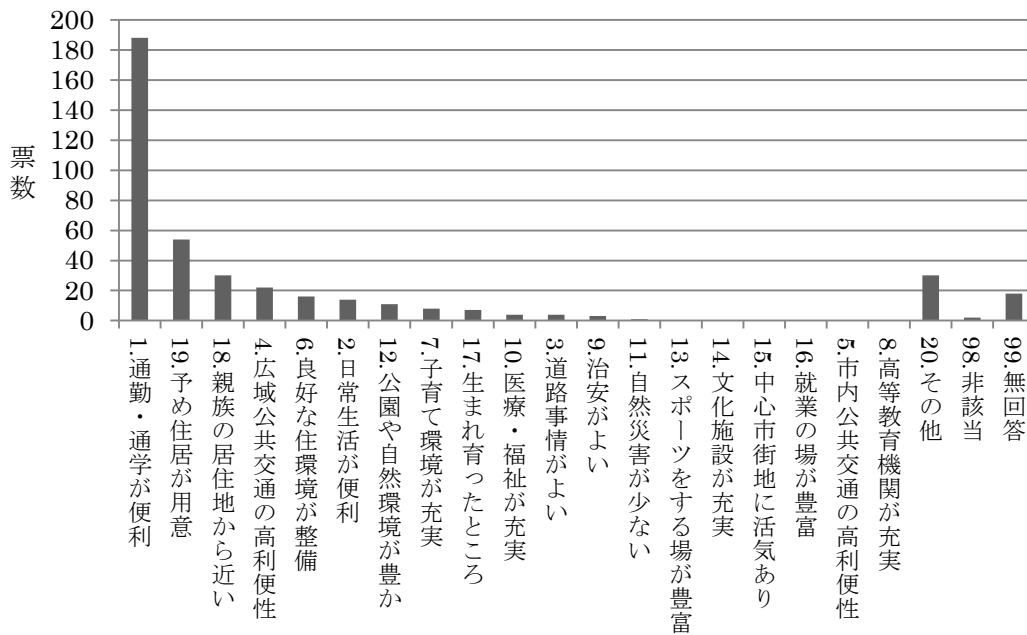


図 52 戸田市を選択した理由（第1理由）

図 52 の戸田市を選択した理由（第1理由）について、圧倒的に多いのが「通勤・通学が便利」であり、188票で、全体の45.6%を占める。それに次いで、「予め住居が用意」が54票（13.1%）、「親族の居住地から近い」が30票（7.3%）と続いていく。

居住地を選択する際には、通勤・通学の利便性に重きを置くことを、改めて確認することができる。

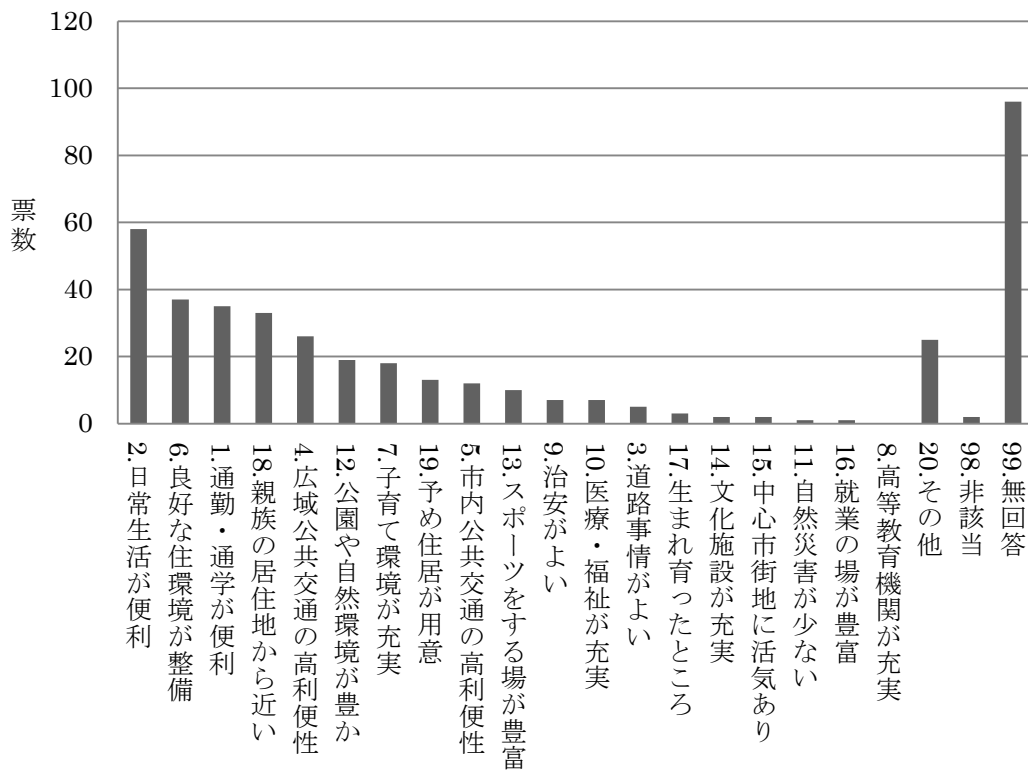


図 53 戸田市を選択した理由（第 2 理由）

図 53 の戸田市を選択した理由（第 2 理由）について、圧倒的に多いのが「無回答」であり、96 票で、全体の 23.3%を占める。次いで、「日常生活が便利」が 58 票（14.1%）であり、「良好な住環境が整備」が 37 票（9.0%）と続いていく。

問 5-2 戸田市の中で、現在お住まいの住所地（町丁目）に決めた理由をお尋ねします。次の項目（1～23）から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。

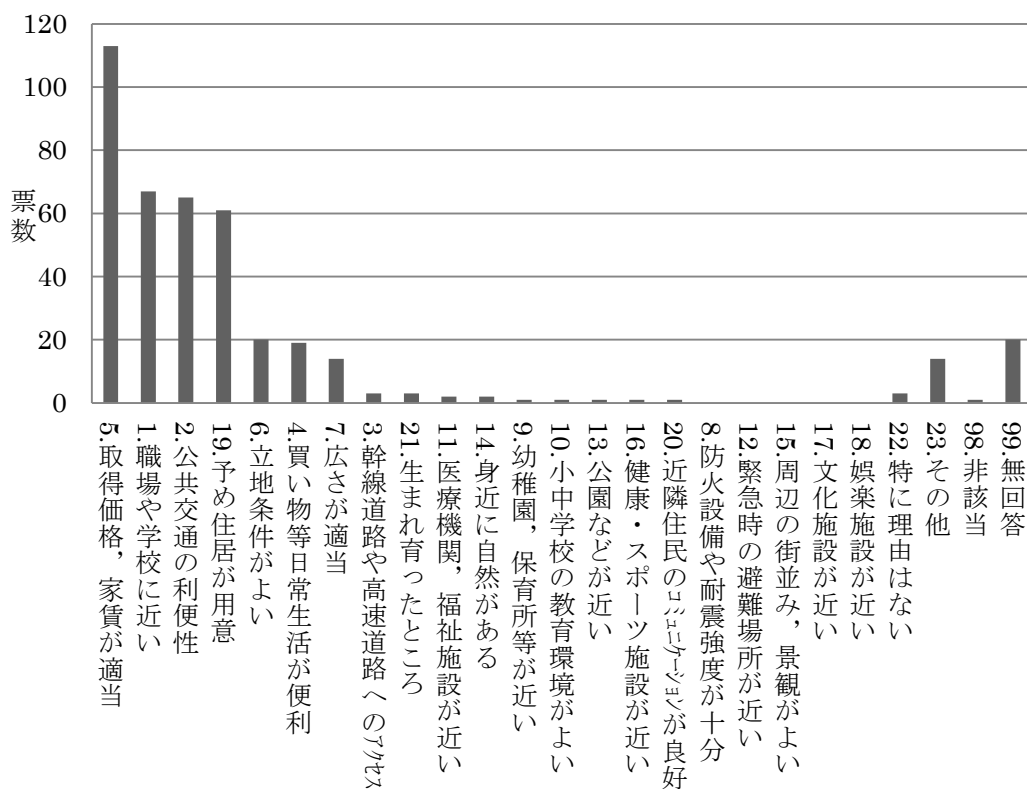


図 54 現住所（戸市内）を選択した理由（第1理由）

図 54 の現住所（戸市内）を選択した理由（第1理由）について、最も多いのが「取得価格、家賃が適当」の 113 票（27.4%）である。それに次いで、「職場や学校に近い」が 67 票（16.3%）、「公共交通の利便性」の 65 票（15.8%）、「予め住居が用意」が 61 票（14.8%）と続く。

転入者が戸市内の現住所を選ぶ際には、その価格や家賃を重視していることが把握できる。

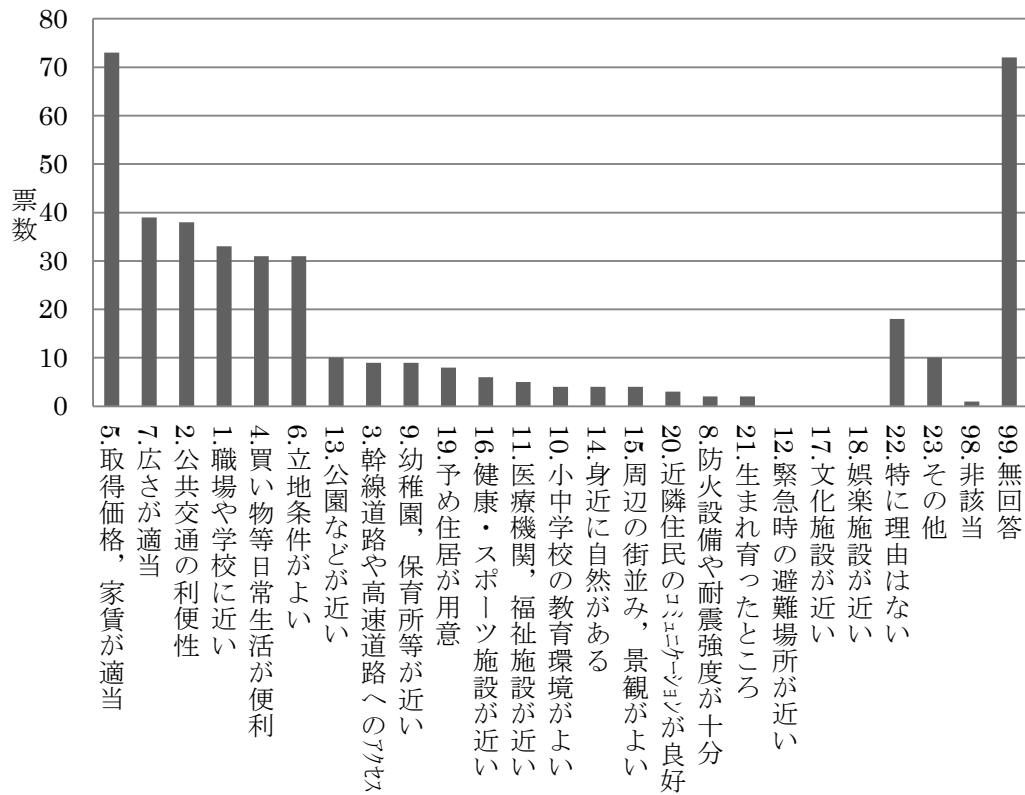


図 55 現住所（戸田市内）を選択した理由（第 2 理由）

図 54 の現住所（戸田市内）を選択した理由（第 2 理由）について、最も多かったのが第 1 理由と同様に「取得価格、家賃が適当」であり、73 票で（17.7%）であった。次いで、「無回答」が 72 票（17.5%）となっている。

Ⅶ. 戸田市への定住意向について

問 6-1 今後も戸田市に住み続けたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入してください。

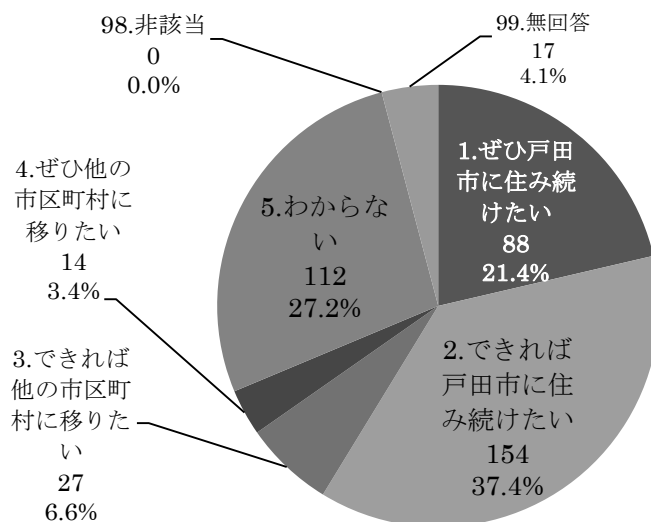


図 56 戸田市への定住意向

図 56 の戸田市への定住意向について、最多の「できれば戸田市に住み続けたい」という回答が、154票で全体の37.4%を占める。また、「ぜひ戸田市に住み続けたい」の88票(21.4%)を加えると、全体の6割近くが、戸田市に住み続けることに積極的である。一方、他地域に転出したいという回答は、全体の10%と少数であった。

Ⅷ. 移動前後の住宅の所有関係等について

問 7-1 住宅の所有関係についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。

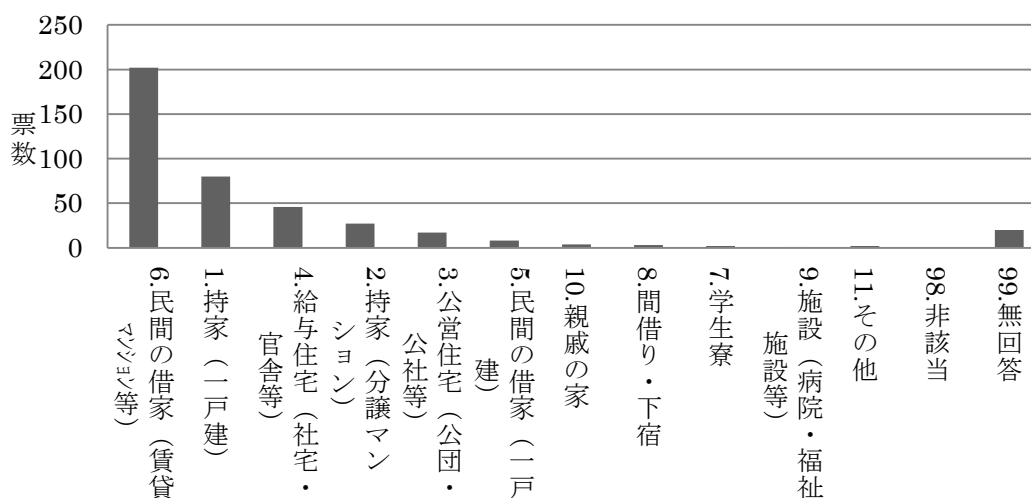


図 57 転入前の住宅の所有関係

図 57 と図 58 について、以下で比較しながら分析する。

図 57 は、転入前の住宅の所有関係について示している。圧倒的に多いのが「民間の借家（賃貸マンション等）」であり、202 票で、全体の 49.0%を占める。それに次いで、「持家（一戸建）」が 80 票（19.4%）、「給与住宅（社宅・官舎等）」が 46 票（11.2%）と続く。

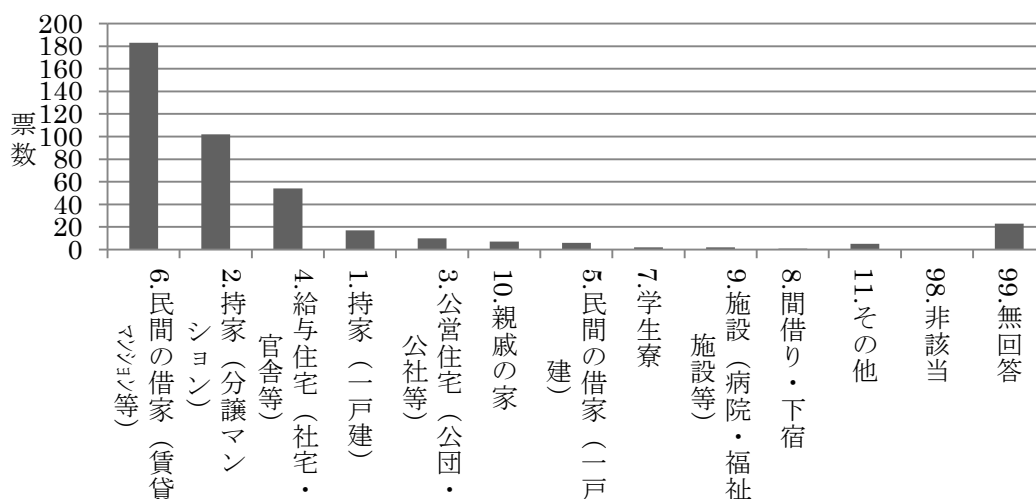


図 58 転入後の住宅の所有関係

一方、図 58 は、転入後の住宅の所有関係について示している。ここでも多いのが「民間の借家（賃貸マンション等）」なのだが、183 票に減少しており、割合も全体の 44.4%となっている。「持家（一戸建）」は 17 票（4.1%）だが、図 57 では 80 票であり、急減している。

その一方で、回答が増加したのが「持家（分譲マンション）」であり、転入前の 4 倍以上である 102 票であり、全体の 24.8%）を占めている。

問 7-2 住宅の床面積についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。

図 59 と図 60 について、以下で比較しながら分析する。

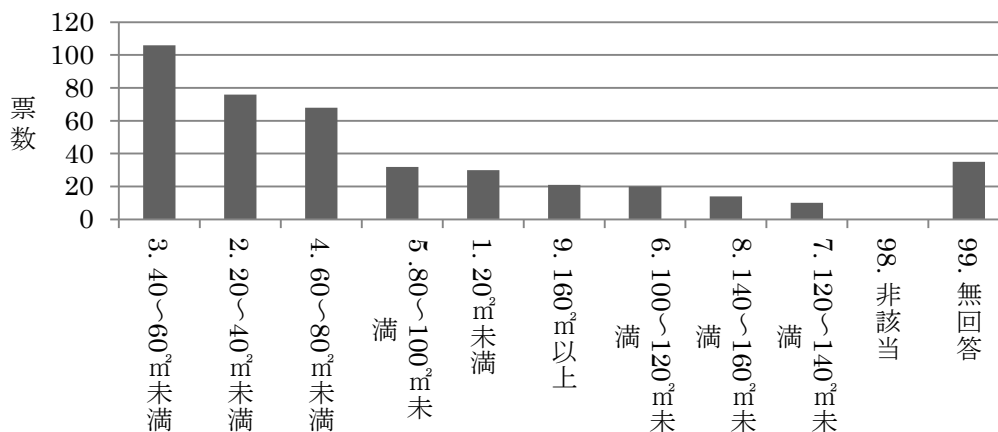


図 59 転入前の住宅の床面積

図 59 は、転入前の住宅の床面積を示したものである。最も多いのが「40～60 ㎡未満」の 106 票で全体の 25.7%を占める。次いで、「20～40 ㎡未満」が 76 票（18.4%）であり、「60～80 ㎡未満」が 68 票（16.5%）、「80～100 ㎡未満」が 32 票（7.8%）と続く。

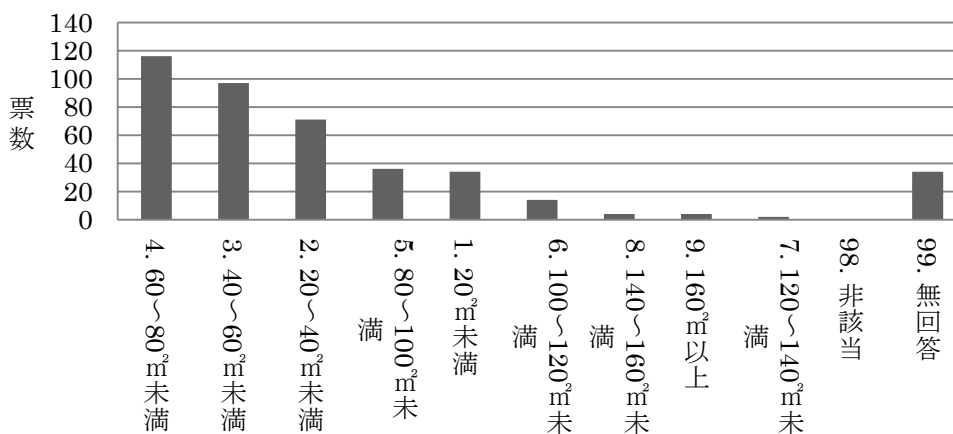


図 60 転入後の住宅の床面積

図 60 は、転入後の住宅の床面積を示したものである。最も多いのが「60～80 ㎡未満」であり、図 59 と比べて約 50 票増加して、116 票（28.2%）となっている。次いで、「40～60 ㎡未満」が 97 票（23.5%）であり、「20～40 ㎡未満」が 71 票（17.2%）と続く。また、100 ㎡以上の床面積については軒並み減少している。「160 ㎡以上」が 21 票から 4 票、「140～160 ㎡未満」が 14 票から 4 票、「120～140 ㎡未満」が 10 票から 2 票となっている。

第4部 クロス集計の結果と考察（転出者）

集計結果の要旨

- ・ 年齢・居住期間クロスでは、「1～3年未満」は、「25～29歳」が31票で最多で、「30～34歳」が20票、「35～39歳」が19票と続く。さらに、居住期間が「1年未満」に着目すると、「20～24歳」の15票が最多である。これらから、20～30代の世代は、男性を中心として比較的短い期間、戸田市に住み、他所に転出していくことが分かる。
- ・ そのような転出の理由については、「25～29歳」では、「住宅事情」と「結婚」がともに15票で最多で、「転勤」が13票と続く。とりわけ「結婚」に関しては、女性が7票と、男性に迫っている。年齢階層の総計で次に多いのは、「30～34歳」であり、「結婚」が13票、「転勤」が12票と続いた。特に「結婚」に関しては、女性は7票で男性よりも多い。
- ・ 転出先の最多は「埼玉県」であり、その理由として「住宅事情」が最多の47票であり、「結婚」の20票（うち女性が13票）が、それに続いた。一方、総計が第2位である「東京都」の場合は、「結婚」が12票で最多であったものの、「通勤通学の利便性」が10票で続いた。
- ・ 転出先である現住所での定住意向について、転出先の最多である「埼玉県」では、「できれば住み続けたい」が47票、「ぜひ住み続けたい」が32票であり、定住意向が高いことが示された。ただ、「わからない」という回答も31票あり、定住に関する迷いや不安定さがうかがえる。
- ・ 戸田市への帰還意向について、「埼玉県」では、「どちらかといえば戻りたい」が57票であり、「ぜひ戻りたい」が23票で、戸田市への強い帰還意向が表れていることが判明した。
- ・ 戸田市への帰還意向について埼玉県内の都市に着目すると、「さいたま市」は、「どちらかといえば戻りたい」が23票、「ぜひ戻りたい」が8票と他都市よりも、戸田市へ帰還意向が強く表れている。その一方で、「戻りたくない」が12票、「どちらかといえば戻りたくない」が9票と戸田市への帰還意向が消極的であることも判明した。「さいたま市」に関しては、戸田市への帰還意向と非帰還意向が併存している状況が示されている。
- ・ 転出前後の住宅について、転出後は「民間借家（アパート等）」の総数が136票となり、転出前より60票以上も減少している。一方、増加しているのが「持家（一戸建）」であり、総計が92票となっている。とりわけ、「100～120㎡未満」が31票となっているほか、「160㎡以上」が17票、「80～100㎡未満」が13票となっている。「持家（一戸建）」について、転出前は「25～29歳」と「35～39歳」で、5票ずつしかなかったものが、転出後は、どちらも17票となっており、総数で91票となっている。これらの点から、「民間借家（アパート等）」から「持家（一戸建）」への住み替えが、25～39歳の年齢階層を中心に、それ以上の年齢階層も含めて起きていることが把握できる。

第2部における転出者の単純集計結果を踏まえて、以下では戸田市における人口移動の実態の特質について、いくつかの設問に着目して考察する。

まず、転出者の現住所、すなわち、戸田市からの転出先の住所については、埼玉県や東京都を中心とする隣接市区への転出が5割以上を占めた。転出先の住所は、全国に拡散しているというよりも、戸田市から比較的近距离に位置しているということが明らかになった。そういった点から、転出のきっかけとなった理由や転出先の選択理由について詳しく分析する。その他、転出先への定住意向や戸田市への（非）帰還意向、転出前後での住宅の所有関係や床面積の変化についても詳述する。

次に、転出時における年齢については、25～39歳までが全体の5割強を占める。どれくらいの年齢層がどこに、どの程度転出したのか、その転出理由は何かということについて明らかにする。また、上述のように転出前後の住宅の所有関係や床面積の変化と年齢との関係についても分析する。

そして、転出前の戸田市における居住期間については、5年未満までの比較的短い居住期間が全体の約6割を占める。どれくらいの年齢層が、戸田市のどこに居住したのかについても明らかにしたい。なお、以下の第4・5部のクロス表は、無回答や非該当などを除いた有効回答について集計したものである。したがって、それぞれの集計表によって票の総計が異なることをあらかじめ断っておく。

I. 前住所と各要素のクロス集計

まず、表1は戸田市からの転出者の転出時の年齢と性別のクロスである。

表1 年齢・性別クロス

	男性	女性	総計
14歳以下	4	2	6
15～19歳	2	4	6
20～24歳	22	22	44
25～29歳	57	17	74
30～34歳	43	17	60
35～39歳	42	18	60
40～44歳	26	2	28
45～49歳	10	5	15
50～54歳	10	5	15
55～59歳	7	2	9
60～64歳	6	5	11
65～69歳	3	1	4
70～74歳		3	3
75歳以上	5	6	11
総計	237	109	346

年齢構成としては、「25～29歳」が最もボリュームがあり、なおかつ、男性が57票と最多である。それに次いで、「30～34歳」、「35～39歳」が総計でそれぞれ60票、男性で43票、42票となっている。一方、女性に関しては、「20～24歳」が22票と最多になっている。

それでは、この20代、あるいは30代といった、最もボリュームがある世代は、どれくらいの期間、戸田市に居住して、他所へ転出していったのであろうか。

表2 年齢・性別・居住期間クロス

	1～3年未満			3～5年未満			1年未満			5～10年未満			10～20年未満			20年以上			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
14歳以下	1		1				3	2	5										6
15～19歳		1	1					2	2				2	1	3				6
20～24歳	8	6	14	3	5	8	8	7	15				1	3	4	2	1	3	44
25～29歳	27	4	31	6	5	11	10	1	11	5	3	8	5		5	4	3	7	73
30～34歳	16	4	20	9	2	11	9	2	11	4	1	5	1	4	5	4	4	8	60
35～39歳	16	3	19	5	2	7	1	1	2	14	8	22	3	2	5	3	2	5	60
40～44歳	4	1	5	8		8	2		2	7		7	4	1	5	1		1	28
45～49歳		1	1	4		4	2	1	3	3		3	1	3	4				15
50～54歳	1	2	3	1		1	1		1	3		3	2	1	3	2	2	4	15
55～59歳				1	1	2	1		1	2		2	3		3		1	1	9
60～64歳	1	2	3	1		1	1		1	1	1	2	1	2	3	1		1	11
65～69歳	1		1										1	1	2	1		1	4
70～74歳													1	1			2	2	3
75歳以上				1		1				1		1	1	3	4	2	1	3	9
総計	75	24	99	39	15	54	38	16	54	40	13	53	25	22	47	20	16	36	343

表2は転出時の年齢と性別、戸田市での居住期間のクロスである。これによると、年齢階層別では「25～29歳」が73票で最多であり、とりわけ、「1～3年未満」が31票となっている。その内訳は、男性が27票と女性を圧倒している。また、より短い「1年未満」、「3～5年未満」も11票である。居住期間別では、「1～3年未満」は「30～34歳」が20票、「35～39歳」が19票で、その内、男性はいずれも16票となっている。一方、居住期間が「1年未満」に着目すると、「20～24歳」の15票が最多であり、内訳も男性が8票、女性が7票と拮抗している。20から30代の世代は、男性を中心として比較的短い期間、戸田市に住み、他所へ転出していくことが分かる。また、居住期間で「10～20年未満」は、どの年齢階層にも広くみられるし、男女の性別の差異も比較的少ない。

転出者がどこに移り住んだのかを把握する前に、前住所である戸田市での住所とそこでどれほど居住したのかについて確認したい。表3は、前住所と性別、居住期間をクロスしたものである。前住所で最多が「大字新曽」の56票であり、その中でも、居住期間別では「1～3年未満」が最多の19票（うち男性は16票）となっている。それに続いて、「本町」、「上戸田」がそれぞれ13票（うち男性は9票）となっている。また、居住期間がより短い「1年未満」では、「上戸田」の10票（男性・女性5票ずつ）が最多であり、次いで、「大字新曽」、「本町」がいずれも6票（うち男性は4票）であった。

一方、票数は少ないものの、居住期間が長めである、「10～20年未満」の場合は、「大字新曽」が7票、「笹目」が6票であるし、「20年以上」では、「上戸田」が6票（うち女性が4票）であった。これらから、前住所の上位3地区を中心にして、5年までの居住期間で他所に転出するケースが多いことが分かる。

表3 前住所（戸田市）・性別・居住期間クロス

	1～3年 未満			3～5年 未満			5～10年 未満			10～20年 未満			1年 未満			20年 以上			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
大字新曽	16	3	19	5	6	11	9	3	12	5	2	7	4	2	6	1	1	2	56
本町	9	4	13	6	2	8	7	1	8	1	3	4	4	2	6	2	1	3	42
上戸田	9	4	13	3	2	5	4		4	2	2	4	5	5	10	2	4	6	42
笹目	8	2	10	3	1	4	1		1	3	3	6	3		3	2	1	3	27
喜沢	6	2	8	2	1	3	2	2	4	1	2	3	2	1	3		1	1	22
下前	2	1	3	3	1	4	1		1	2	1	3	2	1	3	3		3	17
美女木		3	3	1		1	1	1	2	1	3	4	3	1	4	1	1	2	16
喜沢南	2		2	2	1	3		1	1	2		2	4		4	1	2	3	15
新曽南	2	1	3				3		3	2	1	3	3		3	1	1	2	14
中町	2	1	3	4	1	5	1		1	2	1	3				1		1	13
氷川町	2	1	3	1		1	1	1	2		3	3				2		2	11
南町	2		2	2		2	4		4				1		1	1	1	2	11
美女木東	3	1	4	1		1	1	1	2	2		2	1		1				10
下戸田	2		2	1		1	1		1	2	1	3				1		1	8
笹目北町	2		2	1		1										1	1	2	5
川岸	2		2	1		1	1	1	2										5
笹目南町	1		1					1	1								1	1	3
大字上戸田	1		1										1		1				2
大字美女木							1		1										1
総計	71	23	94	36	15	51	38	12	50	25	22	47	33	12	45	18	15	33	320

表4 前住所（戸田市）・性別・年齢クロス

	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	総計
男性総計	4	2	19	53	39	41	26	8	8	6	6	3	5	220	
大字新曽		1	4	6	7	9	4		1	5				1	38
本町	1		1	8	3	7	4	3			2				29
上戸田	1	1	4	5	6	4	2			1				1	25
笹目			3	4	4	4	2	1	1		1				20
下前			2		8		1		2						13
喜沢	1		1	6			2		1		2				13
喜沢南			3	2	4				1					1	11
新曽南	1			3	2	3	2								11
中町				4	1	1	2	1				1			10
南町						6		1	1		1			1	10
美女木東			1	4	1	1	1								8
下戸田				3		2	1	1							7
美女木				3	2	1	1								7
氷川町				2	1		3								6
笹目北町				1			1		1			1			4
川岸				1		2		1							4
大字上戸田				1		1									2
大字美女														1	1
笹目南町												1			1
女性総計	1	4	20	17	16	17	2	4	5	2	4	1	3	6	102
上戸田			4	2	3	5			1		2				17
大字新曽	1		4	6	4	2									17
本町		1	2	3	4	1					1		1		13
美女木			2		3	1		1	1					1	9
喜沢		2	2			2		1		1	1				9
笹目			1	3				1	1				1	2	9
氷川町		1			1	1		1				1			5
喜沢南			1			1			1					1	4
下前			3	1											4
中町						1	1							1	3
新曽南					1	1			1						3
南町				1										1	2
美女木東			1			1									2
笹目南町						1				1					2
川岸				1											1
笹目北町													1		1
下戸田							1								1
総計	5	6	39	70	55	58	28	12	13	8	10	4	3	11	322

表4は、前住所にどのような年齢階層の男女が居住しているかを明らかにするためのクロスである。「25～29歳」が最多の70票（うち男性が53票）であり、そのうち男性の前住所は「本町」が8票、「大字新曽」と「喜沢」が6票であった。年齢階層では、「35～39歳」が58票（うち男性が41票）、「30～34歳」が55票（うち男性が39票）となっている。

一方、女性では、「20～24歳」の年齢階層が20票で最多で、その内訳は「大字新曽」、「上戸田」がいずれも4票で、次いで「下前」が3票であった。この年齢階層に限ると、男性よりも票数が多く、女性の方がやや早い年齢での転出行動がみられることが分かる。

表5 年齢・性別・転出理由クロス

	転勤		住宅事情		結婚		生活環境上の理由		転職		親と同居		通勤通学の利便性		入学・進学		就職		健康上の理由		総計
	男	女	男	女	女	男	男	女	男	女	女	男	男	女	女	男	女	男	女	男	
14歳以下			2			1															3
15～19歳														4	2						6
20～24歳	4		1		2	1	2	1	2	4	1	2	1	2	1	2	7	3		1	37
25～29歳	12	1	12	3	7	8	5	1	5			1	2	4	2	1	1		1		64
30～34歳	12		9	1	7	6	2	1	6			1	3	2		1	1		2		54
35～39歳	15	2	13	1	5	1	4	1	3	1	2			1		1			1	2	53
40～44歳	11		6	1		2	2		1	1		2									26
45～49歳	6		3	2					1		1										13
50～54歳	4		1	1			1				2		1	1							11
55～59歳	1		4	1							1										7
60～64歳			1					2	1			1	1						1		7
65～69歳	1						2				1										4
75歳以上							1	1			2	1							1	1	7
総計	69		62		40		26		25		18		18		13		12		9		292

それでは、20～30代の若年世代は、どのような理由で戸田市から転出していくのであろうか。表5では、いくつかのライフイベントが、転出の理由となっていることが把握できる。「25～29歳」では、「住宅事情」と「結婚」がともに15票で最多で、「転勤」が13票と続く。とりわけ「結婚」に関しては、女性が7票と、男性に迫っている。年齢階層の総計で次に多いのは、「30～34歳」であり、「結婚」が13票、「転勤」が12票と続いた。特に「結婚」に関しては、女性は7票で男性よりも多く、「25～29歳」と同様に、これらの年齢階層と「結婚」に関して、女性が多いことが改めて確認できる。

他方、年齢階層別で次に多い、「20～24歳」は、やや異なる転出理由がある。最多が「就職」の10票（うち女性が7票）であり、次いで、「転職」が6票であった。高等教育機関を卒業する年齢であり、就職を機に転出するケースもみられるようである。

Ⅱ. 現住所と各要素のクロス集計

本章では、現住所と他の集計データをクロスさせていく。表6は現住所と性別といった基本属性に関するクロス集計である。

表6 現住所・性別クロス

No.	現住所	男性	女性	総計	No.	現住所	男性	女性	総計
1.	埼玉県	85	43	128	17.	新潟県	1	1	2
2.	東京都	35	30	65	18.	京都府	1	1	2
3.	神奈川県	10	9	19	19.	岩手県	2		2
4.	千葉県	11	4	15	20.	香川県	2		2
5.	愛知県	11	2	13	21.	福島県		2	2
6.	大阪府	10	2	12	22.	徳島県	1		1
7.	福岡県	9	2	11	23.	熊本県	1		1
8.	茨城県	10	1	11	24.	高知県	1		1
9.	北海道	8	2	10	25.	長野県		1	1
10.	兵庫県	7		7	26.	宮崎県	1		1
11.	静岡県	3	2	5	27.	佐賀県		1	1
12.	栃木県	5		5	28.	三重県	1		1
13.	青森県	4	1	5	29.	和歌山県	1		1
14.	群馬県	4		4	30.	山形県	1		1
15.	沖縄県	1	2	3	31.	山口県		1	1
16.	宮城県	2	1	3		総計	228	108	336

次ページでは、現住所別で票数が多かった、埼玉県及びさいたま市、東京都と性別・年齢とのクロスについて基本情報として掲載する。

表7 現住所（埼玉県内）・性別・年齢クロス

	さいたま市			川口市			蕨市			越谷市			新座市			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
14歳以下	1	1	2	2		2				1		1				5
20～24歳	4	1	5		2	2					1	1				8
25～29歳	7	5	12	1		1	1		1				1	1		15
30～34歳	8		8	3	2	5	3	4	7				1		1	21
35～39歳	8	3	11	1	1	2				1	1		1	1		15
40～44歳	3		3	2	1	3	4		4	1		1				11
45～49歳	1	2	3													3
50～54歳		1	1	1	1	2	1		1							4
55～59歳	3		3		1	1							1		1	5
60～64歳	1		1	2		2		1	1							4
65～69歳	1		1													1
70～74歳		2	2													2
75歳以上	1	1	2		1	1										3
総計	38	16	54	12	9	21	9	5	14	2	2	4	3	1	4	97

表7は、埼玉県内の現住所と性別をクロスしたものである。埼玉県内の現住所については、票数上位5位まで提示している。最多は、「さいたま市」の54票であり、次いで「川口市」が21票、「蕨市」が14票である。年齢階層別でみると「さいたま市」では、「25～29歳」が12票、「35～39歳」が11票と続く。また、各年齢階層に幅広く分布しているのも特徴である。「川口市」では21票のうち女性が9票ではあるものの、年齢階層と性別との関係に大きな特徴はみられない。「蕨市」は、「30～34歳」が7票で最もボリュームがある。

表 8 現住所・転出理由クロス

	埼玉県			東京都			神奈川県			千葉県			大阪府			総計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
住宅事情	41	6	47	6	3	9	1	1	2	1		1				59
結婚	7	13	20	9	3	12	1	1	2	1	1	2		1	1	37
生活環境上の理由	11	1	12	3	5	8				1	1	2	1		1	23
転勤	3		3	3	2	5	3		3				9		9	20
通勤通学の利便性	2	3	5	5	5	10	3		3							18
親と同居	5	3	8		4	4					1	1				13
転職	6	1	7	3		3	1		1				1	1		12
入学・進学		1	1	2	3	5	1	1	2	1		1				9
就職	1	2	3					2	2	2		2				7
離婚	1	2	3		1	1				1	1	2				6
健康上の理由	1	2	3					1	1	1		1				5
親と近居	1	2	3		2	2										5
定年退職	1		1		1	1				2		2				4
子育て環境上の理由	1	1	2		1	1										3
子と同居		2	2							1		1				3
総計	81	39	120	31	30	61	10	6	16	11	4	15	10	2	12	224

表 8 は転出先である現住所と転出理由に関するクロスである。これらの現住所は上位 5 都府県である。転出先の最多は「埼玉県」であり、その理由として最も多かったものが、「住宅事情」の 47 票であり、「結婚」の 20 票（うち女性が 13 票）が、それに続いた。一方、総計が第 2 位である「東京都」の場合は、「結婚」が 12 票で最多であったものの、次は「通勤通学の利便性」が 10 票で続いており、職場や学校へのアクセスについて、東京都に優位性があることを示している。また、戸田市から遠隔地である「大阪府」では「転勤」が最多の 9 票であった。

表9 現住所・性別・定住意向クロス

	住み続けたい		できれば 住み続けたい		ぜひ住み 続けたい		わからない		の市区町村 に移りたい		できれば他 区町村に移 りたい		ぜひ他の市 区町村に移 りたい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
埼玉県	30	17	26	6	21	10	4	9	2	1	126				
東京都	13	11	11	8	4	7	5	4	2		65				
神奈川県		1	4	3	2	3	3	1	1		18				
千葉県		2	2		5	2	2		2		15				
愛知県	3		2		3	2	1		2		13				
大阪府	1	1	2	1	4		2		1		12				
茨城県	2		4		1		2		1	1	11				
福岡県	4		2	1	2		1			1	11				
北海道	2		2		2	2	2				10				
兵庫県			1		3		2		1		7				
栃木県	1		2				2				5				
静岡県					2	2	1				5				
青森県	2				1	1	1				5				
群馬県	1		1		1				1		4				
沖縄県			1	1		1					3				
宮城県			1		1	1					3				
福島県		2									2				
香川県					1				1		2				
京都府	1									1	2				
岩手県			1				1				2				
新潟県		1	1								2				
長野県								1			1				
山形県								1			1				
高知県	1										1				
徳島県								1			1				
山口県		1									1				
佐賀県										1	1				
和歌山県			1								1				
熊本県					1						1				
三重県							1				1				
総計	61	36	64	20	54	31	32	15	14	5	332				

表9は、転出先である現住所とそこでの定住意向に関するクロスである。転出先の最多である「埼玉県」では、「できれば住み続けたい」が47票、「ぜひ住み続けたい」が32票であり、定住意向が高いことが示された。ただ、「わからない」という回答も32票あった。「東京都」も「埼玉県」と同様に、「できれば住み続けたい」が24票、「ぜひ住み続けたい」

が 19 票となっており、定住意向が高い。一方、「できれば他の市区町村に移りたい」、「ぜひ他の市区町村に移りたい」が少ないものの散見され、「香川県」や「京都府」、「佐賀県」など、首都圏からの遠隔地に多くみられる。

表 10 現住所（埼玉県内）・性別・定住意向クロス

	住み続けたい		できれば続けたい		ぜひ住みたい		わからない		に移りたくない		できれば他の市区町村に移りたい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
さいたま市	12	8	13	4	9	2	2	3	1				54
川口市	6	3	3	1	1	1	3		1	1			20
蕨市	4	1	1		4	3	1						14
越谷市	1		1			1	1						4
新座市	2				1	1							4
総計	25	12	18	5	15	8	7	3	2	1			96

表 10 は、埼玉県内における現住所とそこでの定住意向について取り出したクロスである。埼玉県内の上位 5 都市を示している。総計の上位から「さいたま市」、「川口市」、「蕨市」といずれも戸田市に隣接した都市である。とりわけ、「さいたま市」は「できれば住み続けたい」が 20 票、「ぜひ住み続けたい」が 17 票と他の都市を圧倒している。さらに、「ぜひ他の市区町村に移りたい」という、積極的な転出の回答は 3 票にとどまった。

その一方で、「わからない」という回答は「さいたま市」が 11 票、「蕨市」が 7 票となっており、各都市に定住することがまだ定まっていないことを示している。

表 11 現住所・性別・帰還意向クロス

	どちらかといえば戻りたい		どちらかといえば戻りたくない		戻りたくない		ぜひ戻りたい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
埼玉県	37	20	16	8	14	5	13	10	123
東京都	16	12	11	11	6	6	2	1	65
神奈川県	3	6	5	1		1	1		17
千葉県	5	2			2	2	4		15
愛知県	8	2	2				1		13
大阪府	6		1	1	2		1	1	12
福岡県	6	1	1		2	1			11
茨城県	3		1		2	1	4		11
北海道	5	1	2	1	1				10
兵庫県	5		1				1		7
総計	94	44	40	22	29	16	27	12	284

表 11 は、現住所から戸田市への帰還意向を問うたものである。ここでは上位 10 都府県を取り上げている。「埼玉県」では、「どちらかといえば戻りたい」が 57 票であり、「ぜひ戻りたい」が 23 票で、戸田市への強い帰還意向が表れていることが判明した。とりわけ、「ぜひ戻りたい」という強い意思表示があったことが特徴的であり、それは「東京都」をはじめとする他の都府県からの帰還意向と大きく異なるところである。その他、「どちらかといえば戻りたい」では、「愛知県」、「大阪府」、「福岡県」、「北海道」などが多いものの、これは転勤先からの帰還意向であると思われる。以下では、埼玉県内からの帰還理由について詳しく見ていく。

表 12 現住所（埼玉県内）・性別・帰還意向クロス

	どちらかといえば戻りたい		どちらかといえば戻りたくない		ぜひ戻りたい		戻りたくない		総計
	戻りたい		戻りたくない		戻りたい		戻りたくない		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
さいたま市	15	8	6	3	5	3	10	2	52
川口市	5	4	2	1	3	3	1	1	20
蕨市	6	2	1		2	3			14
越谷市	1	2	1						4
新座市	1		2	1					4
総計	28	16	12	5	10	9	11	3	94

表 12 は、埼玉県内の現住所から戸田市への帰還意向について示したものである。ここでは上位 5 都市を取り上げている。「さいたま市」は、「どちらかといえば戻りたい」が 23 票、「ぜひ戻りたい」が 8 票と他都市よりも、戸田市へ帰還意向が強く表れている。その一方で、「戻りたくない」が 12 票、「どちらかといえば戻りたくない」が 9 票と戸田市への帰還意向が消極的であることも判明した。「さいたま市」に関しては、表 10 の定住意向クロスでも示されたように、戸田市への帰還意向と非帰還意向が併存している状況が示されている。次に、「川口市」や「蕨市」は「どちらかといえば戻りたい」が、それぞれ 9 票、8 票であり、「ぜひ戻りたい」がそれぞれ 8 票、6 票であり、非帰還意向が少ない。

表 13 現住所・性別・帰還理由クロス

	通勤・通学が便利		日常生活が便利		広域公共交通の高利便性		子育て環境が充実		生まれ育ったところが豊か		公園や自然環境が整備		良好な住環境が充実		医療・福祉が高利便性		市内公共交通が便利		道路事情がよい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	男	女			
埼玉県	14	3	6	6	1	5	5		4	3	4	2	3	1	3		2	1	1		64
東京都	3	1	6	4	2				1		1	2	1	3	1				2		27
千葉県	3	1	1						1				1		1		1		1		10
愛知県	3			1	2								2								8
神奈川県	2	1		2		1				1											7
茨城県	1		2		2		1						1								7
福岡県	2						1		1		1				1						6
大阪府			1		1		3		1												6
北海道	1		1	1	1						1										5
兵庫県	2				1		1				1										5
総計	33	6	18	15	11	6	11	0	8	4	8	4	8	4	4	1	4	1	4		150

表 13 は、戸田市への帰還意向の理由について現住所とクロスしたものである。現住所は上位 10 都府県であり、帰還理由も上位 10 のものである。同じ「埼玉県」であっても、「通勤・通学が便利」が 17 票で最多であった。これは戸田市の地理的位置が通勤・通学に便利であることを如実に示している。次いで、買い物などの「日常生活が便利」が 12 票（男女とも 6 票ずつ）であった。この項目に関しては、「東京都」でも 10 票であり、戸田市の強みとなりうると思われる。それに関して、「広域公共交通の高利便性」についても「埼玉県」では 6 票あり、特に女性が 5 票であり、バスなどの公共交通の利便性が一定評価されているのではないかと推察される。また、「子育て環境が充実」も「埼玉県」では男性のみ 5 票あり、ボリュームとしては多くないものの一定の認知があることを示している。

表 14 現住所・性別・非帰還理由クロス

	通勤・通学 が便利		予め住居 が用意		親族の居住 地から近い		生まれ育っ たところ		日常生活 が便利		治安が よい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
埼玉県	2		6	4	4	2	3				5	1	27
東京都	10	7	1	1		1			1	3	1		25
神奈川県					1		1		1	1			4
沖縄県				1			1	1					3
大阪府	1							1	1				3
総計	13	7	7	6	5	3	5	2	3	4	6	1	62

一方、表 14 は、戸田市への帰還意向がない理由（非帰還理由）について現住所とクロスしたものである。「埼玉県」では、社宅や官舎のような「予め住居が用意」が 10 票で最多であった。だが、「治安が良い」が 6 票であり、これは相対的に戸田市の治安、あるいは体感不安があることを示唆している可能性がある。「東京都」は、「通勤・通学が便利」が 17 票で他の項目を圧倒している。

Ⅲ. 転出前後の住宅に関するクロス集計

まず、転出前後における住宅の所有関係と床面積をクロスさせることで、戸田市にはどれくらいの面積で、こういった種類の住居がみられるかを確認し、戸田市での住居と転出先の住居に、所有関係や床面積に差異が生まれるのかを明らかにしたい。

表 15 住宅所有関係・住宅床面積（移動前）クロス

	40～60㎡未満	60～80㎡未満	20～40㎡未満	20㎡未満	80～100㎡未満	100～120㎡未満	160㎡以上	120～140㎡未満	140～160㎡未満	総計
民間借家(アパート等)	74	37	60	15	8	1			2	197
給与住宅(社宅等)	5	19	13	16	2	1				56
持家(分譲マンション)	1	16	2		9	1		1		30
持家(一戸建)	2	7	1		3		5	4	2	24
公営住宅	5	2	1		1					9
民間借家(一戸建)	2	1			1	2				6
学生寮	2		1	2	1					6
施設(病院等)				2						2
親戚の家	1									1
総計	92	82	78	35	25	5	5	5	4	331

表 15 では、「民間借家（アパート等）」が総計で 197 票と最多である。床面積では、「40～60㎡未満」が 74 票、「20～40㎡未満」が 60 票となっており、賃貸マンションやアパート住まいが多いことが確認できる。続いて総計では、「給与住宅（社宅等）」が 56 票になっている。一方、持家に関しては、「持家（分譲マンション）」が 30 票であるものの、「持家（一戸建）」は総計で 24 票である。それでは、転出後の住宅の所有関係と床面積には、転出前と比べて変化がみられるだろうか。

表 16 では、「民間借家（アパート等）」の総数が 136 票となり、転出前より 60 票以上も減少している。詳しくみると「40～60㎡未満」が 52 票、「20～40㎡未満」が 45 票、「60～80㎡未満」が 18 票となり、いずれも転出前よりも票を減らしている。一方、増加しているのが「持家（一戸建）」であり、総計が 92 票となっている。とりわけ、「100～120㎡未満」が 31 票となっているほか、「160㎡以上」が 17 票、「80～100㎡未満」が 13 票となっている。また、「持家（分譲マンション）」も総計で 37 票、その内「60～80㎡未満」が 22 票を占めており、転出前に比べて微増している。

表 16 住宅所有関係・住宅床面積（移動後）クロス

	40 [㎡] ～60 [㎡] 未満	60 [㎡] ～80 [㎡] 未満	20 [㎡] ～40 [㎡] 未満	100 [㎡] ～120 [㎡] 未満	80 [㎡] ～100 [㎡] 未満	160 [㎡] 以上	20 [㎡] 未満	140 [㎡] ～160 [㎡] 未満	120 [㎡] ～140 [㎡] 未満	総計
民間借家(アパート等)	52	18	45	1	9		11			136
持家(一戸建)	3	5	2	31	13	17		11	10	92
給与住宅(社宅等)	11	14	8	1	2		1			37
持家(分譲マンション)	4	22	1	2	8					37
民間借家(一戸建)	3	1			1				1	6
公営住宅	2	2	1		1					6
親戚の家		1	1	1		1				4
間借り・下宿	1	2								3
学生寮		1		1			1			3
施設(病院等)							3			3
総計	76	66	58	37	34	18	16	11	11	327

次に、転出前後の住宅の所有関係と年齢階層をクロスさせることで、どのような年齢階層が、どのような住宅を所有するのか、転出前後でその所有関係に差異は見られるのかについて明らかにしたい。

表 17 では、年齢と転出前の住宅の所有関係とのクロス集計をしている。住宅の所有関係の総計で最多は「民間借家(アパート等)」の 198 票である。戸田市から転出する前に、「民間借家(アパート等)」では、「25～29 歳」が 49 票、「35～39 歳」が 35 票、「30～34 歳」が 34 票となっていた。すなわち、25～39 歳の年齢階層では、その多くが「民間借家(アパート等)」に住まうということである。

表 17 年齢・性別・住宅所有関係（移動前）クロス

	（アパート等） 民間借家		（社宅等） 給与住宅		マンション 持家（分譲）		持家（一戸建）		公営住宅		（一戸建） 民間借家		学生寮		施設（病院等）		親戚の家	総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	
14歳以下	1	2			1													4
15～19歳	1	2		1	1									1				6
20～24歳	10	17	5	2	1	1	2		2				2	1				43
25～29歳	38	11	9	2	1	1	2	3			2		2				1	72
30～34歳	24	10	9	3	4	1	3	2	2		1							59
35～39歳	24	11	9	1	4		1	4	2	1	1	1						59
40～44歳	14	2	6		3		1		2									28
45～49歳	6	3	3	1	1													14
50～54歳	6	2	1		2	3	1											15
55～59歳	5	1	1	1											1			9
60～64歳	2	4	1		1	1	2											11
65～69歳					1	1	1											3
70～74歳						1		1			1							3
75歳以上	1	1			2	1		3							1	1		10
総計	132	66	44	11	22	10	13	13	8	1	4	2	4	2	2	1	1	336

その一方で、表 18 にもあるように、戸田市からの転出後は、「民間借家（アパート等）」が最多の 141 票であるものの、表 15 と比べると 50 票以上減少している。他方、票数を伸ばしているのが「持家（一戸建）」である。表 15 では、「25～29 歳」と「35～39 歳」で、5 票ずつしかなかったものが、表 16 ではどちらも 17 票となっており、総数で 91 票となっている。また、「持家（一戸建）」は 40 歳以上の年齢階層にも幅広く分布していることが分かる。これらの点から、「民間借家（アパート等）」から「持家（一戸建）」への住み替えが、25～39 歳の年齢階層を中心に、それ以上の年齢階層も含めて起きていることが把握できる。

表 18 年齢・性別・住宅所有関係（移動後）クロス

	パート等		民間借家(ア)		持家(一戸建)		給与住宅(社宅等)		持家(分譲マンション)		公営住宅		民間借家(一戸建)		親戚の家		施設(病院等)		間借り・下宿		学生寮		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	男	女	
14歳以下	1	1	1				1	1															5
15～19歳	1	3																			1	1	6
20～24歳	11	11	6	5	2	3	2	1											1				42
25～29歳	28	10	13	4	7	1	3	2	1	2											1		72
30～34歳	18	12	9	2	7	1	6	1	2	1													59
35～39歳	14	8	15	2	7		4	4		1		1											56
40～44歳	8	1	8		5		2		1				2						1				28
45～49歳	1	1	3	3	4		1	1															14
50～54歳	5		2	2	1		1	1		1											1		14
55～59歳	1		3	1			2					1				1							9
60～64歳	1	2	4	2			1						1										11
65～69歳		1	1				1																3
70～74歳		1		1																			2
75歳以上	1		2	2								1		1		1	2						10
総計	90	51	67	24	33	5	24	11	4	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	1	2	1	331

表 19 前住所・性別・住宅所有関係（移動前）クロス

	民間借家(アパート等)		給与住宅(社宅等)		持家(分譲マンション)		持家(一戸建)		公営住宅	民間借家(一戸建)		学生寮		施設(病院等)		親戚の家	総計
	男	女	男	女	男	女	女	男	男	男	女	男	女	男	女	男	
大字新曾	28	15	6	1	2	1						1		2			56
本町	20	7	3	2	2	3		2				1					40
上戸田	19	13	1		1		3	1		1		1					40
笹目	10	3	4			2	1	2	2	1	1			1			27
喜沢	9	5		1	1		1	2				1	2				22
下前	3	4	2		4				4								17
美女木	6	6		1		1	1									1	16
新曾南	5	1			4	1	1	1		1							14
喜沢南		2	8		1	1	1										13
中町	6	1	2		2		1				1						13
南町	6		3		1		2										12
氷川町	3	1	2	3		1		1									11
美女木東			7	2					1								10
下戸田	4	1	1					1		1							8
笹目北町	2		1				1	1									5
川岸	2		1	1	1												5
大字上戸田	1		1														2
笹目南町		1					1										2
大字美女木					1												1
総計	124	60	42	11	20	10	13	11	7	4	2	4	2	2	1	1	314

表 19 は、転出前の住所と住宅所有との関係をクロスしたものである。「民間借家（アパート等）」が最も多いのは「大字新曾」の 43 票であり、「上戸田」が 32 票、「本町」が 27 票と続く。上述の「持家（一戸建）」は「上戸田」の 4 票が最多であり、どこかの地区に集中しているわけでもない。一方、「給与住宅（社宅・官舎等）」は「美女木東」に 9 票、「喜沢南」に 8 票みられる。また、「持家（分譲マンション）」は、「本町」と「新曾南」に 5 票ずつみられる。

表 20 現住所・性別・住宅所有関係（移動後）クロス

	パート等		民間借家(アパート等)		持家(一戸建)		給与住宅(社宅等)		持家(分譲マンション)		公営住宅		一戸建		民間借家		親戚の家		施設(病院等)		学生寮		間借り・下宿		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
埼玉県	28	20	35	10	2	1	11	6	1		2	1	2		2	2							1	124	
東京都	18	14	2	3	6	1	7	3	1	2		2		1							1		1	62	
神奈川県	7	6	2		1	1																		17	
千葉県	2	1	3	1	1		1	1						1						1				12	
愛知県	5	2			4				1															12	
福岡県	4			1	2		3	1																11	
茨城県	3	1	5		2																			11	
大阪府	3	2	1		4				1															11	
北海道	3	2	2		3																			10	
兵庫県	4		1		2																			7	
総計	77	48	51	15	27	3	22	11	4	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	277	

表 20 は、転出後の住所と住宅所有との関係をクロスしたものである。この住所は上位 10 都道府県である。上述のように、「埼玉県」の「持家（一戸建）」が 45 票と非常にボリュームがある。それでは、「持家（一戸建）」あるいは「民間借家（アパート等）」は埼玉県内のどこにみられるのだろうか。

表 21 現住所（埼玉県内）・性別・住宅所有関係（移動後）クロス

	パート等		民間借家(アパート等)		持家(一戸建)		給与住宅(社宅等)		持家(分譲マンション)		施設(病院等)		一戸建		民間借家(アパート等)		親戚の家		間借り・下宿		公営住宅		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
さいたま市	14	6	15	3	5	5	2	1			1	1	1		1		1						54
川口市	3	4	4	1	3			1	1			1			1				1				19
蕨市	3	4	3		1			1				1			1								13
越谷市		1	1	1	1																		4
新座市	1	1	1		1																		4
総計	21	16	24	5	11	5	2	2	2	1	1	1	1	2		2		1		0			94

表 21 は、埼玉県内における転出後の住所と住宅所有との関係をクロスしたものである。この住所は上位 5 都市を示している。上述のように、「埼玉県」の「持家（一戸建）」が 45 票と非常にボリュームがある。「持家（一戸建）」は「さいたま市」が 18 票、「川口市」が 5 票と続くほか、県内各市町に広く分布している。その他、「さいたま市」は「民間借家（アパート等）」が 20 票、「持家（分譲マンション）」が 10 票となっており、戸田市からの転出先の第 1 位となっている。

表 22 年齢・性別・住宅床面積（移動前）クロス

	40～60㎡未満		60～80㎡未満		20～40㎡未満		20㎡未満		80～100㎡未満		100～120㎡未満		140～160㎡未満		160㎡以上		120～140㎡未満		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	女	男	女	男	
14歳以下	1	2			1				1										5
15～19歳		2	1	1						1			1						6
20～24歳	2	7	4	1	6	10	7	3	1									1	42
25～29歳	20	5	8		13	5	7	3	3		1	1	1		1				68
30～34歳	14	3	10	2	10	8	4	1	3				1	1			2		59
35～39歳	11	6	16	3	8	6	1	1	2	1	3								58
40～44歳	7	1	11	1	3		1		3										27
45～49歳	1	1	5	2	3		1			1									14
50～54歳	1	2	3	2	1		2		2	1									14
55～59歳	2	1	3				1		1				1						9
60～64歳		2	4	2		1			1						1				11
65～69歳									2						1	1			4
70～74歳		1												1					2
75歳以上		1	2			1	1	1		1				1		1			9
総計	59	34	67	14	45	31	25	9	19	5	4	1	3	2	3	2	4	1	328

表 22 における住宅の床面積の総計で最多は「40～60㎡未満」の 93 票であり、「25～29歳」が 25 票、「35～39歳」、「30～34歳」がそれぞれ 17 票となっていた。他方、「100～120㎡未満」は、「25～29歳」で 2 票、「35～39歳」で 3 票のみであった。

だが、表 23 では、「100～120㎡未満」の総計は 36 票になり、「35～39歳」で 9 票、「25～29歳」と「40～44歳」で 6 票ずつと増加している。こういったところから、賃貸物件から分譲物件への移行がみられる。

表 23 年齢・性別・住宅床面積（移動後）クロス

	40～60㎡未満		60～80㎡未満		20～40㎡未満		100～120㎡未満		80～100㎡未満		20㎡未満		160㎡以上		120～140㎡未満		140～160㎡未満		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
14歳以下		1	1	1					1								1		5
15～19歳				1		3	1				1								6
20～24歳	4	4	3	3	6	3	3	2		2	5	1	4	1		1	1		42
25～29歳	16	4	6	2	15	4	4	2	4	1	3		3		2	2	2	2	70
30～34歳	14	9	13		7	5	4		3				2	1		1			59
35～39歳	6	6	15	5	3	3	9		6	1			1	1	1	1	1		58
40～44歳	3	1	6		4		5	1	4		1			1		2			28
45～49歳	2		4	1	1		1	1	1	1				1	1				14
50～54歳		1	3		2		1		1	3	2		1						14
55～59歳	1	1	1						4		1		1						9
60～64歳		2	1				1	1	2				1	1	1	1	1	1	11
65～69歳	1					1			1								1		4
70～74歳													1		1				2
75歳以上			1	1	1				1				1	1	1				9
総計	47	29	54	14	39	19	29	7	27	7	10	7	6	11	8	5	10	2	331

表 24 は、転出後の住宅の床面積と転出先の住所のクロスである。この住所は上位 10 都道府県である。総数で最多の「埼玉県」では、「40～60㎡未満」が 27 票、「60～80㎡未満」が 22 票について、「100～120㎡未満」が 17 票みられる。上位 2 つは、「民間借家（アパート等）」と重なり、「100～120㎡未満」は「持家（一戸建）」の床面積と重なる。

表 24 現住所・性別・住宅床面積（移動後）クロス

	40～60㎡未満		60～80㎡未満		20～40㎡未満		80～100㎡未満		100～120㎡未満		20㎡未満		160㎡以上		120～140㎡未満		140～160㎡未満		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
埼玉県	12	15	16	6	12	5	12	3	15	2	5	2	2	2	5	2	3	1	120
東京都	11	8	7	5	11	8	2	1	1	2	2	3		1		2			64
神奈川県	3	2	1	1	4	3	1	1				1					1		18
千葉県	3	1	1	1	2		2		1				2				1		14
愛知県	2	1	3		1		4				1			1					13
大阪府	2		4		2		1	1		1							1		12
茨城県	2				3	1			2				2		1				11
福岡県	2		4				2		1	1			1						11
北海道		1	4			1	1		1				1						9
兵庫県	4		2						1										7
総計	41	28	42	13	35	18	25	6	22	6	7	7	5	6	7	4	6	1	279

第5部 クロス集計の結果と考察（転入者）

集計結果の要旨

- ・ 現住所と居住地選択理由については、「通勤・通学が便利」の総計が178票で、他を大きく引き離していることがわかる。単純集計の分析でも、「通勤・通学が便利」という回答が多かったものの、それを改めて裏付ける結果となっている。
- ・ 現在の住所地を選んだ理由について、最も多かったのは「取得価格、家賃が適当」という回答であった。居住地を選択する際には、通勤・通学のアクセスが便利という点、あるいは、通勤先・通学先そのものが近いという点、そして、住居の購入価格や賃料が適切である点ということが重視されていることが改めて確認された。このようなアクセシビリティの高さや住宅価格・賃料の適切性といったハードな部分の良さが戸田市の強みの一つといえる。
- ・ 戸田市への定住意向については、「ぜひ戸田市に住みたい」という回答は、「35～39歳」が16票、「30～34歳」が15票、「25～29歳」が13票となっている。その一方で、「20～24歳」では、その回答が2票のみとなっている。20代前半の若者よりも、20代後半から30代後半の年齢階層に定住意向があると考えられる。
- ・ 転入前の住居で最も多いのは、「民間借家（アパート等）」であり、床面積は「40～60㎡未満」が73票、「20～40㎡未満」が60票である。ついで、「持家（一戸建）」が総計で72票となっている。この「持家（一戸建）」の床面積は「160㎡以上」と「100～120㎡未満」が15票ずつで最多である。
- ・ 「持家（一戸建）」に住まう年齢階層について、「20～24歳」と「25～29歳」がいずれも15票で最多であった。だが、20代で戸建の持家を得ることは容易ではない。ここは一般的に考えて、いわゆる、「実家暮らし」をしており、「就職」や「結婚」、「転職」などのイベントで実家を離れ、戸田市で新たに住まうと考える方が自然であろう。その際に、戸田市における住まいとなるのが、表36にある「民間借家（アパート等）」であろう。「25～29歳」では42票であり、最多である。
- ・ また、さらに上の年齢階層で、「持家（分譲マンション）」への住み替えが進み、「30～34歳」が27票、「35～39歳」が14票と最もボリュームのある年齢階層となる。
- ・ 以上をまとめると、20代前半から半ば頃の年齢階層の社会集団が、戸田市に近接する埼玉県各都市（さいたま市、川口市、蕨市など）や東京都（北区、板橋区、練馬区など）から転入してくる。その際、多くは実家暮らしであり、埼玉県内の場合は特に「持家（一戸建）」の場合が多い。その際の戸田市での住まいは、主に「民間借家（アパート等）」である。その後、5年までの間でまた近接都県に転出する者もいて、他所で「持家（一戸建）」を購入する。あるいは、戸田市の生活が長くなるものは「持家（分譲マンション）」を市内に購入し、住まうということになる。

第4部同様に、以下では、第3部の転入者の単純集計結果を踏まえて、戸田市における人口移動の実態の特質について考察する。

I. 前住所と各要素のクロス集計

表25は戸田市への転入時の年齢と性別のクロスである。年齢構成としては、「30～34歳」が77票で、総計の最多である。それに次いで、「25～29歳」が71票、「35～39歳」が55票と続く。さらに、「20～24歳」は48票だが、とりわけ女性が25票と男性を上回っている。

表25 年齢・性別クロス

	男性	女性	総計
14歳以下	13	7	20
15～19歳	4	8	12
20～24歳	23	25	48
25～29歳	54	17	71
30～34歳	60	17	77
35～39歳	41	14	55
40～44歳	22	12	34
45～49歳	21	3	24
50～54歳	14		14
55～59歳	14	4	18
60～64歳	5	3	8
65～69歳	4	3	7
70～74歳	2		2
75歳以上	3	3	6
総計	280	116	396

表26は、戸田市への転入時の住所と年齢、性別のクロスである。転入時の住所は、その上位5都県である。転入者の単純集計でも示したように、転入は「埼玉県」と「東京都」からが圧倒的に多い。年齢階層としては、「30～34歳」が58票で、総計の最多である。それに次いで、「25～29歳」が56票となっている。

これらから、戸田市への転入は「埼玉県」や「東京都」といった隣接都県から、25～39歳の年齢階層が中心であることが確認できる。

表 26 前住所・性別・年齢クロス

	埼玉県		東京都		神奈川県		愛知県	千葉県		総計
	男	女	男	女	男	女	男	男	女	
14歳以下	5	2	6	4	1					18
15～19歳	1					1				2
20～24歳	2	7	6	9	2	1	1	2	2	32
25～29歳	18	5	17	10			2	3	1	56
30～34歳	14	9	24	6	2		2		1	58
35～39歳	18	6	12	4	1	1	1	1		44
40～44歳	7	6	3	3	2	1	3		1	26
45～49歳	8	1	5	1	1	1	1			18
50～54歳	4		1		3		1			9
55～59歳	6	3	4	1			2			16
60～64歳	3	3	1		1					8
65～69歳	1	1	3	1						6
70～74歳	1		1							2
75歳以上		1		1				1	1	4
総計	88	44	83	40	13	5	13	7	6	299

表 27 は、戸田市への転入理由と年齢階層のクロス分析である。まず、年齢階層としては、「30～34歳」が 71 票で、総計の最多である。その内訳として、「住宅事情」による転入が 26 票、それに次いで、「結婚」による転入が 13 票だった。「結婚」による転入は「25～29歳」で 27 票、「35～39歳」でも 12 票となっており、ライフイベントが転入理由になることが明らかになった。また、「20～24歳」では、「就職」による転入が 17 票あることが確認された。

表 27 年齢・転入理由クロス

	住宅事情	結婚	転勤	就職	転職	通勤通学の利便性	生活環境上の理由	入学・進学	子育て環境上の理由	離婚	総計
14歳以下	4	2	1			1	1	1	7	1	18
15～19歳	1		1	3				6	1		12
20～24歳	5	4	5	17	4	4	2	3		1	45
25～29歳	8	27	10	6	9	3	1	1		1	66
30～34歳	26	15	13		7	4	3	1	1	1	71
35～39歳	16	12	9	3	4	3	2		1	1	51
40～44歳	13	3	11		1					2	30
45～49歳	10		6	2	2	3					23
50～54歳	1		5		1	1	1	1			10
55～59歳	5		1	2	1	1	3				13
60～64歳	2				1		1			2	6
65～69歳										1	1
70～74歳											0
75歳以上	1										1
総計	92	63	62	33	30	20	14	13	10	10	347

Ⅱ. 現住所と各要素のクロス集計

表 28 は、転入後の戸田市内での現住所と年齢階層をクロスしたものである。年齢階層で最多である、「30～34 歳」は、「大字新曽」で 14 票、「上戸田」で 10 票と続いている。「25～29 歳」では、「大字新曽」が 14 票で最多であるのは「30～34 歳」と同様であるが、「本町」が 9 票、「下前」が 7 票と続く。さらに若い「20～24 歳」では、「本町」が 10 票で最多となっている。

表 28 現住所・年齢クロス

	14歳以下	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	総計
大字新曽	5	3	6	14	14	7	3	5		3	2	2			64
上戸田	3	2	6	4	10	8	5	1	1	1				2	43
本町	2		10	9	8	3	4			2		1		1	40
下前	1		5	7	4	2		3		2	1			1	26
大字上戸田	2			3	8	4	1	4	2		1			1	26
喜沢南	1		1	2	8	6	3	1		1	1	1			25
笹目		3	3	2	3	6	2			4	1				24
喜沢			3	5	5	2	2	1	2	2	1				23
中町	1		2	4	1	4	2	2	2	2					20
美女木		1	1	5		4	2				1	1	1	2	18
下戸田	1		4	4	3	3	2		1						18
新曽南	1			3	6	3	2	1					1		17
川岸	2		1	2	1	1		3	1						11
美女木東			3	2	1		1								7
氷川町				1			2	1	1			1		1	7
南町			1	1	2	1			1						6
笹目北町		1	1	1	1	1									5
笹目南町	1						2					1			4
早瀬		1							1	1					3
大字下笹目				1											1
総計	20	11	47	70	75	55	33	22	12	18	8	7	2	8	388

それでは、現住所と年齢階層のクロスを踏まえ、転入者がなぜ現住所を選んだのかについて分析する。

表 29 現住所・居住地選択理由クロス

	通勤・通 学が便利	予め住居 が用意	親族の居住 地から近い	広域公共交通 の高利便性	良好な住環 境が整備	総計
大字新曾	34	8	4	4	3	53
上戸田	24	2	3	2	1	32
本町	22	5	1	4	2	34
大字上戸田	13	2	2	2	1	20
喜沢南	11	1	3		1	16
下前	13	2	1	1		17
笹目	10	5	3			18
喜沢	11	3	3			17
下戸田	7	3	2	1	1	14
中町	7	1	4	1	2	15
新曾南	5	3		3	3	14
美女木	6	3			1	10
川岸	3	3	2			8
美女木東	1	5				6
南町	6			1		7
氷川町	2	3		1		6
笹目北町	2	1		1	1	5
笹目南町		1	1			2
早瀬		1	1			2
大字下笹目	1					1
総計	178	52	30	21	16	297

表 29 は、現住所と居住地選択理由のクロスであり、居住地選択理由の上位 5 を提示している。このクロスでは、「通勤・通学が便利」の総計が 178 票で、他を大きく引き離していることがわかる。現住所の「大字新曾」が 34 票、「上戸田」が 24 票、「本町」が 22 票となっている。単純集計の分析でも、「通勤・通学が便利」という回答が多かったものの、それを改めて裏付ける結果となっている。

それでは、転入者が現住所をなぜ選択したのかについて、ミクロな視点から見たのが次の表 30 である。

表 30 現住所・住所地選択理由クロス

	取得価格、 家賃が適当	職場や学 校に近い	公共交通の 利便性が高い	予め住居 が用意	日照等立地 条件がよい	総計
大字新曾	12	13	16	10	3	54
上戸田	15	6	10	2	2	35
本町	8	7	11	6	1	33
喜沢南	17	1		2	2	22
大字上戸田	8	2	7	3	2	22
笹目	5	6	2	6	2	21
喜沢	7	2	4	3	4	20
下前	8	5	3	4		20
中町	6	3	1	2	4	16
新曾南	7	3	3	2		15
美女木	6	5		2		13
下戸田	2	4	1	3		10
川岸	3	1	1	2		7
南町	2	2	1	1		6
美女木東		1		4		5
笹目北町	2	1		1		4
氷川町		1		3		4
笹目南町	3					3
早瀬				2		2
大字下笹目			1			1
総計	111	63	61	58	20	313

表 30 では、現在の住所地を選んだ理由上位 5 と現住所とのクロスである。ここで明らかになったのは「取得価格、家賃が適当」という回答であった。特に、最多であったのが、「喜沢南」の 17 票であり、次いで、「上戸田」が 15 票、「大字新曾」が 12 票と続く。また、「職場や学校に近い」が「大字新曾」で 13 票、「本町」で 7 票、「笹目」で 6 票と続いた。

居住地を選択する際には、通勤・通学のアクセスが便利という点、あるいは、通勤先・通学先そのものが近いという点、そして、住居の購入価格や賃料が適切である点ということが重視されていることが改めて確認された。このようなアクセシビリティの高さや住宅価格・賃料の適切性といったハードな部分の良さが戸田市の強みの一つといえよう。

表 31 現住所・性別・定住意向クロス

	できれば戸 田市に住み 続けたい		わから ない		ぜひ戸田 市に住み続 けたい		できれば他 の市区町村 に移りたい		ぜひ他の市 区町村に移 りたい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
大字新曾	18	6	11	4	10	3	4	1	4		61
上戸田	10	5	6	4	9	7	1	1			43
本町	11	5	11	5	1		1	3			37
大字上戸田	7	1	4	1	7	4	1	1			26
下前	8	4	4	3	3	1	1			1	25
喜沢南	10	2	4		5	3					24
笹目	5	1	5	3	2	2	3		2		23
喜沢	8	3	7	1				2	1		22
中町	7	1	2	1	5	1			1		18
下戸田	3	2	3	4	2		2		1		17
新曾南	9		3		5						17
美女木	1	3	3	2	3		1	1			14
川岸	2		3	1	4					1	11
美女木東	1	1	1	2		1			1		7
氷川町	1	1	1		2	1					6
南町	2	1	2	1							6
笹目北町	1		2			1	1				5
笹目南町	1	2				1					4
早瀬	1		1	1							3
大字下笹目			1								1
総計	106	38	74	33	58	25	15	9	10	2	370

表 31 は、戸田市へ定住したいという意向と性別、現住所とのクロスである。まず、明らかなことは「ぜひ他の市区町村に移りたい」という回答が少ないことがあげられよう。また、「ぜひ他の市区町村に移りたい」、「できれば他の市区町村に移りたい」という回答がみられないのは、総計の上位から 24 票の「喜沢南」と 17 票の「新曾南」である。

さらに、表 32 では、定住意向と性別、年齢階層のクロスをしている。「ぜひ戸田市に住み続けたい」という回答は、「35～39 歳」が 16 票、「30～34 歳」が 15 票、「25～29 歳」が 13 票となっている。その一方で、「20～24 歳」では、その回答が 2 票のみとなっていることを考えれば、20 代前半の若者に定住意向があるというよりも、20 代後半から 30 代後半の年齢階層に定住意向があると考えられる。

表 32 年齢・性別・定住意向クロス

	できれば戸 田市に住み 続けたい		わから ない		ぜひ戸田 市に住み続 けたい		できれば他 の市区町村 に移りたい		ぜひ他の市 区町村に移 りたい		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
14 歳以下	7	3	1	2	3	1		1	2		20
15～19 歳	2		1	6		1	1				11
20～24 歳	7	9	10	8		2	3	6	2		47
25～29 歳	24	6	13	4	10	3	6	2	1	1	70
30～34 歳	22	10	20		10	5	2		3	1	73
35～39 歳	14	5	11	4	12	4	3			1	54
40～44 歳	10	3	5	5	5	3	1				32
45～49 歳	8		6	2	5	1			2		24
50～54 歳	8		2		3						13
55～59 歳	4	2	3	1	5			1	1		17
60～64 歳		1	2		2	2					7
65～69 歳	1				1	2					4
70～74 歳					2						2
75 歳以上		1	1	1	2	1					6
総計	107	40	75	33	60	25	16	10	11	3	380

Ⅲ. 転入前後の住宅に関するクロス集計

先述の転出クロスと同様に、住宅の所有関係と床面積をクロスさせることで、転入時の住居と転入先である戸田市での住居について、所有関係や床面積にどのような差異があるのかを明らかにしたい。

表 33 住宅所有関係・住宅床面積（移動前）クロス

	40～ 60 m ² 未満	20～ 40 m ² 未満	60～ 80 m ² 未満	80～ 100 m ² 未満	20 m ² 未満	100～ 120 m ² 未満	160 m ² 以上	140～ 160 m ² 未満	120～ 140 m ² 未満	総計
民間借家 (アパート等)	73	60	32	6	21	2	1	1	1	197
持家(一戸建) 給与住宅 (社宅等)	3	5	7	10		15	15	11	6	72
持家(分譲マ ンション)	13	8	9	4	8	1	1	1		45
公営住宅	5		11	6	1	3	1			27
民間借家 (一戸建)	8		7	2						17
親戚の家	2	1	1	1				1		6
間借り・下宿	1		1	2						4
学生寮	2						1			3
施設(病院等)		1					1			2
							1			1
総計	107	75	68	31	30	21	21	14	7	374

転入時の住居で最も多いのは、「民間借家（アパート等）」であり、床面積は「40～60 m²未満」が 73 票、「20～40 m²未満」が 60 票である。ついで、「持家（一戸建）」が総計で 72 票となっている。この「持家（一戸建）」の床面積は「160 m²以上」と「100～120 m²未満」が 15 票ずつで最多である。それに続いて、「給与住宅（社宅等）」が 45 票、「持家（分譲マンション）」が 27 票と続く。それよりも急減しているのが、「持家（一戸建）」であり、総計が 15 票となっている。その内訳として、最多であった床面積は「160 m²以上」の住宅は 2 票にまで落ち込んでいる。それに比して、急増しているのが、「持家（分譲マンション）」であり、総計で 100 票であり、その内訳の床面積は「60～80 m²未満」が 61 票、「80～100 m²未満」が 21 票となっている。

表 34 住宅所有関係・住宅床面積（移動後）クロス

	60～ 80 m ² 未満	40～ 60 m ² 未満	20～ 40 m ² 未満	80～ 100 m ² 未満	20 m ² 未満	100～ 120 m ² 未満	140～ 160 m ² 未満	160 m ² 以上	120～ 140 m ² 未満	総計
民間借家 (アパート等)	27	76	51	5	16	2			1	178
持家(分譲マン ション)	61	9	2	21		6	1			100
給与住宅 (社宅等)	18	6	11	2	16		1			54
持家 (一戸建)	1	2		4		4	1	2	1	15
公営住宅	5	3	2							10
親戚の家	2	1		1		1	1	1		7
民間借家 (一戸建)			2	2	1					5
学生寮		1	1							2
間借り・下宿 施設(病院等)	1				1					1
総計	115	98	69	35	34	13	4	3	2	373

それでは、転入前後の年齢階層と性別、住宅の所有関係をクロスする。

表 35 年齢・性別・住宅所有関係（移動前）クロス

	民間借家(ア パート等)		持家(一戸建)		給与住宅(社 宅等)		持家(分譲マン ション)		公営住宅		民間借家(一 戸建)		親戚の家		間借り・下宿		学生寮		施設(病院等)		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	男	男	男	男		
14歳以下	12	6			1			1													20
15～19歳		2	3	4				1	1	1	1										12
20～24歳	11	12	6	9		1	1	1			1		1	2				2			47
25～29歳	25	9	12	3	10	1	3	2	1	1	1				2						70
30～34歳	37	6	6	5	7	1	1		2	2	2	1			1						71
35～39歳	29	9	4	5	5				2												54
40～44歳	8	6	2	3	8	1	2	1													31
45～49歳	7		5	1	3		2	1	4	1											24
50～54歳	7		1		1		2				1										12
55～59歳	6	1	1	1	3		2	1			1		1								17
60～64歳	1		1	1	1	1		1	1												7
65～69歳	1		1	1				1													4
70～74歳							1														1
75歳以上		1	1	1			1	1												1	6
総計	144	52	43	34	39	5	15	11	11	5	6	1	1	3	3	3	2	2	1	1	376

表 36 年齢・性別・住宅所有関係（移動後）クロス

	民間借家(アパート等)		持家(分譲マンション)		給与住宅(社宅等)		持家(一戸建)		公営住宅		親戚の家		民間借家(二戸建)		施設(病院・等)		間借り・下宿		学生寮		総計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
14歳以下	7	3	4	4	1						1										20
15～19歳	2	4					2	1			1									1	11
20～24歳	13	14			8	8			1	1											45
25～29歳	31	11	8	3	12	1	1	2			1										70
30～34歳	23	8	21	6	6	1	2	2			1		1	1							72
35～39歳	18	6	11	3	5		2	3					2	1	1	1	1				53
40～44歳	7	3	7	3	6	1		2			1										30
45～49歳	7	1	9	1	2	1	2		1												24
50～54歳	7		3		2																12
55～59歳	4	4	8												1						17
60～64歳	2	2		1					2												7
65～69歳		1	1	1																	3
70～74歳			1																		1
75歳以上			2	2							1	1									6
総計	121	57	75	24	42	12	7	7	9	1	3	4	3	2	2		1		1		371

表 35 では、「持家（一戸建）」が総計で 77 票もあり、年齢階層別では、「20～24 歳」と「25～29 歳」がいずれも 15 票で最多であった。だが、20 代で戸建の持家を得ることは容易ではない。それも、表 33 でも示されたように「160 m²以上」の戸建を購入することは困難だろう。ここは一般的に考えて、いわゆる、「実家暮らし」をしており、「就職」や「結婚」、「転職」などのイベントで実家を離れ、戸田市で新たに住まうと考える方が自然であろう。その際に、戸田市における住まいとなるのが、表 36 にある「民間借家（アパート等）」であろう。「25～29 歳」では 42 票であり、最多である。また、さらに上の年齢階層で、「持家（分譲マンション）」への住み替えが進み、「30～34 歳」が 27 票、「35～39 歳」が 14 票と最もボリュームのある年齢階層となる。

以上をまとめると、20 代前半から半ば頃の年齢階層の社会集団が、戸田市に近接する埼玉県各都市（さいたま市、川口市、蕨市など）や東京都（北区、板橋区、練馬区など）から転入してくる。その際、多くは実家暮らしであり、埼玉県内の場合は特に「持家（一戸建）」が多い。その際の戸田市での住まいは、主に「民間借家（アパート等）」である。その後、5 年までの間でまた近接都県に転出する者もいて、他所で「持家（一戸建）」を購入する。あるいは、戸田市の生活が長くなるものは「持家（分譲マンション）」を市内に購入し住まうということになる。このように転出入が短期間に繰り返していく戸田市において、先述の「ハード面」での強みに加えた「ソフト面」での強みをどの年齢・社会階層に訴えかけていくのかが今後の鍵となる。

戸田市人口移動実態調査票 転出用

現住所	都道府県	市区町村	町丁目
前住所	戸田市		丁目

次の質問について、あてはまる番号を回答欄に記入して下さい。

I 移動前後の世帯構成等について

【回答欄】

問 1-1 移動前後の世帯の構成についてお尋ねします。	【移動前】	1. ひとり世帯	2. 夫婦のみ	3. 二世帯同居 (親と子ども)	4. 三世帯同居 (祖父母と親と子ども)	5. その他	
	【移動後】	1. ひとり世帯	2. 夫婦のみ	3. 二世帯同居 (親と子ども)	4. 三世帯同居 (祖父母と親と子ども)	5. その他	

II 移動の原因となった方について

【回答欄】

問 2-1 今回移動された方のうち、移動の最も大きな原因となった方はどなたですか。	1. 世帯主	2. 世帯主の親	3. 世帯主の子ども	4. 世帯主の配偶者	5. その他 ()		
以降の質問は問 2-1 で答えた方（移動の最も大きな原因となった方）についてお尋ねします。							
問 2-2 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の移動時の年齢についてお尋ねします。	1. 14 歳以下	2. 15～19 歳	3. 20～24 歳	4. 25～29 歳	5. 30～34 歳		
	6. 35～39 歳	7. 40～44 歳	8. 45～49 歳	9. 50～54 歳	10. 55～59 歳		
問 2-3 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の性別についてお尋ねします。	1. 男性	2. 女性					
問 2-4 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の職業についてお尋ねします。	1. 専門職（医師、弁護士、大学教授、僧侶等）		2. 管理職（官公庁や事業所の重役、部課長等）		3. 事務・技術職（一般事務員、公務員、技師、保育士、看護師等）		
	4. サービス業従事者		5. 販売・生産・労務職（店員、工員、職人、運転手、作業員など）		6. 農林水産業従事者		
	7. パート従事者		8. 学生		9. 自営業		
	10. 家事に専念している主婦		11. 無職		12. その他（)		
問 2-5 問 2-4 で 1～8 と答えた方にお尋ねします。 現在の通勤・通学場所について記入して下さい。	<input type="text"/>		都道府県	<input type="text"/>		市区町村	
問 2-6 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方は、戸田市には何年お住まいでしたか。	1. 1 年未満	2. 1～3 年未満	3. 3～5 年未満	4. 5～10 年未満	5. 10～20 年未満	6. 20 年以上	
問 2-7 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方は、現在お住まいの市区町村には以前にも住んでいたことがありますか。	1. 初めて		2. 住んでいたことがある				
問 2-8 問 2-7 で「2. 住んでいたことがある」と答えた方に伺います。以前には何年お住まいでしたか。	1. 1 年未満	2. 1～3 年未満	3. 3～5 年未満	4. 5～10 年未満	5. 10～20 年未満	6. 20 年以上	

III 移動理由について

【回答欄】

問 3-1 移動のきっかけとなった理由を下記（1～18）の中から選んで番号を記入して下さい。 ※第 2 理由についてはある方のみで結構です。							第 1 理由 <input type="text"/>
学業上の理由	1. 入学・進学						第 2 理由 <input type="text"/>
職業上の理由	2. 就職 3. 転職 4. 転勤 5. 家業継承 6. 定年退職						
住宅を主とする理由	7. 住宅事情 8. 生活環境上の理由 9. 通勤通学の利便性						
親・子との同居・近居	10. 親と同居 11. 親と近居 12. 子と同居 13. 子と近居						
結婚・離婚	14. 結婚 15. 離婚						
その他	16. 子育て環境上の理由 17. 健康上の理由 18. 親等の介護 19. その他（)						

IV 居住地選択の理由について

【回答欄】

<p>問4-1 居住地として現在お住まいの市区町村を選択した理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。</p>	<p>第1理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>第2理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>1. 通勤・通学が便利であるから 4. 広域的な公共交通の利便性が高いから 7. 子育て環境が充実しているから 10. 医療・福祉が充実しているから 13. スポーツをする場が豊富であるから 16. 就業の場が豊富であるから 19. あらかじめ住居が用意されていたから</p> <p>2. 買い物等日常生活が便利だから 5. 市内公共交通の利便性が高いから 8. 高等教育機関が充実しているから 11. 自然災害が少ないから 14. 文化施設が充実しているから 17. 生まれ育ったところだから 20. その他 ()</p> <p>3. 道路事情がよいから 6. 良好な住環境が整備されているから 9. 治安がよいから 12. 公園や自然環境が豊かであるから 15. 中心市街地に活気があるから 18. 親等親族の居住地から近いから</p>	

V 現在お住まいの市区町村への定住意向について

【回答欄】

<p>問5-1 現在お住まいの市区町村には、今後も住み続けたいと思えますか。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。</p>	
<p>1. ぜひ住み続けたい 4. ぜひ他の市区町村に移りたい</p> <p>2. できれば住み続けたい 5. わからない</p> <p>3. できれば他の市区町村に移りたい</p>	

VI 戸田市への帰還意向等について

【回答欄】

<p>問6-1 機会があれば戸田市に戻りたいと思えますか。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。</p>	
<p>1. ぜひ戻りたい 2. どちらかといえば戻りたい 3. どちらかといえば戻りたくない 4. 戻りたくない</p>	
<p>問6-2 問6-1で「1. ぜひ戻りたい」又は「2. どちらかといえば戻りたい」と答えた方に、その理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。</p>	<p>第1理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>第2理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>問6-3 問6-1で「3. どちらかといえば戻りたくない」又は「4. 戻りたくない」と答えた方に、その理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、該当する番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。</p>	<p>第1理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>第2理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>1. 通勤・通学が不便であるから 4. 広域的な公共交通の利便性が低いから 7. 子育て環境が充実していないから 10. 医療・福祉が充実していないから 13. スポーツをする場が豊富でないから 16. 就業の場が少ないから 19. 他に住む住居が用意されているから</p> <p>2. 買い物等日常生活が不便だから 5. 市内公共交通の利便性が低いから 8. 高等教育機関が充実していないから 11. 防災面での強化、充実が図られていないから 14. 文化施設が充実していないから 17. 生まれ育ったところではないから 20. その他 ()</p> <p>3. 道路事情が悪いから 6. 良好な住環境が整備されていないから 9. 治安が悪いから 12. 公園や自然環境が豊かでないから 15. 中心市街地に活気がないから 18. 親等親族の居住地から遠いから</p>	

VII 移動前後の住宅の所有関係等について

【回答欄】

<p>問7-1 住宅の所有関係についてお尋ねします。あてはまる番号を回答欄に記入して下さい。</p>	<p>移動前</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>移動後</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>1. 持家(一戸建) 4. 民間の借家(一戸建) 7. 学生寮 10. 親戚の家</p> <p>2. 持家(分譲マンション) 5. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等) 8. 間借り・下宿 11. その他 ()</p> <p>3. 公営住宅(公団・公社・市県営住宅等) 6. 給与住宅(社宅・官舎・家族寮・独身寮等) 9. 施設(病院・福祉施設等)</p>	
<p>問7-2 住宅の床面積についてお尋ねします。あてはまる番号を回答欄に記入して下さい。</p>	<p>移動前</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>移動後</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>1. 20㎡未満 6. 100~120㎡未満</p> <p>2. 20~40㎡未満 7. 120~140㎡未満</p> <p>3. 40~60㎡未満 8. 140~160㎡未満</p> <p>4. 60~80㎡未満 9. 160㎡以上</p> <p>5. 80~100㎡未満</p> <p>※居室の床面積のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れ等を含めてください。但し、営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください。 ※床面積は1坪(2畳)を3.3㎡に換算してください。</p>	

ご協力頂き、ありがとうございました。

戸田市人口移動実態調査票 転入用

現住所	戸田市 丁目
前住所	都道府県 市区町村 丁目

次の質問について、あてはまる番号を回答欄に記入して下さい。

I 移動前後の世帯構成等について

【回答欄】

問 1-1 移動前後の世帯の構成についてお尋ねします。	【移動前】	1. ひとり世帯	2. 夫婦のみ	3. 二世帯同居 (親と子ども)	4. 三世帯同居 (祖父母と親と子ども)	5. その他	
	【移動後】	1. ひとり世帯	2. 夫婦のみ	3. 二世帯同居 (親と子ども)	4. 三世帯同居 (祖父母と親と子ども)	5. その他	

II 移動の原因となった方について

【回答欄】

問 2-1 今回移動された方のうち、移動の最も大きな原因となった方はどなたですか。	1. 世帯主 2. 世帯主の親 3. 世帯主の子ども 4. 世帯主の配偶者 5. その他 ()	
以降の質問は問 2-1 で答えられた方（移動の最も大きな原因となった方）についてお尋ねします。		
問 2-2 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の移動時の年齢についてお尋ねします。	1. 14 歳以下 2. 15～19 歳 3. 20～24 歳 4. 25～29 歳 5. 30～34 歳 6. 35～39 歳 7. 40～44 歳 8. 45～49 歳 9. 50～54 歳 10. 55～59 歳 11. 60～64 歳 12. 65～69 歳 13. 70～74 歳 14. 75 歳以上	
問 2-3 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の性別についてお尋ねします。	1. 男性 2. 女性	
問 2-4 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方の職業についてお尋ねします。	1. 専門職（医師、弁護士、大学教授、僧侶等） 2. 管理職（官公庁や事業所の重役、部課長等） 3. 事務・技術職（一般事務員、公務員、技師、保育士、看護師等） 4. サービス業従事者 5. 販売・生産・労務職（店員、工員、職人、運転手、作業員など） 6. 農林水産業従事者 7. パート従事者 8. 学生 9. 自営業 10. 家事に専念している主婦 11. 無職 12. その他（)	
問 2-5 問 2-4 で 1～8 と答えた方にお尋ねします。 現在の通勤・通学場所について記入して下さい。	<div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 30px; display: inline-block;"></div> 都道府県 <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 30px; display: inline-block;"></div> 市区町村	
問 2-6 問 2-1 で移動の最も大きな原因となった方は、以前戸田市に住んでいたことがありますか。	1. 初めて 2. 住んでいたことがある	
問 2-7 問 2-6 で「2. 住んでいたことがある」と答えた方に伺います。戸田市には何年お住まいでしたか。	1. 1 年未満 2. 1～3 年未満 3. 3～5 年未満 4. 5～10 年未満 5. 10～20 年未満 6. 20 年以上	
問 2-8 転勤等により、今後概ね 5 年以内に戸田市から転出する可能性がありますか。	1. はい 2. いいえ	

III 移動理由について

【回答欄】

問 3-1 移動のきっかけとなった理由を下記（1～18）の中から選んで当てはまる番号を記入して下さい。 ※第 2 理由についてはある方のみで結構です。	
学業上の理由	1. 入学・進学
職業上の理由	2. 就職 3. 転職 4. 転勤 5. 家業継承 6. 定年退職
住宅を主とする理由	7. 住宅事情 8. 生活環境上の理由 9. 通勤通学の利便性
親・子との同居・近居	10. 親と同居 11. 親と近居 12. 子と同居 13. 子と近居
結婚・離婚	14. 結婚 15. 離婚
その他	16. 子育て環境上の理由 17. 健康上の理由 18. 親等の介護 19. その他（)
	<div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 30px; display: inline-block;"></div> 第 1 理由 <div style="border: 1px solid black; width: 60px; height: 30px; display: inline-block;"></div> 第 2 理由

IV 居住地選択の候補地について

【回答欄】

問 4-1 現在のご住所を決めるにあたり、現住所以外にどこか他の地域も探しましたか。	1. 探した 2. 探さない	
問 4-2 問 4-1 で「1. 探した」と答えた方に伺います。当てはまる番号を各 1 つだけ記入して下さい。		
(市外で)	1. 板橋区 2. 東京都北区 3. 新宿区 4. 練馬区 5. 豊島区 6. 川口市 7. さいたま市南区 8. 蕨市 9. さいたま市桜区 10. その他（) 11. 市外では探していない	
(市内で)	1. 喜沢 2. 中町 3. 下戸田 4. 喜沢南 5. 下前 6. 川岸 7. 上戸田 8. 大字上戸田 9. 本町 10. 南町 11. 戸田公園 12. 大字新曾 13. 新曾南 14. 氷川町 15. 大字下笹目 16. 笹目南町 17. 笹目北町 18. 早瀬 19. 笹目 20. 美女木 21. 美女木東 22. 大字美女木 23. 市内では探していない	

V 居住地選択の理由について

【回答欄】

<p>問 5-1 戸田市に居住地を決めた理由をお尋ねします。 次の項目(1~20)から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。</p> <p>1. 通勤・通学が便利であるから 4. 広域的な公共交通の利便性が高いから 7. 子育て環境が充実しているから 10. 医療・福祉が充実しているから 13. スポーツをする場が豊富であるから 16. 就業の場が豊富であるから 19. あらかじめ住居が用意されていたから</p> <p>2. 買い物等日常生活が便利だから 5. 市内公共交通の利便性が高いから 8. 高等教育機関が充実しているから 11. 自然災害が少ないから 14. 文化施設が充実しているから 17. 生まれ育ったところだから 20. その他 ()</p> <p>3. 道路事情がよいから 6. 良好な住環境が整備されているから 9. 治安がよいから 12. 公園や自然環境が豊かであるから 15. 中心市街地に活気があるから 18. 親等親族の居住地から近いから</p>	<p>第1理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>第2理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
--	---

<p>問 5-2 戸田市の中で、現在お住まいの住所地(町丁目)に決めた理由をお尋ねします。 次の項目(1~23)から2つ選び、当てはまる番号を優先順位の高いものから回答欄に記入して下さい。</p>	<p>第1理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>第2理由</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>① 日常生活の利便性</p> <p>1. 職場や学校に近いから 2. 公共交通の利便性が高いから 3. 幹線道路や高速道路へのアクセスがよいから 4. 商店や金融機関が近くにあり、買い物等日常生活が便利だから</p>	
<p>② 住宅事情</p> <p>5. 取得価格、家賃が適当であったから 6. 日照等立地条件がよいから 7. 広さが適当であったから 8. 防火設備や耐震強度が十分であったから</p>	
<p>③ 養育・教育環境</p> <p>9. 幼稚園、保育所等が近くにあるから 10. 通学区域となる小学校・中学校の教育環境がよいから</p>	
<p>④ 医療・福祉・防災</p> <p>11. 医療機関、福祉施設が近くにあるから 12. 学校施設等災害や緊急時への避難場所が近くにあるから</p>	
<p>⑤ 景観・自然環境</p> <p>13. 公園などが近くにあるから 14. 山や川・里山等身近に自然があるから 15. 周辺の街並み、景観がよいから</p>	
<p>⑥ 余暇活動・趣味</p> <p>16. 健康・スポーツ施設が近くにあるから 17. 美術館等文化施設が近くにあるから 18. 娯楽施設が近くにあるから</p>	
<p>⑦ その他</p> <p>19. あらかじめ住居が用意されていたから(社宅・寮・家族の元へ同居等) 20. 近隣住民のコミュニケーションが良好であるから 21. 生まれ育ったところだから 22. 特に理由はない 23. その他 ()</p>	

VI 戸田市への定住意向について

【回答欄】

<p>問 6-1 今後も戸田市に住み続けたいと思いますか。当てはまる番号を回答欄に記入してください。</p> <p>1. ぜひ戸田市に住み続けたい 4. ぜひ他の市区町村に移りたい</p> <p>2. できれば戸田市に住み続けたい 5. わからない</p> <p>3. できれば他の市区町村に移りたい</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>
--	---

VII 移動前後の住宅の所有関係等について

【回答欄】

<p>問 7-1 住宅の所有関係についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。</p> <p>1. 持家(一戸建) 4. 民間の借家(一戸建) 7. 学生寮 10. 親戚の家</p> <p>2. 持家(分譲マンション) 5. 民間の借家(アパート・賃貸マンション等) 8. 間借り・下宿 11. その他 ()</p> <p>3. 公営住宅(公団・公社・市県営住宅等) 6. 給与住宅(社宅・官舎・家族寮・独身寮等) 9. 施設(病院・福祉施設等)</p>	<p>移動前</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>移動後</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div>
<p>問 7-2 住宅の床面積についてお尋ねします。当てはまる番号を回答欄に記入して下さい。</p> <p>1. 20㎡未満 6. 100~120㎡未満</p> <p>2. 20~40㎡未満 7. 120~140㎡未満</p> <p>3. 40~60㎡未満 8. 140~160㎡未満</p> <p>4. 60~80㎡未満 9. 160㎡以上</p> <p>5. 80~100㎡未満</p> <p>※居室の床面積のほか、玄関・台所・トイレ・浴室・廊下・押入れ等を含めてください。但し、営業用の部分及び他の世帯が使っている部分は除いてください。 ※床面積は1坪(2畳)を3.3㎡に換算してください。</p>	<p>移動前</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div> <p>移動後</p> <div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 30px; margin: 5px;"></div>

ご協力頂き、ありがとうございました。